

授 業 計 画

平成 28 年度

Syllabus 2016

経済情報学部 経済情報学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の十七条憲法に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

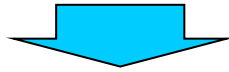
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

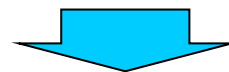


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

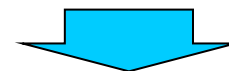


経済情報学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



経済情報学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

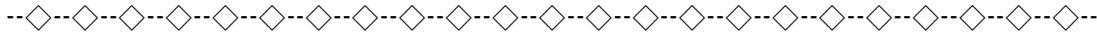
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

DPに定められた能力を身につけて卒業します。

経済情報学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・経済情報学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。</p>	<p>・経済情報学部では、経済社会で起こる変化や様々な問題に対応し、生きていくために必要となる確かな力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・経済情報学部では、豊かな教養を身につけ、経済と情報の分野において学んだ知識や技術を活用し、社会で力強く生きていく志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



3つの方針（ポリシー）について

アドミッション
ポリシー

・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。

カリキュラム
ポリシー

・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。

ディプロマ
ポリシー

・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

経済情報学科ポリシー

経済情報学科は、学部ポリシーに基づき、社会に対する知性と洞察力を鍛えるとともに、経済学への深い理解、情報理論とその活用力を習得し、社会の諸問題を積極的に発見、分析、解決し、社会の発展に寄与できる人を育てることを目指します。

アドミッション ポリシー

・経済情報学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 学ぶことの意味を理解し、自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 社会に向けて主体的に行動できる人
3. 経済と情報に対する好奇心が旺盛な人

カリキュラム ポリシー

・経済情報学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 自ら学ぶ意味を考え、自ら学ぶ方法を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多様なものの見方や考え方を身につける
3. 経済の仕組みや経営に関わる専門知識を学び、経済問題を深く考察できる力を身につける
4. 情報理論に関する知識や技術を学び、社会で活用できる力を身につける
5. 自らと社会とのかかわりや働くことの意味について理解を深め、生涯にわたって学習し続ける意欲を身につける

ディプロマ ポリシー

・経済情報学部のポリシーに基づき、卒業までに次の力を身につけた人に学士(経済情報)の学位を授与します。

1. 自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力
2. 経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力
3. 学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会貢献できる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

経済情報学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成27、26、25年度入学者)

授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー						
		1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力						
		A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
教養科目	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	芸術			◎		○		
	心理学			◎	○			○
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	化学			○			◎	
	生物学			○			◎	
	食と健康	○				○	◎	
	実用英語(初級)	◎				○		
実用英語(中級)	◎				○			
中国語(初級)	◎				○			
中国語(中級)	◎				○			
韓国語(初級)	◎				○			
韓国語(中級)	◎				○			
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○	
健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎		
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎		
私のためのキャリア設計	○		○	◎			○	

経済情報学科カリキュラムマップ(平成27、平成26年度入学者)

【経済情報学部ディプロマポリシー】 豊かな教養を身につけ、経済と情報の分野において学んだ知識や技術を活用し、社会で力強く生きていく志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		経済情報学科ディプロマポリシー														
		1					2					3				
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5		
多様なもの の見方、考え方	主体的に学 び考える力	コミュニケー ション力	プレゼン テーション力	論理的 思考力	問題発見 力・分析力	経済学的 思考力	システ ムの思考 力	ビジネス 基礎力	情報処理 能力	キャリア 形成力	社会の動き をみる力	経済学の知 識の応用	経営学の知 識の応用	情報処理の 知識の応用		
演習科目	基礎演習A		○	○		○										
	基礎演習B		○	○		○										
	発展演習 I		○	○		○										
	発展演習 II		○	○		○										
	専門演習 I		○	○	○	○										
	専門演習 II		○	○	○	○										
	卒業演習 I		○	○	○	○										
	卒業演習 II		○	○	○	○										
	卒業研究		○	○	○	○										
	コース共通科目	経済ビジネス入門	◎				○	○		○						
情報科学入門						○		○		◎					○	
基礎数学A						◎	○		○							
アプリケーションソフト					○	○			○	◎					○	
プレゼンテーションA				○	◎	○			○		○					
プレゼンテーションB		○		○	◎	○			○		○					
日本社会論		○	◎			○							○			
現代経済社会論A		○					○				○	◎				
現代経済社会論B		○					○		○		○	◎				
簿記演習 I						◎		○			○	○				
経済学入門			○			○		◎				○				
経営学入門			○						◎		○	○				
民法						◎			○			○				
グラフィックス			◎		○										○	
ウェブデザイン			○		◎	○	○					○			○	
基礎数学B						◎	○		○	○						
経済数学A						◎	○	○	○	○	○	○				
経済数学B						◎	○	○	○	○	○	○				
統計学		◎								○					○	
社会経済史		○	○			○	◎	○					○	○		
現代思想論		◎	○			○	○					○				
現代社会文化論		○	◎			○	○					○				
国際政治学		○				○	○					◎				
国際社会論		◎				○	○					○				
行政学 I		○	○				◎					○	○			
行政学 II		○	○				◎					○	○			
マスメディア論		○		○	○		○					◎				
比較文化論		◎	○			○	○		○			○	○			
情報社会論		○				○	◎					○				
いなみ野ため池学		○	○	○			◎					○				
いなみ野まちおこし学		○	○	○			◎	○				○	○			
メディアと政治		○	○		○		○									
フィールドワーク		○	◎	○	○	○	○					○				
インターンシップ		○		○						○		◎				
経済情報特論A																
経済情報特論B																
経済情報特論C																
経済情報特論D																
経済情報特論E																
経済情報特論F																
経済情報特論G																
経済情報特論H																

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		経済情報学科ディプロマポリシー														
授業 科目 区分	授業科目名	1					2					3				
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		多様なものの見方、考え方	主体的に学び考える力	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	論理的思考力	問題発見力・分析力	経済学的思考力	システムの思考力	ビジネス基礎力	情報処理能力	キャリア形成力	社会の動きをみる力	経済学の知識の応用	経営学の知識の応用	情報処理の知識の応用
経済 コー ス 専 修 科 目	ミクロ経済学		○			○	○	◎								
	マクロ経済学		○			○	○	◎								
	経営学総論						○			◎		○	○		○	
	簿記演習Ⅱ					○			○	◎		○	○			
	工業簿記					○			○	◎		○	○			
	簿記論					○			◎	○		○	○			
	会計学入門									○		○	◎			
	会計学									○		○	○			◎
	会社法									○			◎			
	金融論					○			◎				○	○		
	財政学Ⅰ					○			○				◎	○		
	財政学Ⅱ					○	◎		○				○	○		
	産業組織論Ⅰ					○	○		○				○	◎		
	産業組織論Ⅱ		○						○		○		◎			
	国際経済事情	○					○		○				◎			
	環境経済論A	○	○				◎		○			○	○			
	環境経済論B		○		○		○		○			○	◎			
	地域経済論Ⅰ	○	○			○	◎		○			○	○	○		
	地域経済論Ⅱ	○	○			○	○		○			○	◎	○		
	社会政策Ⅰ	○				○	○						◎			
	社会政策Ⅱ	○				○	◎						○			
	証券市場論					○			○			○	◎			
	経営戦略論Ⅰ						○						○			◎
	経営戦略論Ⅱ						○						○			◎
	財務諸表論Ⅰ										○		◎			○
	財務諸表論Ⅱ										○		○			◎
	情報会計論Ⅰ										○		◎			○
	情報会計論Ⅱ										○		○			◎
	労働経済論	○					○		○	○			○	◎		
	経済政策						○		○				◎	○		
職業指導	○											◎	○			
経済ビジネス特論A																
経済ビジネス特論B																
情報 コー ス 専 修 科 目	情報数理					◎			○		○					○
	プログラミングⅠ		○			◎	○		○		○					○
	プログラミングⅡ		○			◎	○		○		○					○
	情報システム学					○			◎		○		○		○	○
	組み合わせ理論					◎	○		○							
	コンピュータ基礎論					○					◎					○
	プログラミング入門		○			◎	○		○							○
	オペレーティングシステム					○						◎				○
	情報ネットワーク					○			◎		○					○
	アルゴリズム					◎	○		○		○					○
	情報デザイン	◎				○	○		○	○	○					○
	オートマトン					◎			○		○					○
	情報セキュリティ					○			◎		○		○			○
	データベースⅠ					○	◎		○		○					○
	データベースⅡ					○	○		○		○					◎
	オペレーションズ・リサーチ						◎		○	○		○				○
	情報数学A					◎	○		○	○		○	○			
	情報数学B					◎	○		○	○		○	○			
	応用プログラミングA		○			○	○		○							◎
	応用プログラミングB		○			○	○		○							◎
	ソフトウェア設計論	◎				○	○		○		○					○
	情報検索論	○								○	◎					
	情報倫理	○				○	○						◎			
情報管理論					○			○		○	○	◎			○	
情報システム特論A					○					◎						
情報システム特論B					○					◎						

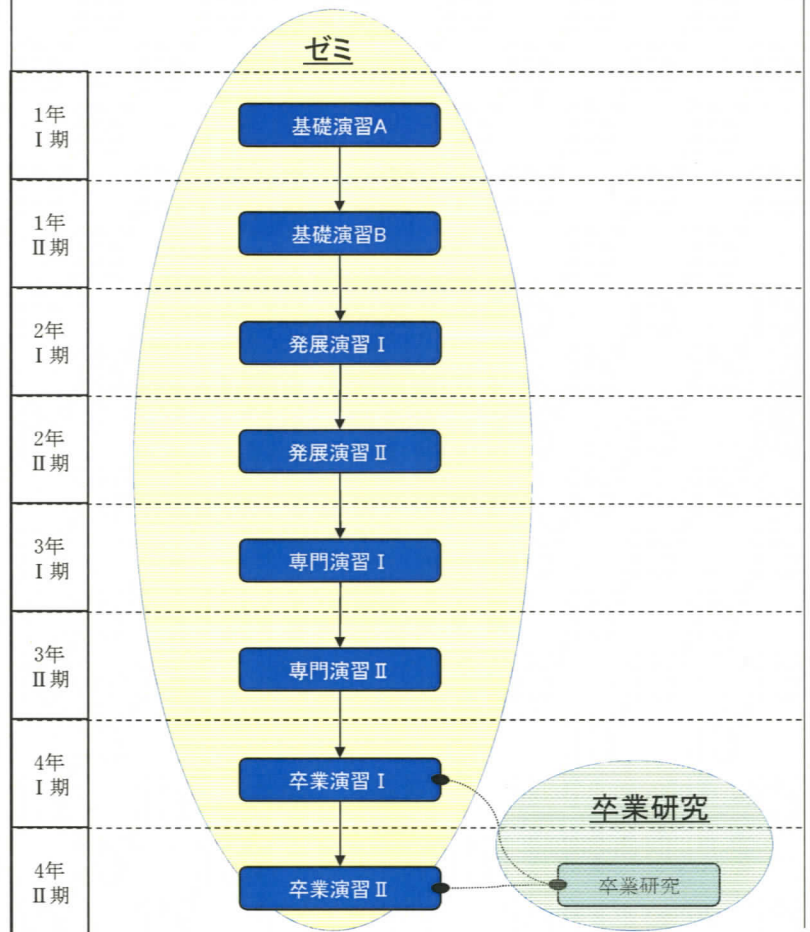
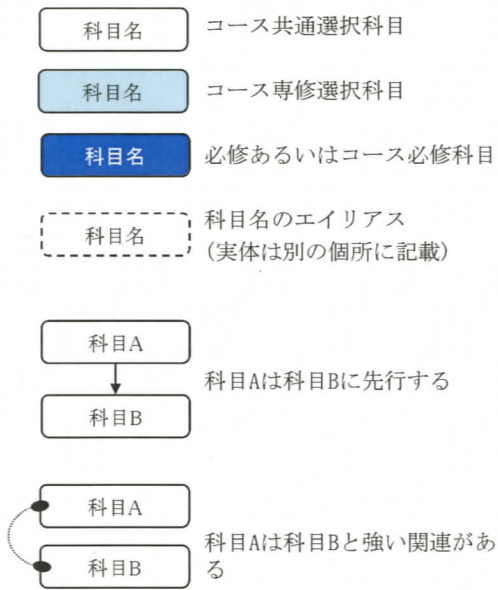
経済情報学科カリキュラムマップ(平成25年度入学者)

【経済情報学部ディプロマポリシー】 豊かな教養を身につけ、経済と情報の分野において学んだ知識や技術を活用し、社会で力強く生きていく志をもつ人に、学士の学位を授与します。																
授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		経済情報学科ディプロマポリシー														
		1					2					3				
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
	多様なものの 見方、考え方	主体的に学 び考える力	コミュニケー ション力	プレゼンテー ション力	論理的 思考力	問題発見力・ 分析力	経済学的 思考力	システムの 思考力	ビジネス 基礎力	情報処理 能力	キャリア 形成力	社会の動き をみる力	経済学の知 識の応用	経営学の知 識の応用	情報処理の 知識の応用	
演習科目	基礎演習A		○	○		○	○									
	基礎演習B		○	○		○	○									
	発展演習 I		○	○		○	○									
	発展演習 II		○	○		○	○									
	専門演習 I		○	○	○	○	○									
	専門演習 II		○	○	○	○	○									
	卒業演習 I		○	○	○	○	○									
	卒業演習 II		○	○	○	○	○									
卒業研究		○	○	○	○	○										
コース共通科目	経済ビジネス入門	◎					○	○		○						
	情報科学入門					○			○	◎					○	
	基礎数学A					◎	○		○							
	アプリケーションソフト				○	○	○		○	◎					○	
	プレゼンテーションA			○	◎	○	○		○		○					
	プレゼンテーションB	○		○	◎	○	○		○		○					
	日本社会論	○	◎			○	○						○			
	現代経済社会論A	○						○				○	◎			
	現代経済社会論B	○						○		○		○	◎			
	簿記演習 I					◎			○			○	○			
	経済学入門		○			○			◎				○			
	経営学入門		○							◎		○	○			
	民法					◎				○			○			
	グラフィックス		◎		○										○	
	ウェブデザイン		○		◎	○	○						○		○	
	基礎数学B					◎	○		○	○						
	経済数学A					◎	○	○	○	○		○	○			
	経済数学B					◎	○	○	○	○		○	○			
	統計学	◎									○					○
	社会経済史	○	○			○	◎	○					○	○		
	現代思想論	◎	○			○	○						○			
	現代社会文化論	○	◎			○	○						○	○		
	国際政治学	○					○						◎			
	国際社会論	◎					○						○			
	行政学 I	○	○				◎						○	○		
	行政学 II	○	○				◎						○	○		
	マスメディア論	○		○	○								◎			
	比較文化論	◎	○			○	○		○				○	○		
	情報社会論	○				○	◎						○			
	いなみ野ため池学	○	○	○			◎						○			
	いなみ野まちおこし学	○	○	○			◎	○					○	○		
	フィールドワーク	○	◎	○	○	○	○						○			
インターンシップ	○		○						○		◎					
経済情報特論A																
経済情報特論B																
経済情報特論C																
経済情報特論D																
経済情報特論E																
経済情報特論F																
経済情報特論G																
経済情報特論H																

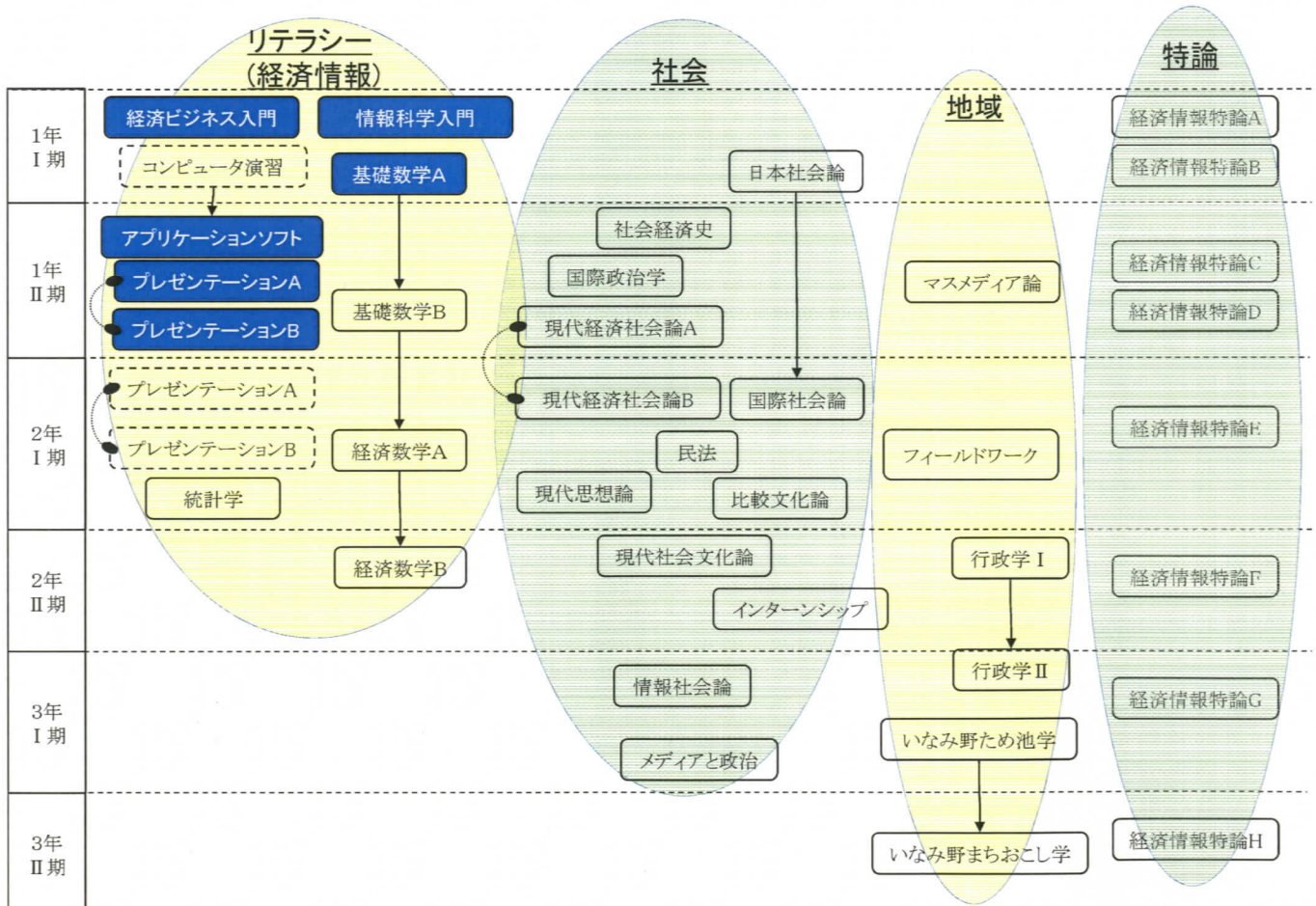
業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○													
		経済情報学科ディプロマポリシー													
		1					2					3			
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心を持ち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力			
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
多様なものの見方、考え方	主体的に学び考える力	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	論理的思考力	問題発見力・分析力	経済学的思考力	システマ的思考力	ビジネス基礎力	情報処理能力	キャリア形成力	社会の動きをみる力	経済学の知識の応用	経営学の知識の応用	情報処理の知識の応用	
経済 コ ー ス 専 修 科 目	ミクロ経済学		○			○	◎								
	マクロ経済学		○			○	◎								
	経営学総論					○			◎		○	○		○	
	簿記演習Ⅱ					○		○	◎		○	○			
	工業簿記					○		○	◎		○	○			
	簿記論					○			◎	○	○	○			
	会計学入門								○		○	◎			
	会計学								○		○	○		◎	
	会社法								○			◎			
	金融論					○		◎				○	○		
	財政学Ⅰ					○		○				◎	○		
	財政学Ⅱ					○	◎	○				○	○		
	産業組織論Ⅰ					○	○	○				○	◎		
	産業組織論Ⅱ		○					○		○		◎			
	国際経済事情	○					○	○				◎			
	環境経済論A	○	○				◎	○			○	○			
	環境経済論B		○		○		○	○			○	◎			
	地域経済論Ⅰ	○	○			○	◎	○			○	○	○		
	地域経済論Ⅱ	○	○			○	○	○			○	◎	○		
	社会政策Ⅰ	○				○	○					◎			
	社会政策Ⅱ	○				○	◎					○			
	証券市場論					○		○			○	◎			
	経営戦略論Ⅰ						○					○		◎	
	経営戦略論Ⅱ						○					○		◎	
	財務諸表論Ⅰ								○		◎			○	
	財務諸表論Ⅱ								○		○			◎	
	情報会計論Ⅰ								○		◎			○	
	情報会計論Ⅱ								○		○			◎	
	労働経済論	○					○	○	○			○	◎		
	経済政策						○	○				◎	○		
職業指導	○									◎	○				
経済ビジネス特論A															
経済ビジネス特論B															
情報 コ ー ス 専 修 科 目	情報数理					◎		○		○				○	
	プログラミングⅠ		○			◎	○	○		○				○	
	プログラミングⅡ		○			◎	○	○		○				○	
	情報システム学					○		◎		○		○		○	
	組合せ理論					◎	○	○							
	コンピュータ基礎論					○				◎				○	
	プログラミング入門		○			◎	○	○						○	
	オペレーティングシステム					○				◎				○	
	情報ネットワーク					○		◎		○				○	
	アルゴリズム					◎	○	○		○				○	
	情報デザイン	◎				○	○	○	○	○				○	
	オートマトン					◎		○		○				○	
	情報セキュリティ					○		◎		○		○		○	
	データベースⅠ					○	◎	○		○				○	
	データベースⅡ					○	○	○		○				◎	
	オペレーションズリサーチ						◎	○	○		○			○	
	情報数学A					◎	○	○	○		○	○			
	情報数学B					◎	○	○	○		○	○			
	応用プログラミングA		○			○	○	○						◎	
	応用プログラミングB		○			○	○	○						◎	
	ソフトウェア設計論	◎				○	○	○		○				○	
	情報検索論	○							○	◎					
情報倫理	○				○	○					◎				
情報管理論					○		○		○	○	◎			○	
情報システム特論A					○				◎						
情報システム特論B					○				◎						

カリキュラム体系表:演習科目

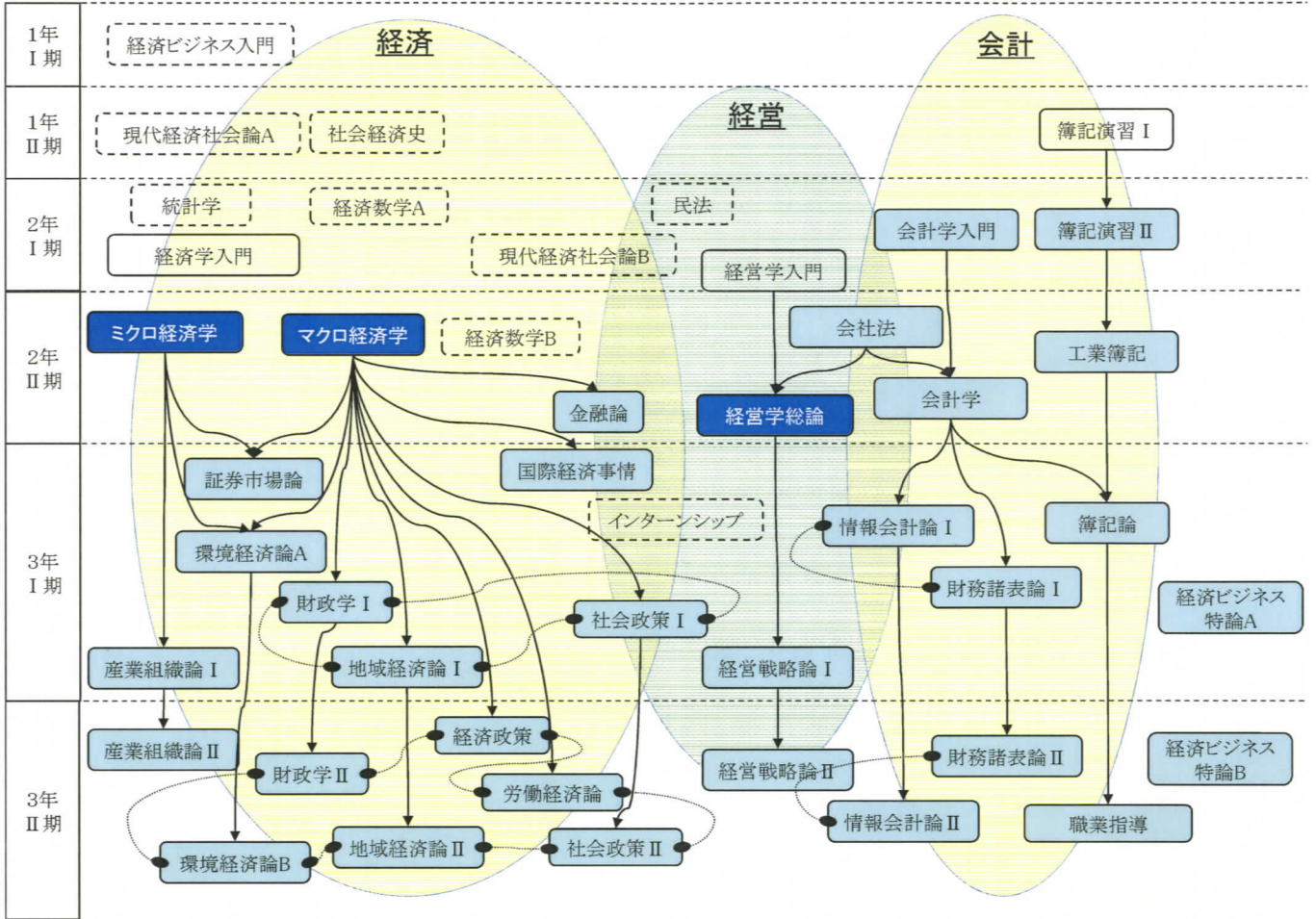
体系表の凡例



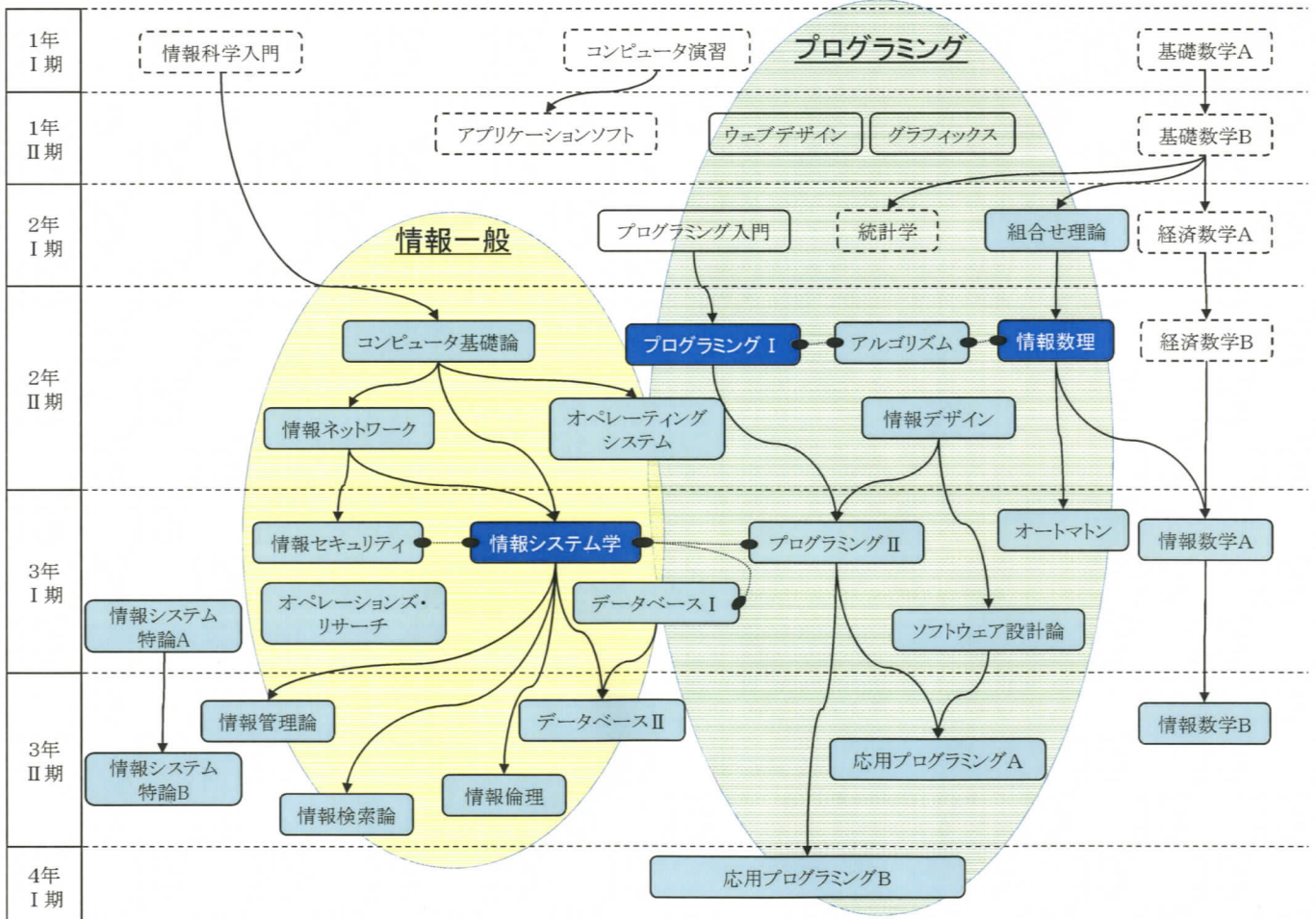
カリキュラム体系表:コース共通科目



カリキュラム体系表: 経済コース科目



カリキュラム体系表: 情報コース科目



シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1				2				3						
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力				経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力						
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
多岐にわたるものの見方、考え方を考える力	主体的に学び考える力	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	論理力	問題発見力	経済学的思考力	システマ的思考力	ビジネス基礎力	キャリア形成力	キャリア形成力	社会の働きを知る力	経済学の知識の応用	経営学の知識の応用	情報処理の応用
○				○					○					

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用される図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

<ナンバリングとは？>

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル(難易度)や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

<ナンバリングの見方>

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。そのナンバーは次の基準等により設定しています。

(基礎・教養科目、専門教育科目)

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

詳細①：学科

E	経済情報学科
---	--------

詳細②③④：科目の位置づけ

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="2" style="text-align: center;">②</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">S</td><td style="text-align: center;">演習科目</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">C</td><td style="text-align: center;">コース 共通科目</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">E</td><td style="text-align: center;">経済コース科目</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">I</td><td style="text-align: center;">情報コース科目</td></tr> </tbody> </table>	②		S	演習科目	C	コース 共通科目	E	経済コース科目	I	情報コース科目	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="2" style="text-align: center;">③</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">Z</td><td style="text-align: center;">ゼミ</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">R</td><td style="text-align: center;">卒業研究</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">L</td><td style="text-align: center;">リテラシ</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">S</td><td style="text-align: center;">社会</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">R</td><td style="text-align: center;">地域</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">P</td><td style="text-align: center;">特論</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">E</td><td style="text-align: center;">経済</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">B</td><td style="text-align: center;">経営</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">A</td><td style="text-align: center;">会計</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">T</td><td style="text-align: center;">その他</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">G</td><td style="text-align: center;">情報一般</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">P</td><td style="text-align: center;">プログラミング</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">T</td><td style="text-align: center;">その他</td></tr> </tbody> </table>	③		Z	ゼミ	R	卒業研究	L	リテラシ	S	社会	R	地域	P	特論	E	経済	B	経営	A	会計	T	その他	G	情報一般	P	プログラミング	T	その他	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="2" style="text-align: center;">④</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">L</td><td style="text-align: center;">講義</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">S</td><td style="text-align: center;">演習</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">P</td><td style="text-align: center;">実技</td></tr> </tbody> </table>	④		L	講義	S	演習	P	実技
②																																																
S	演習科目																																															
C	コース 共通科目																																															
E	経済コース科目																																															
I	情報コース科目																																															
③																																																
Z	ゼミ																																															
R	卒業研究																																															
L	リテラシ																																															
S	社会																																															
R	地域																																															
P	特論																																															
E	経済																																															
B	経営																																															
A	会計																																															
T	その他																																															
G	情報一般																																															
P	プログラミング																																															
T	その他																																															
④																																																
L	講義																																															
S	演習																																															
P	実技																																															

詳細②③④：科目の位置づけ (基礎・教養科目)

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="3" style="text-align: center;">② ③</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">B</td><td style="text-align: center;">A</td><td style="text-align: center;">基礎科目</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">H</td><td style="text-align: center;">U</td><td style="text-align: center;">教養科目 (人文)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">S</td><td style="text-align: center;">O</td><td style="text-align: center;">教養科目 (社会)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">N</td><td style="text-align: center;">A</td><td style="text-align: center;">教養科目 (自然)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">L</td><td style="text-align: center;">A</td><td style="text-align: center;">教養科目 (語学)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">P</td><td style="text-align: center;">H</td><td style="text-align: center;">教養科目 (体育)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">C</td><td style="text-align: center;">A</td><td style="text-align: center;">教養科目 (キャリア)</td></tr> </tbody> </table>	② ③			B	A	基礎科目	H	U	教養科目 (人文)	S	O	教養科目 (社会)	N	A	教養科目 (自然)	L	A	教養科目 (語学)	P	H	教養科目 (体育)	C	A	教養科目 (キャリア)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="2" style="text-align: center;">④</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">L</td><td style="text-align: center;">講義</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">S</td><td style="text-align: center;">演習</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">F</td><td style="text-align: center;">実習</td></tr> </tbody> </table>	④		L	講義	S	演習	F	実習
② ③																																	
B	A	基礎科目																															
H	U	教養科目 (人文)																															
S	O	教養科目 (社会)																															
N	A	教養科目 (自然)																															
L	A	教養科目 (語学)																															
P	H	教養科目 (体育)																															
C	A	教養科目 (キャリア)																															
④																																	
L	講義																																
S	演習																																
F	実習																																

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

詳細⑥：学年（レベル）

1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

詳細⑦：通し番号

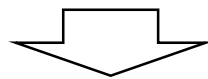
001～

（教職に関する科目）

詳細	学科	科目の位置づけ				免許必選の別	学年レベル		通し番号		
	①	②	③		④	⑤	⑥		⑦		
ナンバー	E N H K S	T	教職科目	A	L	全学科共通	4	必修	1	1年相当	001～
				I	N	情報					
				P	U	公民					
				A	C	商業					
				E	I	栄養	5	選択	3	3年相当	
				H	H	保健					
						保健体育					
				Y	O	養護					
S	W	福祉			4	4年相当					

例えば、「経済ビジネス入門」という科目には、＜ECLL11001＞というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科 → 経済情報学科「E」
詳細②：科目の位置づけ → コース共通科目「C」
詳細③：科目の位置づけ → リテラシ分野「L」
詳細④：科目の位置づけ → 講義科目「L」
詳細⑤：履修区分 → 必修科目「1」
詳細⑥：学年レベル → 1年生相当「1」
詳細⑦：通し番号 → 通し番号「001」



詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	経済情報 学科	コース 共通科目	リテラシ 分野	講義科目	必修科目	1年生 相当	通し番号
ナンバー	E	C	L	L	1	1	001

経済情報学科

【卒業要件単位数】

■平成 27～25 (2015～2013) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		24 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	演習科目	16 単位	16 単位	8 科目
	コース共通科目	24 単位	14 単位	6 科目
	コース 専修科目	経済コース専修科目 情報コース専修科目	選択したコース専修科目 から 40 単位	選択したコース専修科目 から 10 単位 3 科目
	その他、演習科目、コース共通科目、 コース専修科目のいずれかから	20 単位	—	—
合 計		124 単位	48 単位	21 科目

平成 27～25（2015～2013）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 (○)は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担当者	ページ	
						情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
				必修	選択				I	II	I	II	I	II	I	II			
基 目 礎 科	◎日本語（読解と表現）	EBAS11001	演習	2					2										
	◎英語	EBAS11002	演習	2		□	△	◇	2										
	◎コンピュータ演習	EBAS11003	演習	2		□	△	◇	2										
教	宗教と人生	EHUL11001	講義	2				◇	2										
	生命倫理学	EHUL11002	講義	2						②		②		②		②		[本多 真]	21
	哲学	EHUL11003	講義	2				◇		②		②		②		②		[三浦 摩美]	22
	文学	EHUL11004	講義	2					②		②		②		②				
	芸術	EHUL11005	講義	2						②		②		②		②		[岩見 健二]	23
	心理学	EHUL11006	講義	2					②		②		②		②			(北島 律之)	24
	仏教と現代社会	EHUL11007	講義	2						②		②		②		②		(本多 彩)	25
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	EHUL11008	講義	2					②		②		②		②			[根川 幸男]	26
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	EHUL11009	講義	2						②		②		②		②		[重親 知左子]	27
	色彩とデザイン	EHUL11010	講義	2					②		②		②		②			(稲富 恭)	28
養	法と社会	ESOL21011	講義	2						②		②		②		②		[豊福 一]	29
	日本国憲法	ESOL21012	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②			[笹田 哲男]	30
	人権の歴史	ESOL21013	講義	2					②		②		②		②			[岩本 智依]	31
	政治学	ESOL21014	講義	2				◇	②		②		②		②			(斎藤 正寿)	32
	社会学	ESOL21015	講義	2					②		②		②		②			(吉原 恵子)	33
	経済学	ESOL21016	講義	2					②		②		②		②			石原 敬子	34
	化学	ENAL21017	講義	2					②		②		②		②			[阿部 真幸]	35
	生物学	ENAL21018	講義	2						②		②		②		②		(佐藤 隆)	36
	食と健康	ENAL21019	講義	2						②		②		②		②		(嶋津 裕子)	37
	目	実用英語（初級）	ELAS21020	演習	2						②		②		②		②		[松盛 美紀子]
実用英語（中級）		ELAS22021	演習	2							②		②		②			[松盛 美紀子]	39
中国語（初級）		ELAS21022	演習	2					②		②		②		②			[佟 曉寧]	40
中国語（中級）		ELAS21023	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	41
韓国語（初級）		ELAS21024	演習	2					②		②		②		②			[高 秀美]	42
韓国語（初級）		ELAS21024	演習	2					②		②		②		②			李 良姫	43
韓国語（中級）		ELAS21025	演習	2						②		②		②		②		[高 秀美]	44
韓国語（中級）		ELAS21025	演習	2						②		②		②		②		李 良姫	45
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）		EPHL21026	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)	46
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）		EPHL21026	講義	2						②		②		②		②		(矢野 琢也)	47
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	EPHS21027	演習	2					□	△	◇		②		②		②	(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)	48	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	EPHS21028	演習	2									②		②		②	(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)・(矢野 琢也)	49	
私のためのキャリア設計	ECAL21029	講義	2						②		②		②		②		[三上 嘉代子]	50	

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
 △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
 ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
○は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		教員免許関係			学年配当(数字は週当り授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ページ	
						情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
				必修	選択				I	II	I	II	I	II	I	II			
基 目 礎 科	◎日本語（読解と表現）	EBAS11001	演習	2					2										
	◎英語	EBAS11002	演習	2		□	△	◇	2										
	◎コンピュータ演習	EBAS11003	演習	2		□	△	◇	2										
教	宗教と人生	EHUL11001	講義	2				◇	2										
	生命倫理学	EHUL11002	講義	2						②		②		②		②		[本多 真]	21
	哲学	EHUL11003	講義	2				◇		②		②		②		②		[三浦 摩美]	22
	文学	EHUL11004	講義	2					②		②		②		②				
	芸術	EHUL11005	講義	2						②		②		②		②		[岩見 健二]	23
	心理学	EHUL11006	講義	2					②		②		②		②			(北島 律之)	24
	仏教と現代社会	EHUL11007	講義	2						②		②		②		②		(本多 彩)	25
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	EHUL11008	講義	2					②		②		②		②			[根川 幸男]	26
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	EHUL11009	講義	2						②		②		②		②		[重親 知左子]	27
	色彩とデザイン	EHUL11010	講義	2					②		②		②		②			(稲富 恭)	28
養	法と社会	ESOL21011	講義	2						②		②		②		②		[豊福 一]	29
	日本国憲法	ESOL21012	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②			[笹田 哲男]	30
	人権の歴史	ESOL21013	講義	2					②		②		②		②			[岩本 智依]	31
	政治学	ESOL21014	講義	2				◇	②		②		②		②			(斎藤 正寿)	32
	社会学	ESOL21015	講義	2					②		②		②		②			(吉原 恵子)	33
	経済学	ESOL21016	講義	2					②		②		②		②			石原 敬子	34
	化学	ENAL21017	講義	2					②		②		②		②			[阿部 真幸]	35
	生物学	ENAL21018	講義	2						②		②		②		②		(佐藤 隆)	36
	食と健康	ENAL21019	講義	2						②		②		②		②		(嶋津 裕子)	37
	実用英語（初級）	ELAS21020	演習	2						②		②		②		②			[松盛 美紀子]
目	実用英語（中級）	ELAS22021	演習	2							②		②		②			[松盛 美紀子]	39
	中国語（初級）	ELAS21022	演習	2					②		②		②		②			[佟 曉寧]	40
	中国語（中級）	ELAS21023	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	41
	韓国語（初級）	ELAS21024	演習	2					②		②		②		②			[高 秀美]	42
	韓国語（初級）	ELAS21024	演習	2					②		②		②		②			李 良姫	43
	韓国語（中級）	ELAS21025	演習	2						②		②		②		②		[高 秀美]	44
	韓国語（中級）	ELAS21025	演習	2						②		②		②		②		李 良姫	45
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	EPHL21026	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)	46
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	EPHL21026	講義	2				◇		②		②		②		②		(矢野 琢也)	47
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	EPHS21027	演習	2		□	△	◇	②		②		②		②			(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)	48
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	EPHS21028	演習	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)・(矢野 琢也)	49	
私のためのキャリア設計	ECAL21029	講義	2						②		②		②		②			[三上 嘉代子]	50

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成25年度（2013年度）入学対象
（○）は兼任、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ	
					情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎科	◎日本語（読解と表現）	演習	2				2											
	◎英語	演習	2		□	△	◇	2										
	◎コンピュータ演習	演習	2		□	△	◇	2										
教	宗教と人生	講義	2				◇	2										
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②		[本多 真]	21
	哲学	講義	2				◇		②		②		②		②		[三浦 摩美]	22
	文学	講義	2					②		②		②		②				
	芸術	講義	2						②		②		②		②		[岩見 健二]	23
	心理学	講義	2					②		②		②		②			(北島 律之)	24
	仏教と現代社会	講義	2						②		②		②		②		(本多 彩)	25
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2					②		②		②		②			[根川 幸男]	26
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②		[重親 知左子]	27
	色彩とデザイン	講義	2					②		②		②		②			(稲富 恭)	28
養	法と社会	講義	2						②		②		②		②		[豊福 一]	29
	日本国憲法	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②			[笹田 哲男]	30
	人権の歴史	講義	2					②		②		②		②			[岩本 智依]	31
	政治学	講義	2				◇	②		②		②		②			(斎藤 正寿)	32
	社会学	講義	2					②		②		②		②			(吉原 恵子)	33
	経済学	講義	2					②		②		②		②			石原 敬子	34
	化学	講義	2					②		②		②		②			[阿部 真幸]	35
	生物学	講義	2						②		②		②		②		(佐藤 隆)	36
	食と健康	講義	2						②		②		②		②		(嶋津 裕子)	37
	実用英語（初級）	演習	2						②		②		②		②		[松盛 美紀子]	38
目	実用英語（中級）	演習	2							②		②		②			[松盛 美紀子]	39
	中国語（初級）	演習	2					②		②		②		②			[佟 曉寧]	40
	中国語（中級）	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	41
	韓国語（初級）	演習	2					②		②		②		②			[高 秀美]	42
	韓国語（初級）	演習	2					②		②		②		②			李 良姫	43
	韓国語（中級）	演習	2						②		②		②		②		[高 秀美]	44
	韓国語（中級）	演習	2						②		②		②		②		李 良姫	45
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)	46
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2				□	△	◇	②		②		②			(矢野 琢也)	47
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2					②		②		②		②			(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)	48
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)・(徳田)・(徳本)・(矢野)	49	
私のためのキャリア設計	講義	2					②		②		②		②			[三上 嘉代子]	50	

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	EHUL11002		
担当者氏名	本多 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持て余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

講義の出席 40%
 授業の参加態度 20%
 学期末レポート 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要説明
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／違いについて
5	安楽死と尊厳死②	誰が死期の決めるのか？
6	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
7	脳死と臓器移植①	脳死と臓器移植
8	脳死と臓器移植②	「死の基準」について
9	脳死と臓器移植③	ドナーカードについて
10	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
11	遺伝子操作／クローン技術①	遺伝子操作とクローン技術
12	遺伝子操作／クローン技術②	この問題をめぐる事例
13	生命倫理と宗教①	日本の宗教：神道
14	生命倫理と宗教②	日本の宗教：仏教
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	哲学	科目ナンバリング	EHUL11003		
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（60%）および学期末に設定するレポート課題（40%）によって評価を行う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	バルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェイムズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

科目名	芸術	科目ナンバリング	EHUL11005		
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学	科目ナンバリング	EHUL11006		
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
(より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
(内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 §1~9》
2	情報, 入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって, どういうこと?(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 §4》
4	どうやって, 学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 §2~4》
8	君って, どんな人?(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って, どんな人?(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 §2~3》
11	あの人って, きっとこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 §1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 §4》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 §4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	EHUL11007	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 <input type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につながるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 ※現代仏教についての理解をめざす
 ※仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約40%
 期末プロジェクト 約30%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の復習が必要となるがそれも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説①	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説②	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教①	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教①	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教②	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教③	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	国際理解と宗教 I (キリスト教)		科目ナンバリング	EHUL11008	
担当者氏名	根川 幸男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それをとりまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

*キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
 *キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
 *復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

*毎回の講義後に提出する復習シート(40%)と期末レポート(40%)、平常点(20%=出席10%+授業参加態度10%)を合算して評価する。
 *授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

『よくわかるキリスト教』土井かおる著 (PHP研究所) 2004、
 『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸 (講談社現代新書) 2011、
 『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編 (岩波書店) 2002

《授業時間外学習》

*その日の復習シートと質問(400字程度)をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
 *キリスト教の正典である聖書にふれておく。
 *配布資料が散在しないように整理しておく。
 *新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

*授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。*携帯電話・メール使用、食事の禁止、遅刻20分以上=欠席、20分以内の欠席×3回=欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか? 講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19~20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているのか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	EHUL11009	
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。一方、海外で邦人がイスラム関連の事件等に遭遇する可能性も高まっている。この授業を通して、イスラムに関する基本的な内容を把握すると同時に、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。VTRの視聴を通して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

店田廣文『イスラムを知る14 日本のモスク 滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社、2015/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/内藤正典『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』集英社、2015/『別冊歴史REAL イスラムと日本人』洋泉社、2015/『現代思想 2015年3月臨時増刊号 総特集◎シャル・エブド襲撃/イスラム国入質事件の衝撃』青土社、2015

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェックし、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ(例:モスクやハラルショップ 見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	イスラムをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	色彩とデザイン		科目ナンバリング	EHUL11010	
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法: 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。他の受講生に迷惑になる行為があった場合、座席の指定を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス: デザインの基礎	デザインの要素である「色」「かたち」「素材」について理解し、授業全体の流れについて理解する。
2	デザインの基礎(1): 色① 色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。
3	デザインの基礎(2): 色② 配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。
4	デザインの基礎(3): かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
5	デザインの基礎(4): 素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
6	デザインの基礎(5): デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。
7	デザインの各分野(1): グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。
8	デザインの各分野(2): 家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。
9	デザインの各分野(3): 建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。
10	デザインの各分野(4): ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。
11	デザインの各分野(5): プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する。
12	デザインの各分野(6): 工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。
13	デザインの各分野(7): 都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。
14	デザインの各分野(8): 映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

科目名	法と社会	科目ナンバリング	ESOL21011
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。民法に限らず、刑事事件など幅広く講義する予定。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律問題やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジットカード・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン①	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン②	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件①	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件②	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	ESOL21012
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	ESOL21013
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 砂川秀樹・RYOJI『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
 岩本孝樹『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。
 現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障害者差別禁止法と障がい者差別について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	ESOL21014
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	ESOL21015
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵 (2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也 (2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
- 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類(社会的カテゴリー)について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレームについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解読 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解読 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解読 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解読 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	経済学	科目ナンバリング	ESOL21016
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	化学	科目ナンバリング	ENAL21017
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『あなたと化学』くらしを支える化学
齋藤勝裕 著（裳華房）

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
- 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）により評価します。

《備考》

- 授業中分からないところが有れば、その都度、質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学	科目ナンバリング	ENAL21018
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻
 (デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳)

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系①	生物と環境
13	生態系②	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

科目名	食と健康	科目ナンバリング	ENAL21019		
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目指します。消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示します。国内外での実践事例や教材を紹介するので、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをまぎしません。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50％）、定期試験（50％）
 ただし、授業の出席回数が授業実施回数の3分の2以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	ACAPの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやACEの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

《テキスト》

「くらしの豆知識2016年版」 国民生活センター

《参考図書》

「ハンドブック消費者」 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。
- 課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）	科目ナンバリング	ELAS21020
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2015年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞（to do）や動名詞（～ing）について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）	科目ナンバリング	ELAS22021
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

TOEICに必要な語いを強化し、文法事項を再確認する。リスニングではディクテーションや発話活動を取り入れながら、応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。各テーマに沿った練習問題を繰り返し学習することで、必要な情報を的確に捉える力をつける。

《テキスト》

植木美千子、Brent Cotsworth他『Lighting Up the TOEIC Test—重点特化型TOEICテスト実力養成』（金星堂、2016年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Traveling	位置を表す表現、WHで始まる疑問文／自動詞と他動詞を理解する
3	Unit 2 Daily Life & Shopping	動作、動きを表す表現①／呼応を理解する
4	Unit 3 At Restaurants	動作、動きを表す表現②／比較級や最上級を使いこなす
5	Unit 4 Job Hunting	依頼の表現／関係代名詞、分詞を理解する
6	Unit 5 At the Office 1	オフィスでの頻出表現
7	Unit 6 At the Office 2	状況の把握／文脈に応じた動詞の使い方
8	Unit 7 Review Test	Review Test
9	Unit 8 Doing Business Online	語句の言い換え表現①／仮定法
10	Unit 9 Housing	動作、動きを表す表現③／前置詞
11	Unit 10 Making Deals & Contracts	語句の言い換え表現②／動名詞とto不定詞
12	Unit 11 Public Service	付加疑問文／接続詞
13	Unit 12 Banking & Finance	受け身の表現／副詞と形容詞
14	Unit 13 At Seminars & Workshops	選択肢の表現に注意する／文脈をとらえる
15	Unit 14 News & Media	Yes/No 以外の応答表現／時制

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	ELAS21022		
担当者氏名	修 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	ELAS21023
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	ELAS21024		
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니다体）、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの(해요体)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	ELAS21024
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか？」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	ELAS21025
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーカーキング	今まで学んだ文法を使つての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	ELAS21025
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーカーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	EPHL21026
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法>
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	EPHL21026	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	科目ナンバリング	EPHS21027
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	科目ナンバリング	EPHS21028
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	ECAL21029	
担当者氏名	三上 嘉代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽医科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成 27（2015）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 () は兼任、[] は兼任講師

授 業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
演習科目	基礎演習A	ESZS11001	演習	2						2									
	基礎演習B	ESZS11002	演習	2							2								
	発展演習I	ESZS12003	演習	2								2						木下 準一郎	57
	発展演習I	ESZS12003	演習	2								2						岡本 洋之	58
	発展演習I	ESZS12003	演習	2								2						森下 博	59
	発展演習I	ESZS12003	演習	2								2						竹川 宏子	60
	発展演習II	ESZS12004	演習	2									2					木下 準一郎	61
	発展演習II	ESZS12004	演習	2									2					岡本 洋之	62
	発展演習II	ESZS12004	演習	2									2					森下 博	63
	発展演習II	ESZS12004	演習	2									2					竹川 宏子	64
	専門演習I	ESZS13005	演習	2										2					
	専門演習II	ESZS13006	演習	2											2				
	卒業演習I	ESZS14007	演習	2												2			
	卒業演習II	ESZS14008	演習	2													2		
卒業研究	ESRS24001	演習		4												4			
専門教育科目	経済ビジネス入門	ECLL11001	講義	2						2									
	情報科学入門	ECLL11002	講義	2						2									
	基礎数学A	ECLL11003	講義	2						2									
	アプリケーションソフト	ECLS11004	演習	4			□				4								
	プレゼンテーションA	ECLS11005	演習	2							2	2						[廣岡 徹] *1	65
	プレゼンテーションB	ECLS11006	演習	2							2	2						石原 敬子 *2	66
	日本社会論	ECSL21002	講義	2						2									
	現代経済社会論A	ECSL21005	講義	2							2								
	現代経済社会論B	ECSL22006	講義	2								2						竹川 宏子	67
	簿記演習I	EEAS21001	演習	2				△				2						[古林 純一]	68
	経済学入門	EEEL22001	講義	2					◆			2	2					橋本 尚史	69
	経営学入門	EEBL22001	講義	2					▲			2	2					竹川 宏子	70
	民法	ECSL22008	講義	2					▲			2	2					[豊福 一]	71
	グラフィックス	EIPL21002	講義	2			■				2								
	ウェブデザイン	EIPL21001	講義	2							2								
	基礎数学B	ECLL21007	講義	2							2								
	経済数学A	ECLL22008	講義	2								2						橋本 尚史	72
	経済数学B	ECLL22009	講義	2									2					橋本 尚史	73
	統計学	ECSL22001	講義	2					▲			2						高野 敦子	74
	社会経済史	ECSL21003	講義	2					▲			2							
	現代思想論	ECSL22009	講義	2								2						金子 哲	75
	現代社会文化論	ECSL22011	講義	2									2					金子 哲	76
	国際政治学	ECSL21004	講義	2						◇		2							
	国際社会学	ECSL22007	講義	2								2						(斎藤 正寿)	77
	行政学I	ECRL22003	講義	2									2					木下 準一郎	78
	行政学II	ECRL23004	講義	2										2					
	マスメディア論	ECRL21001	講義	2							2								
	比較文化論	ECSL22010	講義	2									2					岡本 洋之	79
	情報社会論	ECSL23013	講義	2										2					
	いなみ野ため池学	ECRL23005	講義	2										2					
	いなみ野まちおこし学	ECRL23006	講義	2											2				
	メディアと政治	ECSL23014	講義	2										2					
	インターンシップ	ECSL22012	講義	2											2				
	フィールドワーク	ECRL22002	演習	2										2				池本、木下、金子、岡本	80
	経済情報特論A	ECPL21001	講義	2							2								
	経済情報特論B	ECPL21002	講義	2								2							
	経済情報特論C	ECPL21003	講義	2							2								
	経済情報特論D	ECPL21004	講義	2								2							
	経済情報特論E	ECPL22005	講義	2									2					穂積 隆広	81
	経済情報特論E	ECPL22005	講義	2									2					岡本 洋之	82
経済情報特論F	ECPL22006	講義	2										2				榎木 浩	83	
経済情報特論F	ECPL22006	講義	2										2				岡本 洋之	84	
経済情報特論G	ECPL23007	講義	2											2					
経済情報特論H	ECPL23008	講義	2												2				

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 () は兼任、[] は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ		
				必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年					
									I	II	I	II	I	II	I	II				
経済	ミクロ経済学	EEEL32002	講義	④			◇						4						石原 敬子	85
	マクロ経済学	EEEL32003	講義	④			◇						4						中本 淳	86
	経営学総論	EEBL32002	講義	②			▲						2						竹川 宏子	87
	簿記演習Ⅱ	EEAS22003	演習	2			▲						2						[古林 純一]	88
	工業簿記	EEAL22005	講義	2			▲						2						[古林 純一]	89
	簿記論	EEAS23008	演習	4			△						4							
	会計学入門	EEAL22002	講義	2			△						2						三宅 伸二	90
	会計学	EEAL22006	講義	2			▲						2						三宅 伸二	91
	会社法	EEAL22004	講義	2									2						[古林 純一]	92
	金融論	EEEL22004	講義	2			▲						2						橋本 尚史	93
	財政学Ⅰ	EEEL23008	講義	2									2							
	財政学Ⅱ	EEEL23013	講義	2										2						
	産業組織論Ⅰ	EEEL23010	講義	2									2							
	産業組織論Ⅱ	EEEL23012	講義	2										2						
	国際経済事情	EEEL23006	講義	2										2						
	環境経済論A	EEEL23007	講義	2										2						
	環境経済論B	EEEL23016	講義	2										2						
	地域経済論Ⅰ	EEEL23011	講義	2										2						
	地域経済論Ⅱ	EEEL23017	講義	2										2						
	社会政策Ⅰ	EEEL23009	講義	2										2						
	社会政策Ⅱ	EEEL23018	講義	2										2						
	証券市場論	EEEL23005	講義	2										2						
	経営戦略論Ⅰ	EEBL23003	講義	2										2						
	経営戦略論Ⅱ	EEBL23004	講義	2										2						
	財務諸表論Ⅰ	EEAL23009	講義	2										2						
	財務諸表論Ⅱ	EEAL23010	講義	2										2						
	情報会計論Ⅰ	EEAL23007	講義	2										2						
	情報会計論Ⅱ	EEAL23011	講義	2										2						
	労働経済論	EEEL23015	講義	2										2						
	経済政策	EEEL23014	講義	2										2						
職業指導	EEAL23012	講義	2										2							
経済ビジネス特論A	EETL23001	講義	2										2							
経済ビジネス特論B	EETL23002	講義	2										2							
情報	情報数理	EIPL33007	講義	②									2						穂積 隆広	94
	プログラミングⅠ	EIPL33005	講義	④			■						4						西田 悦雄	95
	プログラミングⅡ	EIPL23009	講義	4			■							4						
	情報システム学	EIPL33005	講義	④			■							4						
	組合せ理論	EIPL22004	講義	2									2						森下 博	96
	コンピュータ基礎論	EIPL22001	講義	2			■						2						堀池 聡	97
	プログラミング入門	EIPL22003	講義	2									2						穂積 隆広	98
	オペレーティングシステム	EIPL22003	講義	2			■						2						榎木 浩	99
	情報ネットワーク	EIPL22002	講義	2			■						2						堀池 聡	100
	アルゴリズム	EIPL22006	講義	2			■						2						森下 博	101
	情報デザイン	EIPL22008	講義	2			■						2						西田 悦雄	102
	オートマトン	EIPL23010	講義	2			■						2							
	情報セキュリティ	EIPL23004	講義	2			■						2							
	データベースⅠ	EIPL23007	講義	2			■						2							
	データベースⅡ	EIPL23009	講義	2			■						2							
	オペレーションズ・リサーチ	EIPL23006	講義	2			■						2							
	情報数学A	EITL23001	講義	2									2							
	情報数学B	EITL23002	講義	2									2							
	応用プログラミングA	EIPL23012	講義	2									2							
	応用プログラミングB	EIPL24013	講義	2										2						
ソフトウェア設計論	EIPL23011	講義	2									2								
情報検索論	EIPL23010	講義	2			■						2								
情報倫理	EIPL23011	講義	2			■						2								
情報管理論	EIPL23008	講義	2			□						2								
情報システム特論A	EITL23003	講義	2									2								
情報システム特論B	EITL23004	講義	2									2								

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
 △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
 ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目
 ※単位数の②および④はコースにおける必修科目単位

*1 1年Ⅱ期「プレゼンテーションA」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションB」を履修すること。

*2 1年Ⅱ期「プレゼンテーションB」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションA」を履修すること。

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係					学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成28年度の担当者	ページ	
				必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年						
									I	II	I	II	I	II	I	II					
教職に関する科目	教職概論	ETAL41001	講義	2	□	△	◇	2													
	教育原理	ETAL41002	講義	2	□	△	◇	2													
	教育史	ETAL53003	講義	2	■	▲	◆						2								
	発達心理学	ETAL52004	講義	2	■	▲	◆					2								(松田 信樹)	103
	教育心理学	ETAL41005	講義	2	□	△	◇		2												
	教育制度論	ETAL41006	講義	2	□	△	◇		2												
	教育課程論	ETAL42007	講義	2	□	△	◇				2									(古田 薫)・[廣岡 義之]	104
	公民科教育法	ETPU43001	講義	4			◇						4								
	情報科教育法	ETIN43001	講義	4	□								4								
	商業科教育法	ETAC43001	講義	4		△							4								
	特別活動論	ETAL42008	講義	2	□	△	◇				2									[砂子 滋美]	105
	教育方法・技術論	ETAL42009	講義	2	□	△	◇			2										[吉永 潤]	106
	教育情報化演習Ⅰ	ETAL53010	演習	2	■	▲	◆						2								
	教育情報化演習Ⅱ	ETAL53011	演習	2	■	▲	◆							2							
	生徒指導論	ETAL42012	講義	2	□	△	◇			2										[新井野 久男]	107
	進路指導論	ETAL42019	講義	2	□	△	◇						2								
	教育相談（カウンセリングを含む）	ETAL43013	講義	2	□	△	◇							2							
	教育実習予備演習Ⅰ	ETAL42015	演習	2	□	△	◇			2										岡本 洋之	108
教育実習予備演習Ⅱ	ETAL42016	演習	2	□	△	◇				2									岡本 洋之	109	
教育実習事前事後指導	ETAL44014	講義	1	□	△	◇									1						
高等学校教育実習	ETAL44017	実習	2	□	△	◇									2						
教職実践演習（高）	ETAL44018	演習	2	□	△	◇										2					

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
 △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
 ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
 日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
 指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I	科目ナンバリング	ESZS12003
担当者氏名	木下 準一郎		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 		

《授業の概要》

テレビ、ラジオ、新聞、インターネット等の多様なメディアのなかで「地域メディア」と呼ばれるメディアが地域社会の自律的な問題解決能力（地域力）の強化にどのような役割を果たしているかという問題意識から「地域メディア」の現状を明らかにし、実態調査と理論的検討を行いながら、地域力の強化にいかなる「地域メディア」の活用方法が有効であるのかについて考える。

《授業の到達目標》

「地域メディア」について理解し、説明できるようになる。「地域メディア」の機能を理解し、その活用方法を身に付ける。チームとしてプロジェクトを構想し、実行する能力を身に付ける。地域社会に関わる能力を身に付ける。

《成績評価の方法》

与えた課題の達成状況とゼミ運営への貢献度等（100%）から総合的に評価する。

《テキスト》

教材は配布する。

《参考図書》

『地域力再生の政策学』真山達志等、ミネルヴァ書房、2010年
『地域メディア力』菅谷実編著、中央経済社、2014年

《授業時間外学習》

指定された資料は必ず次回の授業までに読んでおくこと。

《備考》

アクティブラーニング・ゾーンの利用
質問や相談のある学生は研究室（1W-112）を訪ねてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方と成績評価に関する説明。
2	講義（1）	地域メディアとは何か。
3	講義（2）	地域をテーマとしたデジタルコンテンツについて。
4	テキストの輪読（1）	与えられたテーマについて担当者が報告し議論する。
5	テキストの輪読（2）	与えられたテーマについて担当者が報告し議論する。
6	テキストの輪読（3）	与えられたテーマについて担当者が報告し議論する。
7	テキストの輪読（4）	与えられたテーマについて担当者が報告し議論する。
8	テキストの輪読（5）	与えられたテーマについて担当者が報告し議論する。
9	ワークショップ	プロジェクトのテーマを検討し設定する。
10	現地調査（1）	現地調査を実施する。
11	現地調査（2）	現地調査を実施する。
12	現地調査（3）	現地調査を実施する。
13	現地調査（4）	現地調査を実施する。
14	ワークショップ	プロジェクトの実行計画を検討し立案する。
15	まとめ	これまでの総括と発展演習Ⅱで取り組む課題について検討する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I	科目ナンバリング	ESZS12003
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

本演習は「自由研究」である。1年間をかけ、(1)自分の好きなことをもとにして研究テーマを設定し、(2)資料を集めて情報カードを作り、(3)論文を書いてもらう。I期には口頭での中間報告会までを行う。

《テキスト》

宅間紘一『はじめての論文作成術—問うことは生きること—』(日中出版)

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

これからの時代に求められているものは、特定のことがらを頭に入れる能力ではなく、自分で問いを立て、それへの答えを出すために自分で資料を探し、それをもとにして考えたことを発表する能力、すなわち「知的創造と発信」の能力である。

そういうとたいへん難しいようであるが、本演習ではこれを初歩から指導する。1年間の演習終了時に、「自分も知の世界の住人だ」という自信をもって巣立つことが目標である。

《成績評価の方法》

出席状況、授業への取り組みの度合い、課題の遂行状況等(100%)を総合的に評価する。

評価にあたっては判断基準を個に応じて柔軟に適用することがある。また演習の進行状況に応じて授業計画も適宜変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《授業時間外学習》

授業の性質上、資料の整理や口頭発表の準備等、授業時間外学習が多くならざるを得ない。しかし「3度の食事よりも好きなテーマ」を選んで、楽しい自由研究をすること。

また課題の一つとして、古典文学(短編でもよい)を読むことを求める。

《備考》

本演習のアイデアは、小・中・高校の「総合的な学習」からも発想を採り入れ、それを大学生向けにヴァージョン・アップしている。このため学校見学も行いたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	問いに出合い、問いを深める(1)	自分の関心を自覚する
3	問いに出合い、問いを深める(2)	研究領域を決める
4	問いに出合い、問いを深める(3)	引用・要約・意見カードを作成する
5	問いに出合い、問いを深める(4)	まとめ文を作る
6	問いに出合い、問いを深める(5)	研究テーマの候補を挙げる
7	問いに出合い、問いを深める(6)	研究テーマを決める
8	問いに出合い、問いを深める(7)	サブテーマ(小課題)を設ける
9	問いに出合い、問いを深める(8)	仮説を設ける
10	資料を集め、情報を記録する(1)	資料を集める
11	資料を集め、情報を記録する(2)	資料リストを作る
12	資料を集め、情報を記録する(3)	情報を記録する
13	中間報告会(1)	口頭での発表(1)
14	中間報告会(2)	口頭での発表(2)
15	I期の総括	教員による総評

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I	科目ナンバリング	ESZS12003
担当者氏名	森下 博		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

授業では、自分のおこないたいことをコンピュータへ伝達するための手段として、プログラミング（C言語）を扱います。具体的には、プログラミング言語の命令の役割や組み立て方を学びながら、情報伝達（提示）作品を制作します。目の前で実行結果を確認する演習形式で進めます。作品の構想、制作、公開といった段階を経て、グラフィカルな作品を仕上げます。表現できる楽しさを感じてもらいたいと思います。

《授業の到達目標》

- プログラミング言語の命令を理解し、役割を説明することができる。
- プログラム全体の流れを把握し、手順を説明することができる。
- 伝えたい内容を思い通りの表現で作品を創り上げることができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況の報告40%
課題提出とその成果60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングをおこなう場合に大切なのは、実現したいことを正確に記述することです。うまくいかない時には一つ一つ原因を探りながら解決に近づこうとする根気も必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の目標と概要の説明	授業計画を説明するとともに、プログラムの実行例を見ることで自身の構想を練る。
2	記述の方法と実行の手順	プログラムのコーディング、コンパイル、実行までの一連の流れについて理解する。
3	情報の伝達(座標設計)	文字やボタンの配置などをおこなう上で必要な座標の概念や設計について理解する。
4	情報の伝達(出力表現)	設計した座標を用いて、メッセージをウィンドウに出力する方法について理解する。
5	情報の伝達(装飾表現)	出力した文字情報に対し、装飾シミュレーションをおこなう方法について理解する。
6	情報の伝達(条件判断)	与えられた条件に対応した実行が組み込めるよう、条件分岐処理について理解する。
7	情報の伝達(繰り返し)	アニメーションの表現を例にし、その実行のための繰り返し処理について理解する。
8	情報の伝達(切替制御)	流れるメッセージのボタンによる切り替えを例にとり、制御処理について理解する。
9	情報の伝達(速度制御)	流れるメッセージに対する速度調整を例にし、仕組みと見やすさについて考察する。
10	情報の伝達(色彩制御)	流れるメッセージに対する色彩調整を例にし、色構成や見やすさについて考察する。
11	情報の伝達(画面制御)	画面全体のバランスおよび情報の見やすさや操作のしやすさなどについて考察する。
12	プログラムの仕上げ	自身の座標設計をもとに、思い通りのコンテンツや実行を表現し、作品を仕上げる。
13	報告書の制作とまとめ	プログラム作品のこれまでの制作の過程および最終版について、報告書にまとめる。
14	スライドの制作とまとめ	制作したプログラム作品の内容や特徴そして工夫点について、スライドにまとめる。
15	作品の公開と意見交換	各自作品を提出し、クラス内で公開と意見交換の場を設け、今後の発展につなげる。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I	科目ナンバリング	ESZS12003
担当者氏名	竹川 宏子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

年間を通じてキャリアデザインについて学び、「社会で働く」とはどういうことかを理解し、自らの生き方・働き方の設計に結び付けていく。

具体的には、社会で働くために必要な能力は何かについて考え、情報収集、プレゼンテーション能力を養う。同時に企業を取り巻く時事問題についても取り上げる。

《テキスト》

渡辺峻, 伊藤健市編著 (2013) 『学生のためのキャリアデザイン入門<第2版>』中央経済社

《参考図書》

小野田博之 (2015) 『改訂版 自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック』日本能率協会マネジメントセンター

《授業の到達目標》

- キャリア設計の考え方を身につけることができる。
- 企業活動に関わる時事問題について新聞などから情報を取り入れる力を身につけることができる。
- ディスカッション能力やプレゼンテーション能力を高めることができる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：該当箇所のテキストを読んで、分からないところをはっきりさせておくこと。ゼミメンバーの前で発表するための準備として教科書をまとめておくこと。
- (2) 復習の方法：理解度確認のため、いくつかの用語について4回程度小テストを行うので、そのための準備をもらう。これが復習に該当する。

《成績評価の方法》

全回出席することを前提として (1) 教科書のまとめ作成、発表を60% (2) 小テストを40%として評価する。

《備考》

キャリア設計のために必要なことは、自分を知り、社会を知ることである。日頃から新聞やインターネットを通じてさまざまなニュースに目を通しておくよう心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	学習の進め方の説明およびキャリアデザインについて学ぶ意義について理解する
2	社会で働く意義	変化する労働環境とキャリア設計の重要性について学び、社会で働く意義についてディスカッションする
3	4つの能力開発	キャリアプランニング能力、専門的な職業能力、自己管理能力、政治的能力について学ぶ
4	時事問題①	新聞記事を読み、時事問題について理解する
5	時事問題②	新聞記事を読み、時事問題について理解する
6	時事問題③ (プレゼンテーション)	新聞記事やインターネットのニュースから関心を持つ問題を見つけ、一人ずつ発表する
7	社会人基礎力①	社会人基礎力について学ぶ
8	社会人基礎力②	社会人基礎力について学び、それを身につけるためにどうすればよいのかディスカッションする
9	時事問題④	新聞記事を読み、時事問題について理解する
10	時事問題⑤ (プレゼンテーション)	新聞記事やインターネットのニュースから関心を持つ問題を見つけ、一人ずつ発表する
11	インターンシップ	インターンシップの意味と必要性について学ぶ
12	働き方の種類と分野	働く分野と場の多様性について学ぶ
13	自己分析の方法	自己分析の方法を学ぶ
14	自己分析 (プレゼンテーション)	自己分析の結果を発表する
15	授業のまとめ	演習のまとめと振り返り

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS12004		
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

テレビ、ラジオ、新聞、インターネット等の多様なメディアのなかで「地域メディア」と呼ばれるメディアが地域社会の自律的な問題解決能力（地域力）の強化にどのような役割を果たしているかという問題意識から「地域メディア」の現状を明らかにし、実態調査と理論的検討を行いながら、地域力の強化にいかなる「地域メディア」の活用方法が有効であるのかについて考える。

《授業の到達目標》

「地域メディア」について理解し、説明できるようになる。「地域メディア」の機能を理解し、その活用方法を身に付ける。チームとしてプロジェクトを構想し、実行する能力を身に付ける。地域社会に関わる能力を身に付ける。

《成績評価の方法》

与えた課題の達成状況とゼミ運営への貢献度等（100%）から総合的に評価する。

《テキスト》

教材は配布する。

《参考図書》

『地域力再生の政策学』真山達志等、ミネルヴァ書房、2010年
 『地域メディア力』菅谷実編著、中央経済社、2014年

《授業時間外学習》

指定された資料は必ず次回の授業までに読んでおくこと。

《備考》

アクティブラーニング・ゾーンの利用
 質問や相談のある学生は研究室（1W-112）を訪ねてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方と成績評価に関する説明。
2	現地調査（1）	現地調査を実施する。
3	現地調査（2）	現地調査を実施する。
4	現地調査（3）	現地調査を実施する。
5	現地調査（4）	現地調査を実施する。
6	ワークショップ	調査結果を検討し、発表に用いるメディアを選択する。
7	制作（1）	調査報告をまとめる。
8	制作（2）	調査報告をまとめる。
9	告知	プロジェクトの調査報告発表を告知する。
10	制作（3）	調査報告をまとめる。
11	制作（4）	調査報告をまとめる。
12	発表	調査報告を完成させる。
13	事後調査（1）	関係者・関係各機関に調査報告について意見を募る。
14	事後調査（2）	関係者・関係各機関に調査報告について意見を募る。
15	まとめ	これまでの総括。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS12004
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

本演習は「自由研究」である。1年間をかけ、(1)自分の好きなことをもとにして研究テーマを設定し、(2)資料を集めて情報カードを作り、(3)論文を書いてもらう。Ⅱ期には論文を完成させる。

《テキスト》

宅間紘一『はじめての論文作成術—問うことは生きること—』(日中出版)

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

これからの時代に求められているものは、特定のことがらを頭に入れる能力ではなく、自分で問いを立て、それへの答えを出すために自分で資料を探し、それをもとにして考えたことを発表する能力、すなわち「知的創造と発信」の能力である。

そういうとたいへん難しいようであるが、本演習ではこれを初歩から指導する。1年間の演習終了時に、「自分も知の世界の住人だ」という自信をもって巣立つことが目標である。

《成績評価の方法》

出席状況、授業への取り組みの度合い、課題の遂行状況等(100%)を総合的に評価する。

評価にあたっては判断基準を個に応じて柔軟に適用することがある。また演習の進行状況に応じて授業計画も適宜変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《授業時間外学習》

授業の性質上、資料の読み込み・整理や論文作成等、授業時間外学習が多くならざるを得ない。しかし「3度の食事よりも好きなテーマ」を選んで、楽しい自由研究をすること。

《備考》

本演習のアイデアは、小・中・高校の「総合的な学習」からも発想を採り入れ、それを大学生向けにバージョン・アップしている。このため学校見学も予定している。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	論文を書く(1)	結論を書く
3	論文を書く(2)	個別指導
4	論文を書く(3)	アウトライン(目次)を作る
5	論文を書く(4)	個別指導
6	論文を書く(5)	論文の概要を書く
7	論文を書く(6)	個別指導
8	論文を書く(7)	下書きを書く
9	論文を書く(8)	個別指導
10	論文を書く(9)	個別指導
11	論文を書く(10)	論文に仕上げる
12	論文を書く(11)	個別指導
13	論文を書く(12)	個別指導
14	論文発表会(1)	口頭での発表(1)
15	論文発表会(2)	口頭での発表(2)と教員による総括

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 II	科目ナンバリング	ESZS12004
担当者氏名	森下 博		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

授業では、発展演習 I で学んだプログラミング技術を活用して、あらたなテーマで作品を制作します。具体的には、プログラミング言語の命令の役割や組み立て方をより深く理解しながら、情報表現（提示）作品を制作します。目の前で実行結果を確認する演習形式で進めます。アイデアをかたちにすることの難しさとともに面白さを感じながら、楽しめる作品を構築します。表現の可能性を感じてもらいたいと思います。

《授業の到達目標》

- プログラム全体の流れを把握し、手順を説明することができる。
- 伝えたい内容を思い通りの表現で作品を創り上げることができる。
- 構成する作品の見やすさや使いやすさを追及し、実現することができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況の報告40%
課題提出とその成果60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングを活用して、作品を組み立てていきます。思い通りの表現が可能になってくると、プログラミング言語の理解力が加速し、さらにアイデアが広がってきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の目標と概要の説明	授業計画を説明するとともに、プログラムの実行例を見ることで自身の構想を練る。
2	情報の表現(座標設計)	ポジショニングマップを作成する上で必要となるウィンドウの座標設計をおこなう。
3	情報の表現(文字と図形)	ポジショニングマップのテーマと縦軸と横軸を決め、文字と図形の配置をおこなう。
4	情報の表現(スタイル)	ポジショニングマップのテーマや項目のイメージに合うスタイルの設定をおこなう。
5	情報の表現(動作ボタン)	ポジショニングマップに配置した項目に対する動作ボタンの設定と実行をおこなう。
6	情報の表現(操作性)	ポジショニングマップに配置した項目に対する表現方法と操作性の検討をおこなう。
7	情報の表現(バランス)	ポジショニングマップ全体について、動作確認とバランスについて検討をおこなう。
8	情報の表現(分析と考察)	ポジショニングマップの内容について、グルーピングなどの分析と考察をおこなう。
9	情報の表現(HTMLとCSS)	ポジショニングマップを取り込んだウェブページを制作し、情報の発信をおこなう。
10	情報の表現(リンク)	ポジショニングマップをもとにして、クリックブルマップの設定と制作をおこなう。
11	情報の表現(スクリプト)	ポジショニングマップの解説について、スクリプトを用いた提示の工夫をおこなう。
12	プログラムの仕上げ	自身の座標設計をもとに、思い通りのコンテンツや実行を表現し、作品を仕上げる。
13	報告書の制作とまとめ	プログラム作品のこれまでの制作の過程および最終版について、報告書にまとめる。
14	スライドの制作とまとめ	制作したプログラム作品の内容や特徴そして工夫点について、スライドにまとめる。
15	作品の公開と意見交換	各自作品を提出し、クラス内で公開と意見交換の場を設け、今後の発展につなげる。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS12004		
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 			

《授業の概要》

年間を通じてキャリアデザインについて学び、「社会で働く」とはどういうことかを理解し、自らの生き方・働き方の設計に結び付けていく。

具体的には、社会で働くために必要な能力は何かについて考え、情報収集、プレゼンテーション能力を養う。同時に企業を取り巻く時事問題についても取り上げる。

《テキスト》

渡辺峻, 伊藤健市編著 (2013) 『学生のためのキャリアデザイン入門<第2版>』中央経済社

《参考図書》

小野田博之 (2015) 『改訂版 自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック』日本能率協会マネジメントセンター

《授業の到達目標》

- キャリア設計の考え方を身につけることができる。
- 企業活動に関わる時事問題について新聞などから情報を取り入れる力を身につけることができる。
- ディスカッション能力やプレゼンテーション能力を高めることができる。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：該当箇所のテキストを読んで、分からないところをはっきりさせておくこと。ゼミメンバーの前で発表するための準備として教科書をまとめておくこと。

(2) 復習の方法：理解度確認のため、いくつかの用語について4回程度小テストを行うので、そのための準備をもらう。これが復習に該当する。

《成績評価の方法》

全回出席することを前提として(1)教科書のまとめ作成、発表を60%(2)小テストを40%として評価する。

《備考》

キャリア設計のために必要なことは、自分を知り、社会を知ることである。日頃から新聞やインターネットを通じてさまざまなニュースに目を通しておくよう心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	学習の進め方の説明およびキャリアデザインについて学ぶ意義について理解する
2	業界や企業の研究①	どのような業界や企業があるのか、企業情報の収集のしかたについて学ぶ
3	業界や企業の研究②(プレゼンテーション)	有価証券報告書、会社四季報、企業のホームページなどから実際に企業情報を収集してまとめ、一人ずつ発表する
4	時事問題①	新聞記事を読み、時事問題について理解する
5	時事問題②	新聞記事を読み、時事問題について理解する
6	時事問題③(プレゼンテーション)	新聞記事やインターネットのニュースから関心を持つ問題を見つけ、一人ずつ発表する
7	企業内での仕事	企業内での分業体制、部門について学ぶ
8	企業の求める人材	グローバル化と求められる新しい人材について学び、どのようにしたらよいのかディスカッションする
9	働き方の多様性	働き方、働く時間の多様化について学ぶ
10	企業で働くメリット	企業、その他組織で働くメリット(福利厚生やその他の支援)について学ぶ
11	時事問題④	新聞記事を読み、時事問題について理解する
12	時事問題⑤(プレゼンテーション)	新聞記事やインターネットのニュースから関心を持つ問題を見つけ、一人ずつ発表する
13	就職活動の流れと心構え	就職活動に必要な準備と心構えについて学ぶ
14	エントリーシートについて	エントリーシートの自己PRの書き方を学び、書いてみる
15	授業のまとめ	演習のまとめと振り返り

科目名	プレゼンテーションA	科目ナンバリング	ECLS11005
担当者氏名	廣岡 徹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力		

《授業の概要》

大学だけでなく社会の様々な機会においても必要とされるプレゼンテーションのうち、オーラルな分野、自己紹介やスピーチ、ディベート、Show&Tellなどの方法を実習を交えて学ぶとともに、ワークシートを利用し、論理的表現について考える。

授業では、発声練習も含め、各種スピーチを始め、オーラルなプレゼンテーションの各技術、そしてディベート実習に至るまでを経験し、話す力・プレゼンテーション力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・多様なテーマや場に応じたスピーチができる。
- ・オーラルなプレゼンテーションにおけるストーリーの作り方、説得の技術、発表のしかたを理解し、実践できる。
- ・立論、反対尋問、最終弁論の作成、発表の経験を通して、ディベート運営を行うことができる。

《テキスト》

毎時、授業プリントを配布してテキストに代える。

《参考図書》

- 『スピーチの教科書』佐々木繁範、ダイヤモンド社、2012年
- 『論理的にプレゼンする技術』平林 純、サイエンス・アイ新書、2009年
- 『ディベートをどう指導するか』吉田和志、明治図書、1995年

《授業時間外学習》

毎時間の最後に、次時への課題を出すので、与えられた指示に基づいてしっかりと準備すること。

《成績評価の方法》

毎回の授業での発表技法の習熟度、課題（実習・ワークシート）に対する評価と学期半ばと学期末のレポートに基づいて行う。評価の割合は、授業時の発表技法の習熟度、演習課題を60%、レポートを40%とする。なお、各回のレポートは必ず提出するとともに、出席状況についても留意すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方 プレゼンテーションとは	授業の内容、進め方、到達目標などについて理解する。 プレゼンテーションの目的や方法、効果などについて学び、その必要性を理解する。
2	スピーチ① 魅力的な自己紹介(1)	自己紹介のしかたを工夫し、印象に残るスピーチを行うためのノウハウを身につける。
3	スピーチ② 魅力的な自己紹介(2)	自己紹介のしかたを工夫し、印象に残るスピーチを全員の前で行う。
4	スピーチ③ 最新の時事ニュース紹介(1)	新聞やテレビなどで報じられた最新の時事ニュースを取り上げ、分かりやすく解説するスピーチを行う。
5	スピーチ④ 最新の時事ニュース紹介(2)	新聞やテレビなどで報じられた最新の時事ニュースを取り上げ、分かりやすく解説するスピーチを行う。
6	スピーチ⑤ Show&Tell(1)	自分のお気に入りの物を持参し、教室で提示しながら紹介するスピーチを行う。
7	スピーチ⑥ Show&Tell(2)	自分のお気に入りの物を持参し、教室で提示しながら紹介するスピーチを行う。
8	スピーチ⑦ ビブリオバトル=知的書評合戦(1)	自分の好きな本を示しながら、その面白さや魅力を語り、数人ごとにチャンピオンを決定するビブリオバトル=知的書評合戦を行う。
9	スピーチ⑧ ビブリオバトル=知的書評合戦(2)	自分の好きな本を示しながら、その面白さや魅力を語り、数人ごとにチャンピオンを決定するビブリオバトル=知的書評合戦を行う。
10	ディベート① ディベートとは何か	ディベートの目的やテーマ、方法などについて学び、その特性を理解する。
11	ディベート② ディベート実習	ディベートの3要素である立論・反対尋問・最終弁論について、テーマに即して実際に作成する。
12	キャッチコピー・標語	言葉のリズムについて理解し、簡潔でリズムカルな表現を工夫する。
13	リフレーミング	表現の枠を変えることで、相手が違った受け止め方をすることを理解する。
14	「私の主張」	これまでの学びの集大成として「私の主張」についてスピーチを行う。
15	プレゼンテーションのまとめとふりかえり	プレゼンテーションの目的や方法、実践について振り返り、学んだ方法や技術について確認する。また、様々な討議の方法について理解する。

科目名	プレゼンテーションB	科目ナンバリング	ECLS11006
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力		

《授業の概要》

大学での学修のあらゆる場面で必要となる文章表現によるプレゼンテーションについて学ぶ。授業では、文章作法、構想の練り方、文章の組み立て方、論理的な書き方について解説する。毎時間の演習、添削指導を通じて文章を書く力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・演習を通じて、文章作法を身につける。
- ・資料の内容について、ポイントを押さえて要約できるようになる。
- ・序論・本論・結論のスタイルでまとまりのある文章を書けるようになる。
- ・レポート、論文の書き方の基礎を身につける。

《成績評価の方法》

毎回の授業での課題に対する評価と学期末のレポートに基づいて行う。評価の割合は、授業時の演習課題を60%、学期末のレポートを40%とする。なお、学期末のレポートを提出しなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。
 大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現－プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房、2005年。
 菊田千春・北林利治著『論理的に書き、プレゼンする技術』東洋経済新報社、2006年。※その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・毎回取り組んだ演習課題については、翌週添削して返却する。指摘された事柄を確認・理解し、もう一度自分なりにまとめなおすなどして、スキルアップに努めよう。
- ・第10週目以降は、学期末のレポート作成に向けて毎回宿題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	この授業の概要、到達目標、授業の進め方を解説する。指定したテーマ（身近な問題の中から指示する）について考えたことをまとめる。
2	基本的な文章作法を身につけよう	基本的な文章作法について解説する。指定したテーマについて、文体などに注意しながら考えたことをまとめる。
3	文章を要約するⅠ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。
4	文章を要約するⅡ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。
5	感想文を書くⅠ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。そのうえで、自分の考えをまとめる。
6	感想文を書くⅡ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。そのうえで、自分の考えをまとめる。
7	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅠ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
8	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅡ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
9	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅢ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
10	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅣ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
11	レポートを書こうⅠ	テーマを決めて、構想を練る。構想の練り方（リスティング、マッピング）を紹介するので、実践してみよう。
12	レポートを書こうⅡ	情報検索の方法について解説する。レポートを作成するには、どのような資料、文献が必要かを考えてみよう。
13	レポートを書こうⅢ	レポートの構成を考える。文章を組み立てる。
14	レポートを書こうⅣ	引用の仕方を身につける。
15	学習のまとめ	レポートを完成させる。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	現代経済社会論B		科目ナンバリング	ECLS22006	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

現代経済社会の実際を知るために、現代社会を理解する上での基礎知識を習得し、民間企業等で活躍している方々から経済社会の現場で起きていることを学びます。現場の話は外部講師によるオムニバス形式の講義で、外部講師としては公認会計士、地元加古川市の企業経営者、企業の人事担当者などを予定しています。また受講生には各自が一つの業界を調査し、授業で発表してもらいます。

《授業の到達目標》

各講師の話を通じて、今の経済社会を実感することを目標とします。
 将来の自分の姿を思い描くための助けにもなります。

《成績評価の方法》

毎回授業で作成するレポートによる平常点(60%)と、発表点(40%)により評価します。平常点では、受講態度も考慮します。
 平常点が40点に達しない場合は、発表点に関係なく不合格とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の目的、注意事項、単位取得方法について述べる。現在講師のスケジュールを調整中で、下記は2015年度のものである。ガイダンス時に確定スケジュールを配布す
2	キャリア設計について	講師の話により良く理解し、学生の職業意識を高めるためにキャリア設計の基礎について解説する。
3	富士コンピュータ(株)代表取締役社長 森和明氏	富士コンピュータの創業、情報技術学院、相生学院高校、学生に期待すること。
4	(株)光洋開発本部建設部課長 中村耕治氏	小売業の歴史、小売業の業務。
5	オフィスF代表 福島克三氏	経験学習と人の成長について学ぶ(実際に体を動かします)。
6	株式会社チクマ キャンパス事業部 有吉直美氏	コミュニケーションとしての衣服～何が伝わるのか、何を伝えるのか～
7	いしだサポートオフィス 石田信隆氏	社会保険労務士の役割、仕事内容。
8	中間のまとめ 学生発表のガイダンス	授業の14回、15回で行う業界についての学生発表に関して必要な調査や発表方法について説明する。
9	小長谷公認会計事務所 小長谷敦子氏	「目標による管理」について体験を通じて学ぶ(実際に体を動かします)。
10	公認会計士・税理士 大辻俊介氏	税理士の業務、税理士の日、税理士の仕事体験。
11	加古川市役所 職員	加古川市政の概要：加古川市のすがた、加古川市のまちづくり、市役所の組織と業務。
12	高砂市役所 職員	高砂市の紹介と市役所の仕事。
13	兵庫大学 事務部総務課 職員	大学の組織で働くとはどういうことか。
14	学生発表	金融サービス、素材資源エネルギー、社会インフラの業界について。
15	学生発表	小売・流通、生活資材・サービスの業界について。

《テキスト》

テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付します。

《参考図書》

必要に応じ、各講師から指示します。

《授業時間外学習》

毎回の講義内容を振り返り、レポートを作成して下さい。
 各自の発表の準備をして下さい。

《備考》

第1回目のガイダンスを必ず受講して下さい。その際、確定した2016年度のスケジュールを配布します。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	簿記演習 I	科目ナンバリング	EEEL21001
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

商業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定に向けた基礎を学習します。取引ごとに問題演習をし、貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

取引を仕訳で表現することを身につけるとともに、貸借対照表と損益計算書の意義と作成方法を習得します。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記の基礎	簿記とは何か
2	日常の手続き	仕訳の仕組み
3	勘定	仕訳から勘定記入の流れ
4	商品売買	商品売買の基本的な処理方法 三分法
5	現金	簿記上の現金とその取扱い
6	当座預金	当座預金の意味と取扱い 当座借越の処理
7	小口現金	小口現金の意味と処理 インプレストシステムの仕組みと処理方法
8	約束手形	手形の仕組みと約束手形の基礎的処理方法
9	その他の期中取引	前受け・前払い、仮受け・仮払い、利息計算、付随費用、有価証券、租税公課、引出金などの処理方法 訂正処理の仕方
10	試算表 1	試算表の意義 試算表の仕組みと作成方法。
11	試算表 2	試算表の作成演習
12	決算手続き 1	貸倒引当金、有価証券の評価、消耗品の処理、未収・未払いの処理、減価償却
13	決算手続き 2	売上原価の計算
14	精算表	精算表の形式と作成方法
15	復習と確認	簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	経済学入門	科目ナンバリング	EEEL22001
担当者氏名	橋本 尚史		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-2 経済学的思考力		

《授業の概要》

多くのみなさんは「経済学」を大学に入ってはじめて学ぶのではないのでしょうか？一方で、私たちの身の回りで起きている現象に対して「経済学」は有用なアイデアを提供してくれます。たとえば、「行列ができるお店になぜ並ぶのか？」、「なぜ学割制度があるのか？」、などが挙げられます。本講義では、身近な例を用いながら経済学の思考方法を学ぶことを目標とします。

《授業の到達目標》

私たちの身のまわりで起きているさまざまな現象に対して「経済学」のアイデアを用いて論理的に述べられるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。

《テキスト》

1. 木暮太一（2010）『マクロ経済学の本』マトマ商事。

《参考図書》

1. 石川秀樹（2009）『単位が取れる マクロ経済学ノート』講談社。 2. 石川秀樹（2009）『単位が取れる ミクロ経済学ノート』講談社。 3. 吉本佳生『出社が楽しい 経済学』（NHK出版）。 4. 松井彰彦ほか『身近な疑問が解ける 経済学』（日本経済新聞社）。

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして教科書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「経済学」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	機会費用とは	機会費用の考え方について学びます。
3	機会費用とビジネス	機会費用に着目したビジネスについて考えます。
4	人々が協力する理由	人々がなぜ協力するのか考えます。
5	自由貿易の意義	世界が自由貿易を積極的に推進するワケについて考えます。
6	外国為替の見方	外国為替の見方について学びます。
7	名目と実質	経済学における「名目」と「実質」の考え方について学びます。
8	さまざまな物価指標	さまざまな物価指標について学びます。
9	景気指標（1）	さまざまな国内総生産の見方・考え方について学びます。
10	景気指標（2）	さまざまな国内総生産の計算方法について学びます。
11	財市場分析（1）	45度線分析の考え方について学びます。
12	財市場分析（1）	45度線分析の計算方法を学びます。
13	財市場分析（2）	45度分析を用いて政府の行動が経済に与える影響について考えます。
14	乗数効果について	乗数効果の考え方について学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふりかえります。

科目名	経営学入門	科目ナンバリング	EEBL22001		
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

世界経済、社会に対して大きな影響を及ぼしている大企業に焦点を当て、その仕組みと戦略について解説する。企業と私たちが直接かかわる身近な問題から入り、企業と社会とのかかわり、企業活動の本質などについて解説する。なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時、テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げる。

《テキスト》

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学1』実教出版

《参考図書》

守屋貴司・近藤宏一・小沢道紀(2007)『はじめの一步 経営学』ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

- 社会における企業の役割を理解できるようになる。
- 株式会社の制度と意味について理解できるようになる。
- 企業活動の内容(経営の諸機能、経営管理、経営戦略)について理解できるようになる。

《授業時間外学習》

予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくること(該当箇所は、第1回目の授業時に提示する)。
 復習の方法：授業のノートを見返して疑問点を考えてくることとする。

《成績評価の方法》

全回出席することを前提として(1)定期試験90%(なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する)(2)レポート課題の提出物を10%として評価する。理由のある欠席については、別途、課題を与え提出させることがある。無断欠席が多い場合は、試験を受験させない場合がある。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	この授業で学ぶこと	授業の概要説明と進め方の説明、経営学の学習意義を学ぶ
2	現代社会における企業経営①	企業が社会に与える影響力について学ぶ
3	現代社会における企業経営②	経済社会の変化と企業について学ぶ
4	企業活動と利害関係者	利害関係者の概念について学ぶ
5	会社の種類	会社の種類について学ぶ
6	株式会社の制度と意味	株式会社の特徴と会社設立の手続きについて学ぶ
7	財務と会計	企業の活動資金の調達と運用について学ぶ
8	人的資源管理①	採用、配置、異動、評価、能力向上、退職など主要な管理項目について学ぶ
9	人的資源管理②	働きがい、労使利害の調整について学ぶ
10	事例研究	VTRを視聴し企業活動の実際を学び、関連するテーマでレポートを作成する
11	生産管理①	生産の仕組みについて学ぶ
12	生産管理②	工程管理や品質管理について学ぶ
13	マーケティング①	マーケティングの概念、顧客のニーズ調査、商品開発などについて学ぶ
14	マーケティング②	価格設定、流通チャネル、販売促進について学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

科目名	民法	科目ナンバリング	ECSL22008		
担当者氏名	豊福 一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

日常生活において、市民の間で法的な意識が徐々に高まり、都市部でなくても法的な権利義務と無縁ではられない状況にある。実際に市民に身近な家族に関する紛争が家庭裁判所に寄せられる件数は顕著に増加している。この授業では、民法を中心とした日常生活に関わりのある法的知識を具体的事例とともに講義形式で紹介する。できる限りわかりやすく講義し、授業内容が専門的になりすぎないように工夫する。

《授業の到達目標》

- 日常生活に必要な最低限の法的知識を身につけ、受講者自身が法的な問題に直面した際に、その問題を自力で解決することまではできなくとも、独断に陥ることなく冷静に状況を判断し、直面している問題について大まかな結論を推論できる。
- 法律的な話題に興味をもって接するようになる。

《成績評価の方法》

レポート試験(100%)

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。適宜、講義の中で紹介予定。

《授業時間外学習》

講義の内容の性質上、予習は困難であるので、復習の方法として、授業内容を再確認し、授業の中で出てきた法令について実際に法文(六法全書やインターネット上で国が提供している法令データ提供システム)に当たってみること。授業内容で不明な点は質問する等して誤った知識を身につけないよう心がけること。

《備考》

法的な知識が身に付くか否かは、一度聞いたことがあるか否かによっても大きく左右されるので、なるべく出席して耳から聞いてほしいです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代日本の法制度	民法を含む日本の法制度の沿革、刑事制度との関係等日本の現法制度の概略を理解し、法律が日常生活と密接に関係していることを認識する。
2	学生と法律(1)－貸借関係	学生生活において関係する可能性のある法的知識を習得する。この回は、賃貸借契約、消費貸借契約(お金の貸し借り)を中心テーマとし、その概略を認識する。
3	学生と法律(2)－売買取引	前回到引き続き、売買契約、割賦販売、悪質商法を中心テーマとする。特に詐欺的商法にひっかからないようにする。
4	学生と法律(3)－労働関係	前回到引き続き、労働契約(アルバイトを含む)を巡る法的問題を中心テーマとする。勤務先との法的関係、労働時間・賃金等の基本的知識を習得する。
5	学生と法律(4)－交通事故	前回到引き続き、交通事故を巡る法律問題を中心テーマとする。自動車の運転だけでなく、自転車の運転中や歩行者として歩行中の事故に関する基本的知識を習得する。
6	法律行為と契約の成立	本人以外の法律行為の効果の帰属、契約が無効になる場合、期間の計算方法、消滅時効制度等について基本的知識を習得する。
7	所有権	所有と占有の違い、所有権の具体的内容とその限界、取得時効制度、相隣関係(ご近所との土地の問題)等について基本的知識を習得する。
8	住宅ローンの仕組み	住宅ローンに関する用語、住宅ローンを組んだ場合の法律関係、住宅ローンを組んだ際に設定される抵当権の内容、登記制度等について基本的知識を習得する。
9	婚姻・離婚・養子縁組	結婚・離婚・養子縁組をすることによって生じるそれぞれの法律関係、離婚時に取り決めておく必要のある事項等について基本的知識を習得する。
10	後見制度	高齢となり財産管理が困難になった場合に、その健康状態に応じて用意された制度(後見・保佐・補助)についての基本的知識を習得する。
11	相続(1)	相続と死亡の違い、相続人の範囲、相続発生後の大まかな流れ、相続放棄・承認の制度等について基本的知識を習得する。
12	相続(2)	相続発生後に問題となる遺産分割、遺言、遺言の執行、遺留分の制度、相続人がいなかった場合の対処等について基本的知識を習得する。
13	民法の特別法－商法・会社法	会社を設立して事業を行うに当たって必要な法的事項、実際の会社運営の概要、個人事業として行う場合の法的知識について基本的知識を習得する。
14	民法の特別法－保険法	生命保険・傷害保険・自動車保険・年金保険等日常生活で加入する保険契約について、言葉の意味や保険契約の内容等について基本的知識を習得する。
15	民法の特別法－諸法	マンションに住む場合の法律関係、年齢計算の方法等の比較的細かい法的知識を習得し、具体的事例を基にした問題検討を通してさらに理解を深める。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済数学A	科目ナンバリング	ECLL22008
担当者氏名	橋本 尚史		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

経済学の分析対象は複雑に絡み合った経済システムです。このシステムに対して経済学は「数字・数式」を用いて経済システムをモデル化してその分析を容易にしました。すなわち、経済学にとって「数学」はコミュニケーション・ツールのひとつと考えられます。本講義では、「数学」という言葉の使い方を学び、経済学に対してどのように用いられているか学びます。

《授業の到達目標》

経済学に应用されているさまざまな数学の知識を学び、それを用いて自分で経済問題を分析できるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくは複数回の小テスト30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。

《テキスト》

1. 石川秀樹（2010）『単位が取れる 経済数学ノート』講談社。

《参考図書》

1. 尾山大輔，安田洋祐 編（2013）『改訂版 経済学で出る数学』日本評論社。

《授業時間外学習》

経済学に対する数学の応用方法に興味を持つこと、そして教科書・講義資料を用いて復習することが大切です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「経済数学A」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	数学の復習 (1)	経済数学Aに必要な高校までに学んだ数学について復習します。
3	数学の復習 (2)	高校までに学んだ数学と経済数学Aの関連性について説明します。
4	1次関数とグラフ (1)	1次関数の考えについて学びます。
5	1次関数とグラフ (2)	1次関数のグラフの見方について学びます。
6	1次関数の経済学への応用 (1)	市場均衡について学びます。
7	1次関数の経済学への応用 (2)	余剰分析について学びます。
8	2次関数とグラフ (1)	2次関数の考え方について学びます。
9	2次関数とグラフ (2)	2次関数のグラフの見方について学びます。
10	2次関数の経済学への応用 (1)	独占市場における企業の生産行動について考えます。
11	2次関数と経済学への応用 (2)	寡占市場における企業の生産行動について学びます。
12	微分 (1)	微分の考え方について学びます。
13	微分 (2)	微分の計算方法について学びます。
14	制約付き最大化・最小化問題	微分法の経済学への応用方法について学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについて振り返ります。

科目名	経済数学B	科目ナンバリング	ECLL22009
担当者氏名	橋本 尚史		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

経済学の分析対象は複雑に絡み合った経済システムです。このシステムに対して経済学は「数字・数式」を用いて経済システムをモデル化してその分析を容易にしました。すなわち、経済学にとって「数学」はコミュニケーション・ツールのひとつと考えられます。本講義では、「数学」という言葉の使い方を学び、経済学に対してどのように用いられているか学びます。

《授業の到達目標》

経済学に应用されているさまざまな数学の知識を学び、それを用いて自分で経済問題を分析できるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくは複数回の小テスト30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。

《テキスト》

1. 石川秀樹（2010）『単位が取れる 経済数学ノート』講談社。

《参考図書》

1. 尾山大輔，安田洋祐 編（2013）『改訂版 経済学で出る数学』日本評論社。

《授業時間外学習》

経済学に対する数学の応用方法に興味を持つこと、そして教科書・講義資料を用いて復習することが大切です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「経済数学B」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	数学の復習 (1)	経済数学Bに必要な高校までに学んだ数学について復習します。
3	数学の復習 (2)	高校までに学んだ数学と経済数学Bの関連性について説明します。
4	指数について (1)	指数の意味について学びます。
5	指数について (2)	指数計算の方法について学びます。
6	指数の経済への応用 (1)	さまざまな金利の計算方法について学びます。
7	指数の経済への応用 (2)	将来価値と割引現在価値の考え方について学びます。
8	対数について (1)	対数の意味について学びます。
9	対数について (2)	対数計算の方法について学びます。
10	対数の経済への応用 (1)	指数と対数の関係について学びます。
11	対数の経済への応用 (2)	対数計算を用いてプロジェクトの比較方法について学びます。
12	数列について (1)	数列の考え方について学びます。
13	数列について (2)	数列の和の考え方について学びます。
14	数列の経済への応用	さまざまなプロジェクトの理論価値の導出方法について学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについて振り返ります。

科目名	統計学	科目ナンバリング	ECSL22001		
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

インターネットの普及により私たちは多くのデータを容易に手に入れることができるようになりました。その背景にある現象を偏らない目で見つめるために必要なものが「統計的センス」です。これは、訓練で身につけることができます。激動する時代において安全に豊かに暮らしてゆくための知恵として、「統計的センス」を身に付けてもらうことを目的とします。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

《授業の到達目標》

統計の基本的な概念・技法に対して次のことを目指します。

- (1) 基本的な概念が「わかること」
- (2) 基本的な技法が「わかって使えること」具体的には、経済分析など実用的な題材に対して、計算機を使って基本的な統計処理ができることを目指します。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

到達目標(1)については、試験によって見ます。(2)については、確認テストと毎回提出してもらう課題を見ます。平常点(毎回の課題)を20%、期末試験を80%の割合で評価します。ただし、課題をすべて提出することが期末試験を受けるための条件となります。

《備考》

多くのデータに接して、「統計的」センスを磨きましょう。そして、日ごろからデータを単なる数字の並びと見るのではなく、その奥にある現象をみつめる習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身近で役立つ統計	学校、社会、学びの中に見られるごく身近な統計を取り上げ、実際に生活に役立っていることを確認する。
2	統計の面白さとこわさ	統計データやグラフから誤解が生じる例を学び、統計的センスとは何かを理解する。
3	グラフを描く意味と効果的な描き方	グラフの有効性を確認し、グラフの読み方、効果的な描き方を学ぶ。
4	EXCELを使ったグラフの描き方	EXCELを使った様々な種類のグラフ描き方を学ぶ。
5	中心傾向の測度	平均値、中央値、最頻値の特徴と求め方を学ぶ。
6	度数分布(1)	度数分布表の作り方、度数分布グラフの作り方を学ぶ。
7	度数分布(2)	度数分布グラフの見方を学ぶ。
8	データの散らばり度合い(1)	分散、標準偏差の求め方を学ぶ。
9	データの散らばり度合い(2)	箱ひげ図の描き方、見方を学ぶ。
10	幹葉図	幹葉図の描き方、見方を学ぶ。
11	母集団と標本	標本調査の考え方を学ぶ。
12	信頼区間	身近な例を取り上げ、信頼区間の求め方とその利用方法を学ぶ。
13	相関	経営問題を取り上げ、相関係数の求め方とその応用について学ぶ。
14	累積度数分布	累積度数分布の描き方見方を学び、その応用として、パレート図やABC分析について学ぶ。
15	まとめ	社会現象の意味を統計データに基づいて考える。

科目名	現代思想論	科目ナンバリング	ECSL22009
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

現代思想に関する比較的短く論理的な文章を読解します。代表的現代思想の論理と、各思想間の関係性を考察します。また、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

《授業の到達目標》

文章の論理的読解力の獲得。代表的な現代思想の論点の獲得。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが50パーセントです。持ち込みは不可です。毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が50パーセントです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	本講義の目的 論理的読解の方法論
2	現代思想とは1	現代思想に関する概説1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
3	現代思想とは2	現代思想に関する概説2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
4	構造主義への誘い1	構造主義1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
5	構造主義への誘い2	構造主義2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
6	構造主義への誘い3	構造主義3 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
7	構造主義への誘い4	構造主義4 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
8	ポスト・モダン思想のラビリンス(迷宮)1	ポスト・モダン思想1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
9	ポスト・モダン思想のラビリンス(迷宮)2	ポスト・モダン思想2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
10	ポスト・モダン思想のラビリンス(迷宮)3	ポスト・モダン思想3 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
11	ネオ・リベラリズム1	ネオ・リベラリズム1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
12	ネオ・リベラリズム2	ネオ・リベラリズム2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
13	監獄国家・監視社会の克服1	ロイック＝ヴァカンの世界1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
14	監獄国家・監視社会の克服2	ロイック＝ヴァカンの世界2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
15	おわりに	全体の総括

《テキスト》

なし

《参考図書》

講義中に随時示します。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

科目名	現代社会文化論	科目ナンバリング	ECSL22011
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

現代の社会文化に関する比較的短く論理的な文章を読解します。現代社会文化論の論理と、各文化間の関係性を考察します。

また、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

《授業の到達目標》

文章の論理的読解力の獲得。現代文化をめぐる代表的論点の獲得。

《テキスト》

なし

《参考図書》

講義中に随時示します。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが50パーセントです。持ち込みは不可です。毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が50パーセントです。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	本講義の目的 論理的読解の方法論
2	現代社会文化とは1	現代社会文化に関する概説1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
3	現代社会文化とは2	現代社会文化に関する概説2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
4	グローバリズムと競争至上主義社会1	グローバリズムの潮流1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
5	グローバリズムと競争至上主義社会2	グローバリズムの潮流2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
6	グローバリズムとナショナリズム1	強権的社会システムへの道1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
7	グローバリズムとナショナリズム2	強権的社会システムへの道2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
8	エスノセントリズム1	エスノセントリズムの陥穽1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
9	エスノセントリズム2	エスノセントリズムの陥穽2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
10	格差社会1	格差社会と文化1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
11	格差社会2	格差社会と文化2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
12	現代サブ・カルチャー論1	現代のサブカルチャーと文化の多様性1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
13	現代サブ・カルチャー論2	現代のサブカルチャーと文化の多様性2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
14	全体の総括1	全体をふりかえって1
15	全体の総括2	全体をふりかえって2

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	国際社会論	科目ナンバリング	ECSL22007
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

この講義では、まるで空気のように、私たちがふだん意識することのない「近代的」な現象を、様々なトピックをとりあげ、主に歴史的アプローチを使って議論していくことで、現代の私たちの生活を相対化する視点を提供したいと思っています。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 文化のもつ曖昧さ、凝集性、そして政治性を理解できる。
- 様々な国際的事象を理解するための思考ツールを習得できる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《備考》

毎回、国際的であることを意識しつつ、いろいろなトピックを用意して、諸君とゆっくりと考えてみたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	いろいろな近代
2	近代以前の世界（1）	世界がまだいくつもあった頃
3	近代以前の世界（2）	神のあたたかい眼差しがあった頃
4	近代以前の世界（3）	王様がすべての中心であった頃
5	近代の到来（1）	大航海時代のヨーロッパ
6	近代の到来（2）	キリスト教世界の拡大
7	近代の到来（3）	フランス革命の衝撃
8	近代の到来（4）	ヨーロッパ国際体系の成立
9	近代の到来（5）	資本主義の誕生
10	近代の装置（1）	近代国家、近代戦争
11	近代の装置（2）	市場、貨幣
12	近代の装置（3）	学校、監獄、病院
13	近代の思想（1）	子ども、経済人
14	近代の思想（2）	進歩、進化、差別
15	近代の思想（3）	計画、文化、博物館

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	行政学 I	科目ナンバリング	ECRL22003
担当者氏名	木下 準一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

国・地方の行政活動の分析を通じて行政の問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問だ。行政学 I では主に「人」の側面から行政の問題について講義を行う。

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《成績評価の方法》

小テスト (40%) 定期試験 (60%) 授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《テキスト》

『行政学の基礎』 風間規男編、一藝社、2007

《参考図書》

『行政学』 [新版] 西尾勝、有斐閣、2001

『行政学教科書』 [第2版] 村松岐夫、有斐閣、2003

『講座 行政学』 (全6巻) 西尾勝・村松岐夫編、有斐閣、1995

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に講義を進めるので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《備考》

公務員試験を目指す学生は行政学 I と行政学 II を通年科目とみなして受講するとよい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明、公務員試験受験に関する特別指導について
2	行政とは何か	行政学を学ぶ目的、市民による行政統制
3	行政国家	国家の役割の拡大、職能国家あるいは福祉国家概念との比較
4	官房学	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学
5	アメリカ行政学	現代行政学の誕生、アメリカ行政学説史
6	小テスト	1～5週までの学習範囲について小テストを行う予定
7	官僚制の概念	ウェーバー、ラスキ、マーソンの官僚制論
8	官僚の行動様式	インクリメンタリズム、レッドテープなど
9	日本の公務員制度	我が国における近代的公務員制度の確立について
10	諸外国の公務員制度	英国および米国における公務員制度の歩み
11	公務員制度改革	幹部人事のあり方について
12	小テスト	7～11週までの学習範囲について小テストを行う予定
13	官僚と政治家	諸外国における政官関係の比較
14	意思決定の仕組み	稟議制について
15	予算編成と会計検査	予算編成過程、決算の仕組み

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	比較文化論	科目ナンバリング	ECSL22010
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

本授業においては、いくつかの国または地域における文化を、主として映画観賞によって感じ取り、それらを比較考察する。

《テキスト》

とくには指定しない。

《参考図書》

とくには指定しない。

《授業の到達目標》

本授業では、さまざまな文化の中で生活した人々の声に耳を傾け、それをふまえたうえで日本文化や「日本のかたち」などについて、みなさんが自力で思索を深められるようにしたい。

《授業時間外学習》

日ごろから様々な文学や映像の作品に親しむことを勧める。

《成績評価の方法》

上映する各映画を観た考察を書いてもらう小テストと、授業への参加度を合わせた平常点（100%）で評価する。

その詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがありうる。これらは教育学のイロハである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	米国映画鑑賞(1)	「顔のない天使」(前)
3	米国映画鑑賞(2)	「顔のない天使」(後)
4	米国映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
5	中国映画鑑賞(1)	「芙蓉鎮」(前)
6	中国映画鑑賞(2)	「芙蓉鎮」(中)
7	中国映画鑑賞(3)	「芙蓉鎮」(後)
8	中国映画鑑賞(4)	小テスト(考察を書く)
9	韓国映画鑑賞(1)	「われらの歪んだ英雄」(前)
10	韓国映画鑑賞(2)	「われらの歪んだ英雄」(後)
11	韓国映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
12	日本映画鑑賞(1)	「希望の国」(前)
13	日本映画鑑賞(2)	「希望の国」(後)
14	日本映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
15	本授業の総括	文化を相対化してとらえることの重要性

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	フィールドワーク	科目ナンバリング	ECRL22002
担当者氏名	池本 廣希、木下 準一郎、金子 哲、岡本 洋之		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

1. 授業の最初と最後は、全員を対象にガイダンスとまとめをおこないます。
2. 五人の担当者によるローテーションシステムで授業を展開します。

《テキスト》

使用しません。必要に応じてプリント・資料を配布します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

地域デザインコースの入門演習。地域の事象を自分の足と目で直視し、自分の頭で考え、何かを発見する。五感を研ぎ澄まし、発見する力を養います。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、日常的に接することから地域の問題や課題を発見する努力を重ねてください。

《成績評価の方法》

事前学習・現地調査・事後学習の成果で評価します。各担当者20点を満点として評価し、五人の担当者評価点の合計を最終評価とします。

《備考》

授業の性質上、2コマ連続で授業を実施します。雨天の場合は現地調査を中止する場合があります。担当五人の現地調査の詳細は初回の授業時間にプリントで配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	フィールドワーク実施についての全体ガイダンス スケジュールの詳細はこの時間に配布する
2	講義と事前学習	前半：フィールドワークとは 後半：一回目担当者によるグループごとの事前学習
3	フィールドワーク	一回目担当者によるグループごとの現地調査
4	事後学習と事前学習	前半：一回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：二回目担当者によるグループごとの事前学習
5	フィールドワーク	二回目担当者によるグループごとの現地調査
6	事後学習と事前学習	前半：二回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：三回目担当者によるグループごとの事前学習
7	フィールドワーク	三回目担当者によるグループごとの現地調査
8	事後学習と事前学習	前半：三回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：四回目担当者によるグループごとの事前学習
9	フィールドワーク	四回目担当者によるグループごとの現地調査
10	事後学習と事前学習	前半：四回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：五回目担当者によるグループごとの事前学習
11	フィールドワーク	五回目担当者による現地調査
12	事後学習と講義	前半：五回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：全体のまとめ
13	予備日	雨天に備えた予備日
14	予備日	雨天に備えた予備日
15	口頭発表会	フィールドワーク全五回を終了して諸君たちが感じたこと・発見したことについて発表をおこないます。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論E	科目ナンバリング	ECPL22005		
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

この授業では、情報処理技術者の国家資格『ITパスポート試験』のカリキュラムの3つの分野のうち、テクノロジー系の内容（情報処理の基礎理論、コンピュータやネットワークの基礎知識、アプリケーションの活用など）について学ぶ。特に他の授業でカバーしきれていない細かなトピックを中心に授業を進める。なお、残りの2つの分野についてはII期開講の経済情報特論Fにおいて取り扱う。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

授業中に適宜指示する。

《授業の到達目標》

この授業では情報処理技術者の国家資格『ITパスポート試験』のうち、テクノロジー系分野の問題に合格する力を身につけることを目標とする。

《授業時間外学習》

各自毎回の授業内容を復習しておいてください。

《成績評価の方法》

毎回実施する小テストの得点（20%）と期末試験の得点（80%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報処理技術者試験について	情報処理技術者試験の「ITパスポート試験」の概要とこの授業の位置づけなどについて説明する。
2	2進数と文字コード	数値と文字のコンピュータ内部での取り扱いの基礎となる2進数と文字コードについて説明する。
3	CPUとメモリの関係	コンピュータ構成要素において最も重要なCPUとメモリの関係について説明する。
4	ハードディスクの内部構造とディレクトリパス	最も代表的な補助記憶装置であるハードディスクの仕組みと、ファイルの取り扱いについて説明する。
5	アナログとデジタルと代表的なデータ形式	アナログデータのデジタルデータへの変換と、その代表的なファイル形式について説明する。
6	ネットワーク基礎	インターネットの元になるコンピュータネットワークの基礎を説明する。
7	プロトコルとポート番号	インターネットの元になるコンピュータネットワークにおいて、各種サーバーを利用するときに必要なプロトコルとポート番号について説明する。
8	暗号化	インターネットで利用される暗号化方式（共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式）について説明する。
9	ウイルスとセキュリティ対策	インターネットの利用において気を付けるべきウイルスの特徴とそのセキュリティ対策について説明する。
10	ソフトウェアや開発言語の種類と特徴	代表的なソフトウェアの種類や特徴、また開発言語の種類や特徴について説明する。
11	システムの稼働率	頻出問題のひとつであるシステム稼働率の問題について説明する。
12	データベース基礎	データベースの基礎と基本的なデータベース操作言語の命令について説明する。
13	練習問題	まとめと復習
14	練習問題	まとめと復習
15	練習問題	まとめと復習

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論E		科目ナンバリング	ECPL22005	
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本授業は、人権問題について受講生が各自でテーマを設けて調べたうえで、その内容を情報機器を用いて発表するものである。

本授業は教職免許取得要件ではないが、発表を科す関係上、教員になることを考えている学生にとってはその特訓にもなる。

《テキスト》

宅間紘一『はじめての論文作成術—問うことは生きること—』（日中出版）

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

人権問題について、自分でテーマを探し、文献を調べ、発表に向けて内容を整える。発表では必ず十分な発声、資料の提示（あるいは板書）等を通じてメッセージ伝達の基本ができるようにする。

《授業時間外学習》

休日に、人権問題に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

- (1) 開講時に必ず出席すること。
- (2) 非配当学年生や、本授業の既履修者、本授業の他の担当者クラスを履修する者には単位を認定できないが受講は歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	発表準備・講義と作業(1)	担当教員による模範発表
3	発表準備・講義と作業(2)	発表準備ガイド
4	発表準備・講義と作業(3)	発表のアウトラインづくり
5	発表準備・講義と作業(4)	発表準備における文献検索
6	発表準備・講義と作業(5)	板書計画・提示物等作り
7	発表(1)	例：受講生A
8	発表(2)	例：受講生B
9	発表(3)	例：受講生C
10	発表(4)	例：受講生D
11	教育の仕事を考える	学校における人権教育のあり方を考える
12	人権フィールドワーク事前学習	人権問題の歴史と現状
13	人権フィールドワーク(1)	近隣地域における人権問題の実情を見て学ぶ(1)
14	人権フィールドワーク(2)	近隣地域における人権問題の実情を見て学ぶ(2)
15	人権フィールドワーク事後学習と本授業の総括	フィールドワークに関するディスカッションを通じて地域のあり方考える

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論F		科目ナンバリング	ECPL22006	
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

情報処理技術者の国家資格『ITパスポート』のカリキュラムにもとづいて、この授業では、情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的知識（ストラテジ系知識）、システム開発のやり方に関する基礎的知識（マネジメント系知識）を学習します。資格取得を目指す諸君がⅠ期開講の経済情報特論E（テクノロジ系）とともに履修することが望ましい。

《授業の到達目標》

ITパスポート試験に合格できる。

《テキスト》

毎回プリントを配布する。

《参考図書》

『よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト』（FOM出版）

《成績評価の方法》

毎回の授業最後に実施する確認試験(50%)、総合理解度評価(50%)

《授業時間外学習》

事前学習

・授業のプリントを事前に公開するので、授業までに読んでおくこと。

事後学習

・確認試験の間違ったところをよく復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ITパスポートとは	オリエンテーション、練習問題
2	ストラテジ 企業と法務	企業 -組織・OR
3	ストラテジ 企業と法務	企業 -会計・財務
4	ストラテジ 企業と法務	法務
5	ストラテジ 経営戦略	経営戦略マネジメント
6	ストラテジ 経営戦略	技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ
7	ストラテジ システム戦略	システム戦略
8	ストラテジ システム戦略	システム企画
9	マネジメント 開発技術	システム開発技術
10	マネジメント 開発技術	ソフトウェア開発管理技術
11	マネジメント プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント
12	マネジメント サービスマネジメント	サービスマネジメント
13	マネジメント サービスマネジメント	システム監査
14	総括	まとめと練習問題
15	評価	理解度の確認

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論F	科目ナンバリング	ECPL22006
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

本授業は、「経済情報特論E」に引き続き、人権問題について受講生が各自でテーマを設けて調べたうえ、その内容を情報機器を用いて発表するものである。

本授業は教職免許取得要件ではないが、発表を科す関係上、教員になることを考えている学生にとってはその特訓にもなる。

《テキスト》

宅間紘一『はじめての論文作成術—問うことは生きること—』（日中出版）

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

人権問題について、自分でテーマを探し、文献を調べ、発表に向けて内容を整える。発表では必ず十分な発声、資料の提示（あるいは板書）等を通じてメッセージ伝達の基本ができるようにする。

《授業時間外学習》

休日に、人権問題に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

- (1) 開講時に必ず出席すること。
- (2) 非配当学年生や、本授業の既履修者、本授業の他の担当者クラスを履修する者には単位を認定できないが受講は歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	上級発表準備・講義と作業(1)	担当教員による模範発表
3	上級発表準備・講義と作業(2)	上級発表準備ガイド
4	上級発表準備・講義と作業(3)	上級発表のアウトラインづくり
5	上級発表準備・講義と作業(4)	上級発表準備における文献検索
6	上級発表準備・講義と作業(5)	板書計画・提示物等作り
7	上級発表(1)	例：受講生A
8	上級発表(2)	例：受講生B
9	上級発表(3)	例：受講生C
10	上級発表(4)	例：受講生D
11	教育の仕事を考える	学校における人権教育のあり方を考える（深く）
12	人権フィールドワーク（上級）事前学習	人権問題の歴史と現状（深く）
13	人権フィールドワーク（上級・1）	近隣地域における人権問題の実情を見て学ぶ（深く・1）
14	人権フィールドワーク（上級・2）	近隣地域における人権問題の実情を見て学ぶ（深く・2）
15	人権フィールドワーク事後学習と本授業の総括	フィールドワークに関するディスカッションを通じて地域のあり方を考える（深く）

科目名	ミクロ経済学		科目ナンバリング	EEL32002	
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 2-2 経済学的思考力				

《授業の概要》

ミクロ経済学の基礎理論を学びながら、経済学的考え方を身につけることを目標とする。周知のように、私たちが暮らしている市場経済では、市場メカニズムが重要な役割を演じている。ミクロ経済学は、市場のはたらきを分析するための手法である。この授業では、基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場のはたらきについて理解を深め、私たちの身近にみられる問題について経済学的に分析するための基礎的な力を養う。

《授業の到達目標》

- ・ミクロ経済学の基礎的な概念（需要と供給、市場均衡、需要の価格弾力性、費用の諸概念など）を理解する。
- ・ミクロ経済学の基礎理論を用いて、企業の価格戦略など、身近な問題について考察できるようになる。
- ・市場経済の特徴、市場のはたらき（資源配分メカニズム）について理解し、説明できるようになる。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題への取り組みなど）、中間テスト、期末テストをもって評価する。評価の割合は、平常点20%、中間テスト40%、期末テスト40%とする。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社、2003年。

《参考図書》

柳川隆・町野和夫・吉野一郎著『ミクロ経済学・入門 ビジネスと政策を読みとく』有斐閣、2008年。
 奥野正寛編著『ミクロ経済学』東京大学出版会、2008年。
 伊藤元重・下井直毅著『ミクロ経済学 パーフェクトマスター』日本評論社、2007年。
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・経済理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。授業で学んだ箇所については、必ずテキストを読んで復習すること。また、理解を深めるために適宜課題を出すので、しっかりと取り組むこと。
- ・中間テスト前、期末テスト前には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

経済理論を理解するためには、基礎からの積み重ねが重要である。毎回必ず出席し、毎時間ごとにしっかりと復習して理解するように努力していただきたい。質問は随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要ミクロ経済学とは	授業の概要、進め方について解説する。 テキスト第 0章にしたがって、ミクロ経済学とはどのような学問かを説明する。
2	需要と供給	需要曲線、供給曲線の特徴について学ぶ。 需要曲線・供給曲線に関わる概念(需要の価格弾力性、供給の価格弾力性)を理解する
3	消費者行動と需要曲線	需要曲線の構造について学ぶ。 消費者行動について需要曲線を用いて考察する。
4	供給に関する分析(1)	生産に関わる費用構造について考える。 さまざまな費用概念について理解する。
5	供給に関する分析(2)	企業の利潤最大化行動について考える。
6	市場と価格メカニズム	効率的な資源配分とはどのようなことかを考え、理解する。 市場経済の特徴と価格メカニズムの働き、計画経済の問題点について考察する。
7	余剰分析	消費税の引き上げ、農業の支援策、自由貿易と保護貿易の経済効果など身近な問題をとりあげ、その経済効果について需要曲線・供給曲線を用いて分析する。
8	第 1～ 7週までの復習 消費者行動の理論(1)	これまでの授業内容についての理解度を確認する。 無差別曲線について解説する。
9	消費者行動の理論(2)	予算制約のもとでの効用最大化行動、所得の変化が需要に及ぼす影響について無差別曲線と予算制約線を用いて分析する。
10	消費者行動の理論(3)	価格の変化が需要に及ぼす影響について無差別曲線と予算制約線を用いて分析する。 価格の変化がもたらす2つの効果(所得効果と代替効果)について学ぶ。
11	労働供給に関する分析 生産と費用(1)	賃金の変化が労働供給に与える影響について分析する。 生産関数について解説する。
12	生産と費用(2)	等量曲線と等費用曲線を用いて、生産要素(労働、資本など)の価格の変化が生産方法に与える影響、費用最小化行動について考察する。
13	生産と費用(3) 一般均衡と資源配分(1)	企業の利潤最大化行動について考える。 交換の利益について考える。
14	一般均衡と資源配分(2)	ボックスダイアグラムを用いて効率的な資源配分について考察する。 産業間での資源配分について考察する。
15	一般均衡と資源配分(3) 学習のまとめ	比較優位の理論について学び、自由貿易の経済効果について考察する。 第 8週以降の学習内容を中心にこれまでの学習内容を振り返り、理解度を確認する。

科目名	マクロ経済学	科目ナンバリング	EEEL32003
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	講義	単位・必選	4・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

この講義では、マクロ経済学の基本的な概念とモデルを学ぶことで、マクロ経済政策を評価する考え方を身につけることを目標とする。前半ではテキストのpart1に沿って、基本的なマクロ経済データを理解し、財市場・金融市場・労働市場をどのように捉えるのか、その基本を講義する。後半ではテキストのPart2に沿って、前半で学んだ各要素について、より現実的な現象・課題に即しつつ、理解を深めていく。

《テキスト》

伊藤元重 (2012) 『マクロ経済学 第2版』日本評論社

《参考図書》

麻生良文 (2009) 『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
 福田 慎一、照山 博司 (2011) 『マクロ経済学・入門 第4版』有斐閣

《授業の到達目標》

・マクロ経済の基本的な指標について、相互の関連を理解しつ
 つ捉えることができる。
 ・財政政策や金融政策がマクロ経済にどのような影響を与えるのかについて、IS-LMモデルやマンデル・フレミングモデルといった枠組みを使って論理的に説明することができる。

《授業時間外学習》

講義中に出す練習問題や章末の演習問題などを利用して、きちんと復習することを忘れないように。その際、結果を丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」というロジックを丁寧に確認すること。

《成績評価の方法》

毎回の小テスト(20%) + 中間テスト(40%) + 期末テスト(40%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要 マクロ経済学のとらえかた	この講義の狙い・方針について説明し、マクロ経済の対象となる代表的な経済指標について解説する。
2	マクロ経済における需要と供給	経済を眺める視点に、供給要因を重視する新古典派と、需要要因を重視するケインジアンという2つの考え方があることを説明する。
3	有効需要と乗数メカニズム	乗数という概念について説明し、45度線モデルを使って財市場を分析する。
4	貨幣の機能と信用乗数 貨幣需要と利子率	貨幣市場に目を移し、貨幣とは何か、また貨幣の需要がどのような要因によって決まるのか、を説明する。
5	財政・金融政策とマクロ経済①	前回までの知識をもとに、財市場と貨幣市場を同時に視野に入れて、財政政策・金融政策の効果を分析する(IS-LMモデル)。
6	財政・金融政策とマクロ経済②	IS-LMモデルについて理解を深める。投資や貨幣需要の利子弾力性の大小や「流動性のわな」などによって政策の効果がどのように変わるのかを理解する。
7	総需要と総供給①	これまでの分析に労働市場を加え、財政政策・金融政策の効果を分析する(AD-ASモデル)
8	総需要と総供給② 中間テスト	新古典派とケインジアンの考え方の違いがどのようにモデルに反映されるのかを理解する。また、前半で学んだ内容について中間テストを行う。
9	労働市場の機能と失業問題	失業率がどのように決まるのかを理解する。
10	財政政策の基本構造	日本の財政の基本的構造について説明する。
11	財政破綻と財政健全化	国家の財政破綻という現象について説明し、日本における財政健全化をどう実現するかを議論する。
12	インフレーションとデフレーション	インフレとデフレがどのように起きるのか、またそれぞれの社会的コストについて理解する。
13	金融政策と金融システム	金融政策や金融市場について、日本の現実に即して、政策的な観点から議論する。
14	国際金融市場と為替レート	為替レートの決定メカニズムについて理解する。
15	通貨制度とマクロ経済政策	海外への効果の波及も考慮に入れたときに、財政政策・金融政策の効果がどのように変化するかを理解する。

科目名	経営学総論	科目ナンバリング	EEBL32002		
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

企業活動の本質を理解するために経営管理の理論、意思決定、組織構造、動機づけ理論について解説する。さらに企業の国際化、近年重要性が増してきた環境に配慮した経営、NPOをはじめとする非営利組織の経営についても解説する。なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時、テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げる。

《テキスト》

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学2』、実教出版

《参考図書》

齊藤毅憲(2003)『経営学の構図』学文社

《授業の到達目標》

○代表的な経営学説について理解できるようになる。
 ○社会の変化と企業の対応（国際化、社会的責任、環境への配慮、非営利組織の経営）について理解できるようになる。
 ○これからの企業のあり方や組織における自らの働き方について考えられるようになる。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
 (2) 復習の方法：授業のノートを見返して疑問点を考えてくることとする。

《成績評価の方法》

全回出席することを前提として(1)定期試験90%(なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する)(2)レポートなどの提出物を10%として評価する。理由のある欠席については、別途、課題を与え提出させることがある。無断欠席が多い場合は、試験を受験させない場合がある。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上であらかじめ履修しておくのが望ましい科目は「経営学入門」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要 企業経営と経営学	授業の概要説明と進め方、他の科目とのかかわりや経営学の学習意義を学ぶ
2	経営管理①	組織の管理の重要性、マネジメントのプロセス、組織図について学ぶ
3	経営管理②	ライン・スタッフ関係、管理階層について学ぶ
4	経営戦略①	経営戦略の概念、多角化、企業ドメインについて学ぶ
5	経営戦略②	経営戦略と組織の関係、競争戦略について学ぶ
6	グローバリゼーションと企業	グローバリゼーションの意味、国際化した企業活動の実際について学ぶ
7	多国籍企業の経営戦略	現地適応とグローバル標準化について学ぶ
8	異文化マネジメント	異文化を理解し、そのマネジメントについて学ぶ
9	事例研究	VTRを視聴し企業活動の実際を学び、関連するテーマでレポートを作成する
10	企業の社会的責任	企業による社会貢献活動、コーポレートガバナンスの概念を学ぶ
11	環境マネジメント	環境経営の概念と具体的な取り組み事例について学ぶ
12	エコビジネス	エコビジネス市場、事業戦略について学ぶ
13	多様化する組織と企業	NPO法人、非営利組織のマネジメントについて学ぶ
14	情報と企業経営	情報化社会と企業の戦略について学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

科目名	簿記演習Ⅱ		科目ナンバリング	EEAS22003	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

前半は商業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定に向けた基礎を学習します。後半は問題演習を中心に貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。2月に行われる日商簿記検定合格を目指しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

簿記演習Ⅰ・Ⅱを通じて簿記の基本を身につけます。この科目を学んだ後、会計学入門・会計学・工業簿記・財務諸表論・簿記論へと学習を進めることで、会計学の専門知識を習得することができます。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	簿記学習の目的
2	簿記の目的	貸借対照表・損益計算書・仕訳
3	商品売買（1）	仕入と売上
4	商品売買（2）	売上原価の算定（決算整理仕訳）
5	固定資産（1）	固定資産の取得・減価償却（決算整理仕訳）
6	固定資産（2）	固定資産の売却
7	手形取引（1）	手形取引の決済と貸倒
8	貸倒引当金	貸倒損失と貸倒引当金
9	復習と確認（1）	簿記の基本的処理の確認と総合演習
10	費用の見越しと繰り延べ	費用の見越しと繰り延べ（決算整理仕訳）
11	手形取引（2）	手形の裏書と割引・為替手形
12	未払金と未収金	仕入と売上以外の取引
13	仮払金と仮受金	仮払時・仮受時の処理方法と確定時の処理方法
14	有価証券	有価証券の購入・売却・評価替（決算整理仕訳）
15	復習と確認（2）	簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	工業簿記	科目ナンバリング	EEAL22005
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

前半は工業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定に向けた基礎を学習します。後半は問題演習を中心に原価計算と原価管理の方法を習得します。2月に行われる日商簿記検定合格を目指しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

原価の計算方法と原価の管理方法を体系的に身につけます。個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算と学んだ後、会社の収益と費用に注目し、問題点を発見し、分析する力を習得することができます。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

電卓が必要です。商業簿記の知識は必要ありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	簿記学習の目的
2	工業簿記の目的	商業簿記と工業簿記の流れ
3	工業簿記の種類	原価計算と原価管理
4	総合原価計算（1）	総合原価計算の流れ
5	総合原価計算（2）	平均法と先入先出法
6	総合原価計算（3）	仕損と減損・副産物
7	個別原価計算（1）	個別原価計算の流れ
8	個別原価計算（2）	仕掛品勘定・製品勘定・売上原価勘定
9	復習と確認（1）	工業簿記の基本的処理の確認と総合演習
10	標準原価計算（1）	標準原価計算の流れ
11	標準原価計算（2）	材料費と労務費の分析
12	標準原価計算（3）	製造間接費の分析
13	直接原価計算（1）	直接原価計算の流れ
14	直接原価計算（2）	損益計算書の分析
15	復習と確認（2）	工業簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	会計学入門		科目ナンバリング	EEAL22002	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

会計の技術基盤は簿記 (Book-Keeping) ですから、まず、会計はなぜ必要なのか、我々の社会とどう関係があるのかについて学びます。続いて、初級簿記の仕組み (簿記原理) を学習した後、会計原則、一般原則の意義を理解した上で、損益会計、資産会計、負債会計、資本会計の概要へと進みます。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

企業は、仕入先、販売先、銀行、政府、従業員、投資家などの様々な主体と利害関係を持ちながら活動をしています。会計とは、こうした利害関係者に企業の財務情報を提供するものです。この授業では、財務情報を作成するルールと、財務情報がいったい何を示しているのか、財務情報から何を読み取り、いかにして企業の今を知るのかについて学びます。

《授業時間外学習》

時々、宿題を出します。

《成績評価の方法》

到達度確認試験 (3回) の状況 (90%) と宿題 (10%) で評価します。

《備考》

会計は「ビジネス言語」と言われるように、ビジネス社会での必須知識です。「税理士」「公認会計士」「国税専門官 (国家公務員)」など職業会計人を目指すにも必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	会計学とは	会計学とは何か。授業方針、成績評価の方法などのオリエンテーション
2	企業と利害関係者	会社とは何か。会社の意義と会計学の関係
3	簿記と会計学 1	簿記と会計学の違い 仕訳から試算表まで
4	簿記と会計学 2	複式簿記の仕組み 精算表と決算
5	会計原則 1	会計原則の意義と必要性
6	会計原則 2	一般原則、費用収益対応の原則の概要と意義
7	財務諸表	財務諸表の体系
8	貸借対照表	貸借対照表の構成 資産・負債の分類基準 (流動と固定)。
9	損益計算書	損益計算書の形式と作成方法 5つの利益とその意義
10	資産会計 1	流動資産の処理 有価証券、売上債権、棚卸資産
11	資産会計 2	固定資産の処理 固定資産の範囲と区分。固定資産の取得原価、減価償却。
12	負債会計	負債の認識 引当金
13	純資産の会計	資本と利益の基礎概念 資本準備金と利益準備金
14	企業結合	企業結合とのれん会計
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度の確認

科目名	会計学	科目ナンバリング	EEAL22006
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用		

《授業の概要》

会計はビジネス言語と言われるが、誰に何をどのように伝えるのか。それは、会社の利害関係者（株主、投資家、金融機関、取引先など）に会社の情報を財務諸表により伝えることにあります。この会計学の授業では、財務諸表（主に貸借対照表と損益計算書）の構造、作成方法などについて学ぶとともに、会計学が社会にとってなぜ必要なのかについても考えます。

《授業の到達目標》

ビジネスの言語と言われる会計学について、基礎的諸概念を理解すると共に、財務諸表が読めるようになることをねらいとします。その過程で、折に触れ、キャッシュフロー計算書、税効果会計など新しい会計概念についても説明します。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

広瀬義州「会計学スタンダード」中央経済社
 その他は、授業中に紹介します。

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回の授業時に提出してください。

《備考》

簿記を修めたら次にマスターすべき科目です。税理士、公認会計士、国税専門官（国家公務員）などの職業会計人を目指すためには、かならずクリアしなければならない基本科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	企業会計の意義と必要性	企業会計とは何か。簿記と会計学の関係
2	企業会計の基本理念	1) 一般原則 2) 企業会計の仕組み
3	損益会計	1) 収益の認識と測定 2) 貸倒引当金
4	資産会計 1	1) 資産の概念 2) 資産の評価
5	資産会計 2	棚卸資産の原価配分と利益計算
6	資産会計 3	1) 有価証券 2) 固定資産
7	資産会計 4	1) 固定資産の減価償却 2) 圧縮記帳
8	資産会計 5	1) のれん 2) ソフトウェア
9	減損会計	導入の背景と処理
10	繰延資産	繰延資産の種類と処理
11	負債会計	1) 引当金の意義 2) 退職給付会計
12	純資産会計 1	1) 純資産の意義と内容 2) 資本金、資本剰余金、利益剰余金
13	純資産会計 2	1) 合併 2) 会社分割
14	連結財務諸表	連結決算の意義と必要性、子会社、関連会社
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度の確認

科目名	会社法	科目ナンバリング	EEAL22004
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

会社法の基礎を身につけるため、会社制度の法的枠組みと会社統治の仕組みを体系的に学習します。できるだけ直近の経済ニュースを通じて会社法の解説を行うつもりです。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

会社法の基本を身につけます。会社関係者の利害調整の方法を学んだ後、実際の経済ニュースに注目し、会社法を通じて問題点を発見し、分析する力を習得することができます。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

最初に説明を行うため、法律の知識は必要ありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	法律の基礎知識と会社法学習の目的
2	株式会社の設立	設立の法的規制、発起人の義務
3	株式Ⅰ	株式の法的性質、株券の意義
4	株式Ⅱ	株式の種類
5	株式会社の機関総論	株主総会・取締役会・代表取締役・監査役等の意義
6	株主総会	株主総会の意義、議事、株主総会の瑕疵
7	取締役および取締役会	取締役の責任および義務
8	代表取締役	代表取締役会の意義・責任
9	監査役および監査役会	監査役会の意義および責任・義務
10	会社役員の損害賠償責任Ⅰ	対会社責任
11	会社役員の損害賠償責任Ⅱ	対第三者責任
12	組織変更、解散、清算	意義および形態
13	資金調達Ⅰ	方法
14	資金調達Ⅱ	資金調達と支配権
15	近時の諸問題	近時の諸問題のトピック

科目名	金融論	科目ナンバリング	EEL22004		
担当者氏名	橋本 尚史				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

みなさんは「金融」と聞いて何をイメージするのでしょうか?また、なぜ「金融」は経済システムに存在するのでしょうか?たとえば、リーマン・ショックのような金融市場の混乱が実体経済に与える影響を考えれば、その必要性に疑問を持ちます。本講義では「金融」について基本的な考えから学び、経済システムにおける「金融」の重要性について学びます。

《テキスト》

- 池上彰 (2009) 『日銀を知れば経済がわかる』平凡社.

《参考図書》

- 岩田槻久男 (2011) 『テキストブック 金融入門』東洋経済新報社.

《授業の到達目標》

金融のしくみ、特に日本銀行の金融市場における役割を理解することで、日本経済の将来の動向について自分なりの考えが述べられるようになることを目標としています。

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして教科書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「金融論」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	貨幣とは (1)	物々交換から貨幣誕生までの歴史、貨幣の役割について学びます。
3	貨幣とは (2)	物々交換から貨幣誕生までのシミュレーションをおこないます。
4	金融システムの役割	直接金融と間接金融、それぞれのメリットとデメリットについて学びます。
5	金融仲介機関の役割 (1)	市中銀行の役割について学びます。
6	金融仲介機関の役割 (2)	証券会社、投資信託会社の役割について学びます。
7	金融仲介機関の役割 (3)	日本銀行の役割について学びます。
8	金融政策 (1)	金融政策の目的について学びます。
9	金融政策 (2)	マクロ金融政策の政策手段について学びます。
10	債券について	債券（特に国債）の特徴、債券価格と債券利回りの関係について学びます。
11	金融政策 (3)	最近おこなわれている金融政策であるゼロ金利政策と量的緩和政策のしくみについて学びます。
12	金融政策 (4)	ゼロ金利政策解除と量的緩和政策解除が経済に与える影響について考えます。
13	さまざまな金融商品 (1)	さまざまな資産の理論価格の決定メカニズムについて学びます。
14	さまざまな金融商品 (2)	さまざまな派生的証券のしくみについて学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

科目名	情報数理	科目ナンバリング	EI PL33007
担当者氏名	穂積 隆広		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

情報を整理し、分析するためには物事を論理的に考える必要がある。この授業では与えられた状況から結論を導くための論理的な思考の数学的な表現について学ぶ。すなわち、与えられた状況を命題として表現してその真偽を判定したり、複数の命題の組合せから結論を導いたりする論理演算などについて学習を行う。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

必要に応じて授業中に指示する。

《授業の到達目標》

この授業ではまず集合の概念とその演算について説明する。その上で命題とはどのようなものか学び、命題の作り方と判定について学習する。そしてそれらの命題をもとにした論理演算について学習し、与えられた状況を分析して正しい結論を導く論理的な考え方を身に付けることを目標とする。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を復習し、次の授業に備えること。また、レポートなどを確実に完成させ期日を守って提出すること。

《成績評価の方法》

小テストやレポートなどの点数を30%、中間、期末などの試験の点数を70%で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	命題	命題と述語、 \forall や \exists といった記号について
2	否定	命題の否定
3	論理積と論理和	命題の結合、論理積と論理和
4	含意演算	簡単な推論
5	論理式	論理式
6	論理式	論理式の性質と主加法標準形
7	論理式の簡単化	論理式の簡単化とカルノー図
8	論理式の簡単化	論理式の簡単化とドントケア
9	論理式の簡単化	論理式の簡単化とQM法
10	まとめと復習	まとめと復習
11	集合	集合の記法
12	部分集合	部分集合、集合の演算
13	関係	同値関係、順序関係
14	集合演算	集合演算の性質と簡単化
15	まとめと復習	応用課題

科目名	プログラミング I	科目ナンバリング	EI PL33005
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	講義	単位・必選	4・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力		

《授業の概要》

プログラミング言語の特徴・歴史などプログラミングの基礎知識を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としての処理や制御など技法(前半部分)の獲得と論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミング能力の基礎の確立を目指します。

授業は基礎知識や論理・方法を説明する講義とC言語を使った演習を併せて行い『プログラミングII』への接続を行います。

《授業の到達目標》

課されている問題解決の一手段として、プログラミング言語の活用のための基礎(前半部分)を対象とします。

- ・プログラミング言語での処理を行う命令等の理解。
- ・記述規則に従い処理手順や手続きが記述できること
- ・処理手順を論理的に分析し応用する力を獲得することを到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(30%)、筆記による試験(中間試験と定期試験)(60%)、平常点(10%)を評価対象とします。提出課題は提示された課題のすべてとします。

欠席回数が1/3以上あるときには認定ができないことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要・プログラミング環境の整備	プログラミングサーバへのアクセス サーバへの接続の初期設定
2	C言語を基礎知識 基本的操作の練習	サーバでのツール操作方法 プログラミングの基本
3	標準出力の概念 文字・文字列・数字	printf関数での書式、書式変換の解説 定数の用語定義
4	定数と変数 標準入力からの概念	変数の概念、記述方法 標準入力からの入力方法と応用
5	式・演算子 処理の単位	式と演算子の記述 処理のまとめ
6	制御文(1) 条件分岐	条件式による条件分岐 条件式の作成方法
7	制御文(2) 多岐にわたる条件分岐	多岐分岐の考え方
8	中間試験	試験の実施 答案返却および解答
9	制御文(3) 繰り返し制御	ループの概念と有効性
10	制御文(4) 繰り返し制御の入れ子	多重ループの概念と有効性
11	制御文(5) その他の制御文	その他制御文の解説と例の解説
12	制御文(6) その他の制御文の応用	条件式を使わない条件分岐, 多重ループからの脱出方法
13	配列	配列の概念と記述方法
14	関数	関数の概念と記述方法
15	まとめ	その他補足とまとめ プログラミングIIへの接続のための理解

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考図書》

- ・B. W. Kernighan, D. M. Ritchie著, 石田晴久訳, 『プログラミング言語C 第2版 -ANSI規格準拠-』, 共立出版
 - ・鈴木正人著, 『実践Cプログラミング -基礎から設計/実装/テストまで-』, サイエンス社 など。
- その他参考文献については必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい。
また、計算機実習室が空いている時間帯では計算機は自由に利用できますから、各自で記述したプログラムの動作など確認を行って下さい。

《備考》

『プログラミング入門』の既履修が望ましいです。
履修者のより深い理解を促すために授業計画の順序等を変更/修正する場合があります。

科目名	組合せ理論	科目ナンバリング	EI PL22004
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力		

《授業の概要》

与えられた問題に対して、考えられるすべてのパターンを数え上げるための数学的手法を学びます。その組合せがどれだけ存在するかを知ることは社会や日常でも重要とされています。対象の数が少ない場合は、地道に一つ一つ拾い上げれば済みますが、対象の数が多くなれば時間もかかり、誤りも生じかねません。本授業では、組合せが複雑かつ膨大な場合であっても、確実に数え上げることができることを目指します。

《授業の到達目標》

- 問題の内容を把握し、それを図を用いて表現しながら説明することができる。
- 与えられた問題の順列と組合せの数を効率かつ正確に計算することができる。
- 規模の小さい問題からパターンを見出し、その一般化を図ることができる。

《成績評価の方法》

- 提出課題40%
- 筆記試験60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《備考》

組合せ理論で大切なことは、問題を正確に把握し、パターンを誤りなく示すことです。一旦コンパクトにした問題に置き直してみると一般的に成り立つ法則が見えてきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業計画を説明するとともに、組合せ理論に関する具体的な事例の紹介をおこなう。
2	組合せ理論とは	問題の提示から解答に至るまでの途中過程の展開の仕方および一般化について学ぶ。
3	順列と組合せ(1)	和の法則と積の法則を用いて、ものの数や場合を数えるための考え方について学ぶ。
4	順列と組合せ(2)	並び順を問う順列の数の数え方をもとにもれなく数えるための考え方について学ぶ。
5	順列と組合せ(3)	並び順を問わない組合せの数の数え方をもとに、順列の数との関係性について学ぶ。
6	数列と漸化式(1)	問題解決のための漸化式の作り方とその中に現れる等差数列とその和について学ぶ。
7	数列と漸化式(2)	数列の中で、等差数列と等比数列の漸化式および一般項の概念と性質について学ぶ。
8	数列と漸化式(3)	数え上げ問題解決の過程を通して、ベキ乗和の求め方と公式の導き方について学ぶ。
9	集合の表記法(1)	包除原理の準備段階として、集合の概念とその表記および図示の方法について学ぶ。
10	集合の表記法(2)	包除原理を理解するために必要な集合の演算と図示をおこない、性質について学ぶ。
11	集合の表記法(3)	包除原理の基本的な考え方とその関係式を、図を用いて理解する方法について学ぶ。
12	数え上げ技法(1)	集合の包除原理を活用して、与えられた情報から必要な情報の求め方について学ぶ。
13	数え上げ技法(2)	組合せ計算による数え上げの手法の活用および整数の分割問題と性質について学ぶ。
14	数え上げ技法(3)	すべての並び順のうち、制約を設けたときの並び順の数とその規則性について学ぶ。
15	総括と振り返り	授業内容を総括し、問題を解決するためのアプローチとその手法について振り返る。

科目名	コンピュータ基礎論	科目ナンバリング	EIGL22001
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

コンピュータが行う情報処理の基本動作の理解を目的とします。まず、コンピュータを構成する要素である中央演算処理装置、ディスク、メモリなどの基本的な要素の動作について説明します。次に、コンピュータ内部でそれらの要素がどのように連携するかについて説明します。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

『コンピュータシステム』 志村正道著 (コロナ社)
 その他は適宜紹介します。

《授業の到達目標》

コンピュータの基本的な動作が理解できます。例えば、パソコンでプログラムを実行させたとき、パソコンの中で各部品が連携してデータを処理する過程の具体的な動きがわかるようになります。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

周辺にあるパーソナルコンピュータに関心を持ちながら、本講義を受講して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法 コンピュータハードウェアの概要
2	コンピュータの概要	コンピュータの歴史、コンピュータの種類、コンピュータの構成
3	情報とデータ	ビット、文字コード、画像情報、2進数
4	コンピュータの仕組み	コンピュータの基本動作、高信頼性技術、インタフェース、ディスプレイ
5	論理回路(1)	基本的な論理回路(NOT、OR、AND、NOR)
6	論理回路(2)	論理回路による加算器の構成、組み合わせ回路
7	中央処理装置(1)	中央演算装置の基本構成、中央処理装置の動作
8	中央処理装置(2)	中央演算装置の処理高速化の手法、キャッシュメモリ、パイプライン
9	記憶装置(1)	半導体メモリ、RAM、ROM
10	記憶装置(2)	ハードディスク、RAID、DVD、CD
11	アセンブリ言語(1)	機械語、アセンブラ、アドレス指定
12	アセンブリ言語(2)	CASL IIによるプログラム例
13	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムの種類、位置づけ、役割
14	習得事項の整理	コンピュータハードウェアに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	プログラミング入門		科目ナンバリング	EI PL22003	
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

この授業ではスクイークe-toysというマウス操作を基本としたグラフィカルなプログラミング環境を使用し、プログラムがどのようなものか、自分のやりたいことをコンピュータに実行させるためにはどのようなことを考えないといけないのか等を学びます。

《テキスト》

テキストは使用しません。
資料をe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布します。

《参考図書》

『スクイークであそぼう』とーるやまもと（翔泳社）
『Squeak入門』Mark J. Guzdial他（エスアイビーアクセス）
<http://squeakland.org/>

《授業の到達目標》

次の事柄を理解し活用できるようになることを目標とします。
 ・プログラムが記述されたその順番通りに動作することを理解する。
 ・自分がやりたいことをいくつかの場合に分けて記述する。
 ・自分がやりたいことを複数回の繰り返しとして記述する。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
普段の行動においても物事を手順として考えるよう心がけること。

《成績評価の方法》

毎回課題提出があります。
毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。（100%）

《備考》

e-Learningシステムを使って授業を行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	授業の進め方, e-Learningシステムの使い方について
2	etoys基礎	etoysの基本的な使い方やスクリプトの作成について
3	条件分岐	条件に応じた処理の切り替えについて
4	繰り返し処理	繰り返し処理を使った作図について
5	繰り返し処理	複数の繰り返し処理の組み合わせについて
6	変数	変数の説明と繰り返し処理の組み合わせについて
7	再帰	スクリプトの引数の説明と再帰プログラムの作成
8	オブジェクトの座標	座標変数を使ったオブジェクトの移動について
9	スクリプティング	スクリプトの起動や停止命令について
10	乱数	乱数を使ったゲームの作成
11	ボタン	ボタンを使ったゲームの作成
12	オブジェクトイメージ	オブジェクトの絵柄の変更について
13	応用	応用課題1
14	応用	応用課題2
15	応用	応用課題3

科目名	オペレーティングシステム		科目ナンバリング	EIGL22003	
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

オペレーティングシステムは、計算機ハードウェアとその使用者の間で、便利で有効な計算機環境を提供するシステムです。現在では、携帯電話、パソコンをはじめ、大規模なシステムのために、数多くのオペレーティングシステムが構築されています。しかし、それらのオペレーティングシステムにおける基本的な概念はみな共通しています。この授業では、オペレーティングシステムの基本的な概念や技法を学習します。

《授業の到達目標》

- (1) オペレーティングシステムとはなにか、(2) オペレーティングシステムの構成要素、(3) プロセスの概念と管理方法、(4) プロセスが並行して動作するためのプロセスの同期とプロセス間通信の方法、(5) メモリや仮想メモリの管理技法、(6) ファイルの構造やアクセス方法、ディレクトリの管理方法、(7) 割り込み、入出力、タイマの管理方法について説明できる。

《成績評価の方法》

レポート課題2回(30%)、理解度評価(70%)

《テキスト》

『オペレーティングシステムの基礎』 大久保英嗣著(サイエンス社)1997年

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業時間外学習》

- 事前学習
 ・授業のプリントを事前に公開するので、授業までに読んでおくこと。
 事後学習
 ・授業開始時に前回の確認を問題形式で行うので、授業内容の復習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オペレーティングシステムとは	授業の内容とオペレーティングシステムの説明
2	カーネル	オペレーティングシステムの歴史、オペレーティングシステムの構成要素と構成法
3	プロセス管理	プロセスの概念、マルチプログラミング
4	プロセス管理	スケジューリング
5	プロセス管理	並行プロセス
6	プロセス管理	プロセス間通信、デッドロック
7	メモリ管理	メモリ割り付け方法
8	メモリ管理	仮想メモリ、ページング、セグメンテーション
9	メモリ管理	仮想メモリ割り付け方法
10	ファイル管理	ファイルシステム、ファイル操作、ファイル構造、アクセス方法
11	ファイル管理	ディレクトリ構造、ファイル保護、2次記憶の割付方法
12	割り込み処理	割り込み、タイマ管理
13	入出力制御	入出力装置の制御
14	総括	オペレーティングシステムのまとめ
15	評価	理解度の確認

科目名	情報ネットワーク		科目ナンバリング	EIGL22002	
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

インターネットに見られるように、ネットワークなくしては情報処理は成り立ちません。この講義ではネットワーク技術の基本を学ぶことにより、計算機とネットワークがどのように関わっているかを理解し、ネットワークの今後の発展にも対応できる知識を習得します。

《テキスト》

『ネットワーク利用の基礎 [新訂版]』 野口健一郎 (サイエンス社)

《参考図書》

その他は適宜紹介します。

《授業の到達目標》

情報ネットワークの基本的な動作が理解できます。例えば、自宅のパソコンからインターネットを通じて外部のサイトにアクセスしたとき、パケットがどの経路をたどるか、どのプロトコルが用いられるか等の具体的な動きがわかるようになります。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

家庭や大学で利用しているコンピュータがどのようなネットワーク環境にあるか関心を持ちながら、本講義を受講して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法情報ネットワークの概要
2	ネットワークとデジタル通信	ネットワークとは、コンピュータネットワークの利点、ビットの伝送
3	ネットワークの構成	伝送媒体、通信機器、ネットワークの形状、ネットワークの種類
4	プロトコル	プロトコルの必要性、プロトコルの階層構造、プロトコルの体系
5	コンピュータ間の通信接続	通信回線の実現方法、データ伝送の実現
6	ローカルエリアネットワーク	LANプロトコルで考慮すべき事項、LANプロトコルの位置づけ、主要なLANプロトコル、無線LAN
7	インターネットワーク	広域ネットワークの成り立ち、インターネットワーク通信のプロトコル、IP、経路制御
8	トランスポートサービス	トランスポートサービスの位置づけ、トランスポートプロトコル、TCP
9	インターネットワーク	インターネットの構成方法、インターネットへの接続、IPアドレス、ドメイン名、名前解決
10	電子メール	電子メールの基本形式、電子メールの配達仕組み、電子メールの利用
11	ワールドワイドウェブ	WWWの基本構成、ハイパーリンクとハイパーテキスト、URI、ブラウザ、WWWのプロトコル
12	ネットワークプログラミング	FTP、TELNET、クライアントサーバ方式、Webサービス
13	ネットワークセキュリティ	ネットワーク上の脅威、通信路の安全性、暗号技術、不正プログラム
14	習得事項の整理	情報ネットワークに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	アルゴリズム	科目ナンバリング	EI PL22006
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

与えられた問題を解決する処理手順のことをアルゴリズムとよびます。問題の内容を把握し、手順を正確に記さなければなりません。その上で、より効率的な方法を考えることが重要になってきます。本授業では、フローチャートなどを活用して、解決までの手順や考え方について学習します。特にアルゴリズムの効率性に関わるデータ構造について触れ、利用できるようになることを目指します。

《授業の到達目標》

- 問題の内容を把握し、その処理手順について図を用いて説明することができる。
- 各種アルゴリズムの内容と方法の違いについて、明確に説明することができる。
- アルゴリズムを忠実にコンピュータ上で実行し、問題解決を図ることができる。

《成績評価の方法》

提出課題40%
筆記試験60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかつた課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

アルゴリズムで大切なのは、問題を正確に把握し、解決の手順を誤りなく示すことです。全体を小問題に分けてみると、手順の方向性が見えてきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要と問題提示	授業計画を説明するとともに、アルゴリズムに関する具体的な事例紹介をおこなう。
2	流れ図とフォーム(1)	フローチャートを用いた順次構造と選択構造についてフォームと関連しながら学ぶ。
3	流れ図とフォーム(2)	フローチャートを用いた選択構造と繰返構造についてフォームと関連しながら学ぶ。
4	流れ図とフォーム(3)	フローチャートを用いた構造内でフォームとスクリプトとを連動させた実行を学ぶ。
5	問題の解決と処理(1)	問題解決のプログラム実行のため、段階的目標設定と処理手順の記述について学ぶ。
6	問題の解決と処理(2)	問題解決のためのフローチャート描画およびトレース表の記述の仕方について学ぶ。
7	問題の解決と処理(3)	問題解決のための構造化プログラミングを意識した処理手順の考え方について学ぶ。
8	探索と並替の方法(1)	データの探索の方法として、配列を活用した線形探索法と2分探索法について学ぶ。
9	探索と並替の方法(2)	データ格納方法を工夫することで効率的な探索をおこなうハッシュ法について学ぶ。
10	探索と並替の方法(3)	データの並び替えをおこなう、挿入ソート、交換ソート、選択ソートについて学ぶ。
11	再帰の概念と手順(1)	再帰的な木構造のデータ順序や依存関係の概念を用いたヒープソートについて学ぶ。
12	再帰の概念と手順(2)	再帰的な概念を用いたマージソートと高速並び替えのクイックソートについて学ぶ。
13	再帰の概念と手順(3)	再帰的な操作により整数の最大公約数を求めるユークリッドの互除法について学ぶ。
14	解決へのアプローチ	素数を求めるためのエラトステネスのふるいをもとに解決アプローチについて学ぶ。
15	授業総括と振り返り	授業で扱ってきた問題と処理手順および考え方を振り返りながら、総括をおこなう。

科目名	情報デザイン	科目ナンバリング	EI PL22008
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力		

《授業の概要》

情報の特性や特徴を捉え、より良いコミュニケーションがはかれるように概念、技術、表現、思考など情報伝達のための情報の設計を学びます。授業では基礎的な概念や知識を説明する講義を主としますが、それらの理解度をはかる課題も併せて行います。

考え方やその表現方法は主観的な要素を多く含みますが、この科目では客観的な視点での情報を扱います。

《授業の到達目標》

伝えたい情報を分かりやすくかつ正確に適切な情報量を伝達するために

1. 情報の整理ができること。
 2. 表現の意味と方法が理解ができること。
 3. それら意味と表現を活用し、適切な表現ができること。
- を到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(40%)、試験に代わる課題(50%)、平常点(10%)とし総合的に判定し評価します。課題提出は授業内で提示された課題のすべてを対象とします。

欠席回数が全授業実施回数の1/3以上あるときには、単位認定ができないことがあります。

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考図書》

Sinan Si Albir著, 原 隆文 訳, 『入門UML』, オライリージャパン

Russ Miles, Kim Hamilton著, 原 隆文 訳, 『入門UML2.0』, オライリージャパンなど。

その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料を熟読し理解して下さい。

また、身の回りの良いと思われるデザインに関心を持ち、優れている点を観察して下さい。

《備考》

『アプリケーションソフト』の既修得が望ましいです。

また、より深い理解を促すために授業計画の順序等変更・修正する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要・導入	情報とは？ 情報をデザインするとは？
2	意味と形式	意味と形式の違い
3	整理	情報を整理するためのアイデアや方法
4	形	形が有する情報の活用
5	色	色彩が有する情報の活用
6	図・表・グラフ	図や表とグラフの違いと有用性
7	モデリングの基礎(1)	「もの」の特性：インスタンスとクラス
8	モデリングの基礎(2)	「もの」の特性：関連 集約の概念とその応用
9	モデリングの基礎(3)	「もの」の特性：関連 汎化と継承の概念とその応用
10	モデリングの基礎(4)	「手続きと制御」：事象の時系列、シナリオ、事象トレース図
11	モデリングの基礎(5)	「手続きと制御」：並行・同期動作、アクティビティ図
12	モデリングの基礎(6)	「手続きと制御」：事象、状態、動作、状態遷移図の概念
13	モデリングの基礎(7)	「手続きと制御」：事象、状態、動作、状態遷移図の適応
14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの定義と有用性
15	まとめ	その他補足とまとめ

《教職に関する科目》

科目名	発達心理学	科目ナンバリング	ETAL52004		
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。
- 発達障がいに関する正しい知識・理解の仕方を習得すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考図書》

- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』
若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』
川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

受講学生には大学生として常識ある受講態度を求める。授業に出席するだけでは単位の取得は困難であると心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達心理学への導入	発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間発達の規定因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
14	発達のつまずき～その1	発達障がいに関する基礎的事柄について学ぶ。
15	発達のつまずき～その2	LD、ADHD、自閉スペクトラム症について学ぶ。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論	科目ナンバリング	ETAL42007		
担当者氏名	古田 薫、廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③定期試験 50%（持ち込み不可）

《テキスト》

広岡義之（編著）『はじめて学ぶ教育課程論（仮題）』ミネルヴァ書房、2016年発行予定
『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2008年
田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	ETAL42008		
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解すると共に、実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。①わが国の特別活動の歴史と変遷について、②特別活動の意義と目的について、③新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

《テキスト》

広岡義之編著『新しい特別活動（理論と実践）』ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』文部科学省 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年、『新しい特別活動論』創言社 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動とは何か	特別活動には様々なものがあることを理解し、その目的やねらいについて考える。
3	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後における特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実が学校生活の満足度に関係することを理解する。
4	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を、理解する。
5	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容に沿って明確にする。
6	特別活動の内容（学級活動・ホームルーム）	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけと、内容について、その特徴を明確にする。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事（儀式的行事）について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の生徒の実態に合わせて、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	ETAL42009		
担当者氏名	吉永 潤				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教科目標・教科内容の深い理解とそれを踏まえた教材開発の意義、学習者の積極的な学びを引き出す授業技術の重要性、学習者の学びの状況を把握しそれを学習意欲に繋げる評価の重要性、の三点に関する講義の後、優れた授業事例を視聴し、また近年のアクティブ・ラーニング的授業組織の事例を紹介する。最終的には、受講者のグループによるミニ授業の開発と模擬実施を体験し、相互評価を行う。

《テキスト》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する—未来を開くコミュニケーション型授業の提案』東信堂、2400円

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

①教科目標、内容の深い理解をもつ意義が理解できる。②どのような教材が学習者の理解と意欲を形成するかが理解できる。③授業技術と評価が学習達成と意欲を左右することが理解できる。④授業事例のどこがどうして優れているのかを説明できる。⑤指導案を作成することができる。⑥的確な授業技術を用いて授業実施することができる。⑦他者の授業を的確に批評し、学び合うことができる。

《授業時間外学習》

ミニ授業開発～実施にあたって、授業時間外のグループワークを必要とする。

《成績評価の方法》

①授業後の小レポート、②ミニ授業実施への参加の度合い、③授業評価ディスカッションへの参加の度合い、④最終レポート。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義の目的と概要	「覚える」学習観、受動的学習観からの脱却の必要を論じる。
2	教科・単元目標と教科内容	社会科を例にとり、学習指導要領の目標記述、教科書記述、当該内容に関する研究書、の順で見ることにより、教科・単元目標と内容の理解の深まりや広がりを実感する。
3	教材構成と発問構成	ある単元内容が、学習者の学習内容に変換されていくための教材の機能を学ぶ。同時に、学習にとっての触媒である問いの不可欠性と、優れた発問の要件を学ぶ。
4	学習者とのコミュニケーションとしての学習評価	授業をキャッチボールとすれば、授業実施はボールを投げることであり、評価はボールを受けることである。しかし、生徒は自分でボールを投げ返せるとは限らない。
5	優れた授業事例1	小中学校の授業実施例から、優れた事例、改善を要する事例をビデオ視聴し、授業批評につきディスカッションする。
6	優れた授業事例2	前回の続き。特にディベートやゲームを取り入れた授業事例を検討する。
7	優れた授業事例3	高等学校の授業事例に即して、事例視聴と批評ディスカッションを行う。
8	優れた授業事例4	前回の続き。特に生徒のディスカッションを取り入れた授業事例を検討する。
9	ミニ授業開発1	グループ編成を行い、開発する授業の単元を決定し、対応する学習指導要領と教科書の記述を分析する。
10	ミニ授業開発2	各グループごとに、授業構成のコンセプトをプレゼンテーションし、批評、助言し合う。
11	ミニ授業開発3	グループワーク—教科書に加え、独自の教材を作成すると共に、発問を構想する。授業における学習者の思考やコミュニケーションを予想しシミュレーションする。
12	ミニ授業実施1	グループごとにミニ授業を実施し、批評ディスカッションを行う。
13	ミニ授業実施2	前回の続き。
14	ミニ授業実施3	前回の続き。
15	本講義の振り返りと総括	講義内容とミニ授業体験を振り返り、各受講者の学習内容をスピーチする。ディスカッションの後、本講義における重要事項につき、総括を行う。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	ETAL42012		
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)、レポート(40%)、その他(提出物、出席状況、授業への取り組む姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《教職に関する科目》

科目名	教育実習予備演習 I	科目ナンバリング	ETAL42015
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本授業は、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考図書》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようにする。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。アクティブラーニングゾーンを使用予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業【アクティブラーニングゾーン使用予定】
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド【アクティブラーニングゾーン使用予定】
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり【アクティブラーニングゾーン使用予定】
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索【アクティブラーニングゾーン使用予定】
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画【アクティブラーニングゾーン使用予定】
7	模擬授業(1)	例：受講生A【アクティブラーニングゾーン使用予定】
8	模擬授業(2)	例：受講生B【アクティブラーニングゾーン使用予定】
9	模擬授業(3)	例：受講生C【アクティブラーニングゾーン使用予定】
10	模擬授業(4)	例：受講生D【アクティブラーニングゾーン使用予定】
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育
15	本授業の総括	教師の仕事の楽しみ

《教職に関する科目》

科目名	教育実習予備演習Ⅱ	科目ナンバリング	ETAL42016
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本授業はI期の「教育実習予備演習I」（岡本）の続きであり、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考図書》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようになる。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。アクティブラーニングゾーンを使用予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業【アクティブラーニングゾーン使用予定】
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
7	模擬授業(1)	例：受講生A【アクティブラーニングゾーン使用予定】
8	模擬授業(2)	例：受講生B【アクティブラーニングゾーン使用予定】
9	模擬授業(3)	例：受講生C【アクティブラーニングゾーン使用予定】
10	模擬授業(4)	例：受講生D【アクティブラーニングゾーン使用予定】
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から(深める)
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」(深める)
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観(深める)
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育(深める)
15	本授業の総括	教師の仕事の深い楽しみ

平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成26年度 (2014年度) 入学者対象
()は兼任、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ	
				必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教職に関する科目	教職概論	ETAL41001	講義	2		□	△	◇	2										
	教育原理	ETAL41002	講義	2		□	△	◇	2										
	教育史	ETAL53003	講義	2		■	▲	◆						2					岡本 洋之
	発達心理学	ETAL52004	講義	2		■	▲	◆				2							
	教育心理学	ETAL41005	講義	2		□	△	◇		2									
	教育制度論	ETAL41006	講義	2		□	△	◇		2									
	教育課程論	ETAL42007	講義	2		□	△	◇			2								
	公民科教育法	ETPU43001	講義	4		□	△	◇					4						[大和 道生]
	情報科教育法	ETIN43001	講義	4		□	△	◇					4						高野 敦子
	商業科教育法	ETAC43001	講義	4		□	△	◇					4						[鎌田志恵雄]
	特別活動論	ETAL42008	講義	2		□	△	◇			2								
	教育方法・技術論	ETAL42009	講義	2		□	△	◇			2								
	教育情報化演習 I	ETAL53010	演習	2		○	○	◆					2						池本 廣希
	教育情報化演習 II	ETAL53011	演習	2		○	○	◆					2						岡本 洋之
	生徒指導論 (進路指導を含む)	ETAL42012	講義	2		□	△	◇			2								
	教育相談 (カウンセリングを含む)	ETAL43013	講義	2		□	△	◇						2					(原 志津)
	教育実習予備演習 I	ETAL42015	演習	2		□	△	◇			2								
	教育実習予備演習 II	ETAL42016	演習	2		□	△	◇				2							
	教職実践演習 (高)	ETAL44018	演習	2		□	△	◇									2		
	教育実習事前事後指導	ETAL44014	講義	1		□	△	◇									1		
高等学校教育実習	ETAL44017	実習	2		□	△	◇									2			

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 		

《授業の概要》

簿記の基本概念を説明した後、主に、演習によりレベルアップを図ります。3級に合格すれば、続いて2級を目指します。2級合格後は、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」に向けた勉強に進みます。最初は、レベルがほぼ同じなので、一緒に勉強することになりますが、学年が進むにつれ進度に差が出て、内容が異なってきますので、個別指導に近い形になります。

《授業の到達目標》

まず、日商簿記検定3級合格をめざします。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に指示・紹介します。

《授業時間外学習》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。3級に合格するには、毎日少なくとも1時間の家庭学習が必要です。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。毎日1時間の家庭学習が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記上の取引と仕訳	簿記上の取引の意義仕訳の原理
2	仕訳と勘定への転記	仕訳から勘定記入へ
3	勘定の締切と試算表	締切の意味と方法（大陸式と英米式）試算表の意義と作成方法
4	6桁精算表	精算表の意義と作成方法
5	商品売買1	商品売買の基本的処理分記法による処理
6	商品売買2	付随費用、返品・値引きを伴う商品売買三分法による処理
7	現金	簿記上の現金の種類と処理方法現金過不足の処理
8	当座預金	当座預金の意義と基本的な処理当座借越の処理
9	手形1	手形の意義と約束手形の処理
10	手形2	為替手形の意義と処理裏書手形、手形借入・手形貸付
11	貸付金・借入金未収金・未払金	基本的な処理と利息計算
12	前払金・前受金	予約販売の処理
13	仮払金・仮受金	基本的な処理と利息計算
14	立替金・預り金商品券	自店発行商品券、他店発行の商品券の処理
15	固定資産の処理	固定資産の購入と減価償却固定資産の売却

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

実用的なソフトウェア開発の基礎を学びます。具体的なシステムをターゲットに仕様検討から始まり、実装、試験までを実施します。専門演習 I は比較的簡単でイメージしやすい対象をテーマとしますが、各自の興味に対する意見も取り入れます。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配付します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

簡単なソフトウェア開発の流れを習得します。
ソフトウェア実装に関する実力を向上させます。

《授業時間外学習》

授業ごとに各自に課される指定する技術調査や情報処理の演習などの課題を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象となります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ゼミの進め方とスケジュール、メンバー紹介、履修指導
2	システムの仕様検討(1)	システムの実現機能の検討
3	システムの仕様検討(2)	システムのユーザインタフェースの検討
4	システムの仕様検討(3)	システムのデータ構造の検討
5	システムの仕様検討(4)	システム仕様のまとめ
6	システムの仕様検討(5)	システム仕様のまとめ
7	システム開発(1)	プログラミングによるシステムの実装
8	システム開発(2)	プログラミングによるシステムの実装
9	システム開発(3)	プログラミングによるシステムの実装
10	システム開発(4)	プログラミングによるシステムの実装
11	システム開発(5)	プログラミングによるシステムの実装
12	システムの評価(1)	テストデータによるシステムの試験
13	システムの評価(2)	システムの機能と性能の評価
14	システムの評価(3)	システムの総合的な評価
15	まとめ	I期で学んだことのまとめ

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="checkbox"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="checkbox"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 1-5 論理的思考力 <input type="checkbox"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

現実の経済では、情報化・グローバル化などを背景に様々な変化が生じている。私のゼミでは、現実の経済問題（とくに産業・企業に関わる問題）の中から各自興味あるテーマを選び、卒業論文を作成することを最終目的として勉強する。専門演習 I ではその準備段階として、経済学の基礎理論をしっかり身につけるためにテキストを輪読する。授業はゼミ生の報告に基づいて進める。

《授業の到達目標》

- ・経済学の基礎理論を理解し、経済学的考え方を身につける。
- ・経済理論が現実の経済問題を考える際にどのように応用できるのかを考える。
- ・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
- ・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
- ・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢30%、報告内容20%、レポート50%とする。
- ・出席率が70%に満たない場合、報告を行わなかった場合、レポート未提出の場合には、単位を与えないので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要テキストの内容の紹介	ゼミの進め方、受講上の注意、テキストの内容について説明する。
2	レジュメの作り方 (1)	第 4週目以降の報告者の割り当てを行う。 レジュメの作り方を説明する。実際に作成してみよう。
3	レジュメの作り方 (2)	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察する。 レジュメを実際に作成してみよう。
4	マクロ経済学の基本(1)	テキスト第2章に基づいて、マクロ経済学の基本概念について理解を深める。 ※この週からゼミ生の報告に基づいて授業を進める
5	マクロ経済学の基本(2)	テキスト第2章に基づいて、マクロ経済について展望し、現実のマクロ経済政策について考察する。
6	日本経済の歩み(1)	テキスト第3章に基づいて、1970年代以降の日本経済の動向について考察する。
7	日本経済の歩み(2)	テキスト第3章に基づいて、経済のグローバル化の進展と日本経済に及ぼした影響について考察する。
8	ミクロ経済学の基本	テキスト第4章に基づいて、ミクロ経済学の基本概念について理解を深める。
9	ゲーム理論の考え方(1) レポートの準備(1)	テキスト第5章に基づいて、ゲーム理論の基礎を学ぶ。 【レポート作成に向けて】レポートのテーマを決める
10	ゲーム理論の考え方(2) レポートの準備(2)	テキスト第5章に基づいて、企業間協調のメカニズムなどについて考察する。 【レポート作成に向けて】構成を考える
11	公共部門の経済学 レポートの準備(3)	テキスト第6章に基づいて、公共部門の役割について考察する。 【レポート作成に向けて】資料・文献の収集、情報の検索
12	レポート作成 (1)	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
13	レポート作成 (2)	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
14	レポートの報告会	各自のレポートの内容について報告する。レポートの提出
15	学習のまとめ	前回提出したレポートを添削して返却する。 指摘された個所について手直しし、レポートを完成させよう。

《テキスト》

伊藤元重著『はじめての経済学(上)』日経文庫、2004年。
伊藤元重著『はじめての経済学(下)』日経文庫、2004年。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・事前にテキストの該当箇所を読んでくること。
- ・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
- ・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

- ・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたい。
- ・レポートについては卒業論文作成に備えて添削指導を行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

私たちの生活や社会の構造に影響を与える新しい情報技術の仕組みや問題点を学び、オリジナルな活用方法を提案します。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考図書》

《授業の到達目標》

情報技術の仕組みや問題点を理解し、基礎的な実践方法を学ぶことにより、ユーザの視点から情報技術の活用方法を提案するための力をつけることができます。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

学期中に提出する課題が評価の100%です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報とは (1)	経済情報学部で経済と情報をバランスよく学ぶことの意味を考える。
2	情報とは (2)	ライフゲームを通じて、セルオートマトンについて学ぶ。
3	ヒューマンインターフェース	ユーザインターフェースを通して使いやすい情報システムについて考える。
4	地図情報, AR, 音声認識技術など	注目されている最新の情報技術の概要を学ぶ。
5	コンピュータと人間の仕事	コンピュータの発達によって人間の仕事がどのように変わってきたかを考える。
6	情報の表現技術とマルチメディア	情報のデジタル化によって、表現方法やメディアがどのように変わってきたかについて学ぶ。
7	人工知能	人工知能の概要と活用の現状を学ぶ。
8	ビッグデータ	ビッグデータ活用の仕組みと問題点を学ぶ。
9	オープンデータ	オープンデータの作成方法と活用方法を学ぶ。
10	WWWの仕組み	Webページを見る仕組みを理解する。HTML5について学ぶ。
11	HTML5 (1)	HTML5を使った Webプログラムの作成実習
12	HTML5 (2)	HTML5を使った Webプログラムの作成実習
13	JavaScript	JavaScriptを使ったWebプログラムの作成実習
14	ITを巡る時事問題 (1)	今、ITを巡って社会で起きている現象、問題を学ぶ。
15	ITを巡る時事問題 (2)	プレゼンテーション実習。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 		

《授業の概要》

Webアプリケーションを作成するために必要な技術 (HTML, CSS, JavaScript) を、簡単なプログラム作成により学ぶ。

- ・設計書や報告書などさまざまな文書 (ドキュメント) を作成
- ・作ったものを見直す (レビュー)
- ・納期を守る・想定される問題 (リスク) を考え予防策をとる
- ・プログラムを作成する

《授業の到達目標》

- ・HTML, CSS, JavaScriptが自力で使用できる。
- ・各種ドキュメントが正しく作成できる。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

事後学習

- ・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。

《成績評価の方法》

平常の取り組み (50%)、開発成果 (50%) で評価する。特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。

《備考》

文書はすべてパソコンを使った電子文書で作成、プロジェクト内コミュニケーションは電子メールで行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	専門演習の内容説明、プロジェクトの結成、ウェブサイト開発方法の説明
2	ソフトウェア開発技術	HTML, CSS, JavaScriptの修得
3	ソフトウェア開発技術	HTML, CSS, JavaScriptの修得
4	ソフトウェア開発技術	HTML, CSS, JavaScriptの修得
5	ソフトウェア開発技術	HTML, CSS, JavaScriptの修得
6	ソフトウェア開発技術	HTML, CSS, JavaScriptの修得
7	ソフトウェア開発技術	HTML, CSS, JavaScriptの修得
8	ソフトウェア開発技術	HTML, CSS, JavaScriptの修得
9	簡単なWebアプリケーションの開発	HTML, CSS, JavaScriptを用いた簡単なWebアプリケーションの開発 (企画・設計)
10	簡単なWebアプリケーションの開発	HTML, CSS, JavaScriptを用いた簡単なWebアプリケーションの開発 (企画・設計)
11	簡単なWebアプリケーションの開発	HTML, CSS, JavaScriptを用いた簡単なWebアプリケーションの開発 (プログラミング・テスト)
12	簡単なWebアプリケーションの開発	HTML, CSS, JavaScriptを用いた簡単なWebアプリケーションの開発 (プログラミング・テスト)
13	簡単なWebアプリケーションの開発	HTML, CSS, JavaScriptを用いた簡単なWebアプリケーションの開発 (プログラミング・テスト)
14	簡単なWebアプリケーションの開発	総合テスト
15	総括	まとめと報告・振り返り

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005		
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

専門演習 I ではもっとも身近なコンピュータネットワーク技術であるWWWの仕組みやページの記述方法などについて説明し、実際にウェブページを作成します。さらに php というプログラム言語を使い、ユーザーの操作によって変化するウェブページの作成を行います。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

この授業ではウェブの仕組みを学習し、そのウェブ上で動作する開発言語であるphpの基礎を身に付ける。またそのphpとHTMLの構成要素との関係を学び、ウェブ上で動作する簡単なゲームを作成する。さらに、データベース操作言語SQLの基礎について説明し、データベースを活用したウェブページの作成についても身に付ける。

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが、その作成したプログラムがどのような仕組みで動いているのか自分の言葉で説明できるようしっかりと復習しておいてください。

《成績評価の方法》

数回の課題プログラム (60%) とレポート (40%) を元に採点します。

《備考》

コンピュータの使い方は教えますが、それで何をするかは皆さん自身に考えてほしいと思います。自分が本当に興味を持っているものは何なのか常に考えるよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンスと phpの基礎について	htmlと phpの関係と Linuxサーバーの基本的な利用法について説明する。
2	phpの基本命令	phpでの変数の取り扱いや制御文について説明する。
3	フォームと phpの連携	ウェブ上の入力欄に入力された内容がphpでどのように取り扱われるのかを説明する。
4	ファイルへの書き込みについて	ウェブ上で入力された情報をファイルに記録するための取り扱いについて説明する。
5	ファイルの読み込みと簡単なデータ処理	ファイルに記録された情報を取り出して表示する方法や、簡単な集計方法について説明する。
6	簡易掲示板の作成	データファイルとウェブページを連携させ、簡単な掲示板を作成する。
7	cookieの活用	ウェブ上でデータ保存に利用されるcookieについて説明する。
8	応用課題	今までの復習として、ウェブ上で動作するゲームを作成する。
9	応用課題	今までの復習として、ウェブ上で動作するゲームを作成する。
10	応用課題	今までの復習として、ウェブ上で動作するゲームを作成する。
11	データベースの利用について	データベースサーバーの基本的な操作とphpとの連携について説明する。
12	データベース基礎	ウェブ上の入力欄に入力された値をもとに、条件に合ったデータだけを取り出して表示する方法について説明する。
13	データベース基礎	データベースに対してウェブ上からデータを登録する方法について説明する。
14	データベース基礎	データベースに登録されたデータを集計し、その結果を表示する方法について説明する。
15	応用課題	まとめと復習

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	竹川 宏子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

以下3つの内容を柱とする。

1. 経営学の基本書（テキスト）を輪読し、内容を理解する。
2. 新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解する。
3. 学んだ内容を定着させる。

《テキスト》

齊藤毅憲(2012)『経営学を楽しく学ぶ Ver. 3』中央経済社

《参考図書》

演習の際に紹介する。

《授業の到達目標》

- 経営学の基本書を読んで、経営学の基礎知識を身につけることができる。
- 企業の事例研究の方法を理解することができる。
- 企業と社会の関係について理解し、将来の職業についての意識を高めることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：該当箇所のテキストを読んで、分からないところをはっきりさせてくること。ゼミメンバーの前で発表するための準備として教科書をまとめる。
- (2) 復習の方法：3回に1回程度の割合で、理解度確認の小テストを行うので、その準備が復習に該当する。

《成績評価の方法》

- (1) 教科書のまとめ作成、発表を70%
- (2) レポート等課題の提出、確認テストを30%として評価する。

《備考》

無断欠席、遅刻はいつさい認めない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の概要と進め方	学習の進め方の説明と経営学を学ぶ意義について理解する
2	テキストの輪読、ディスカッション	企業の役割について学ぶ
3	テキストの輪読、ディスカッション	ビジネス化の進展について学ぶ
4	テキストの輪読、ディスカッション	国際経済の発展と企業の役割について学ぶ
5	テキストの輪読、ディスカッション	企業分類のフレームワークについて学ぶ
6	テキストの輪読、ディスカッション	現代経営学の考え方について学ぶ
7	テキストの輪読、ディスカッション	企業情報の収集方法について学ぶ
8	テキストの輪読、ディスカッション	経営学の学習方法について詳しく学ぶ
9	事例研究	経営に関する時事問題について学び、レポートを作成する
10	テキストの輪読、ディスカッション	経営者の仕事について学ぶ
11	テキストの輪読、ディスカッション	経営理念について学ぶ
12	テキストの輪読、ディスカッション	企業における所有と経営の関係について学ぶ
13	テキストの輪読、ディスカッション	組織の構造について学ぶ
14	テキストの輪読、ディスカッション	コーポレート・ガバナンスについて学ぶ
15	まとめ	学習内容の振り返りと理解度確認

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005		
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本科目は、財務会計と価値創造プロセス（事業モデル）に関する基礎知識を取り扱う。テキストを順次読み解いて行く。受講生に担当範囲を割り当てますので、レジュメを作成し、報告してもらう。

《テキスト》

後ほど案内する

《参考図書》

友岡賛『会計学原理』税務経理協会／斎藤静樹『企業会計入門：考えて学ぶ』有斐閣／田中弘『新財務諸表論（第5版）』税務経理協会／ハワード シリット他『会計不正はこう見抜け』日経BP社／大石桂一『会計規制の研究』中央経済社／入山章栄『ビジネススクールでは学べない 世界最先端の経営学』日経BP社／長沼博之『ビジネスモデル2025』ソシム

《授業の到達目標》

- 1 財務会計と価値創造プロセスに関する基礎知識の取得
- 2 具体的な企業の「価値創造プロセス」（事業モデル：投入資源(input)→事業資源の活用(business activities)→生産内容(output)→活動結果の社会への正負両面の影響(outcome))を把握・分析できる力と自ら立案し説明できる力を養う
- 3 就職先の選択時に必要な思考力を養い、3年I期から1年間かけて企業調査を行うこと（スーツを着ない就活を始めよ）

《成績評価の方法》

毎回の出席態度を前提として、報告状況、議論への参加と貢献度、課題の提出内容を総合的に評価する（100％）。

《授業時間外学習》

大学での演習科目（ゼミ科目）の位置付け（特徴）を確認し、進んで自学自習に努めることを希望する。発表時の資料準備だけでなく、他の学生が発表した内容について議論ができる（自分の意見が論拠付けて述べられる）ように、発表以外の平時（ゼミの時間以外）においても積極的に課題を探求してほしい。

《備考》

受講生の希望によるが、ゼミコンパやイベント事もあり得る。ゼミ生からのコンパやイベント事の「事業企画書」を随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。受講生各自に演習課題を割り当てる。
2	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
3	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
4	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
5	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
6	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
7	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
8	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
9	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
10	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
11	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
12	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
13	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="checkbox"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="checkbox"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 1-5 論理的思考力 <input type="checkbox"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

受講生の興味関心に合わせ、基本書を使ってミクロ・マクロの経済理論をブラッシュアップするとともに、経済データを使用・分析する技術と、問題意識を掘り下げていく技術を身につけていく。

専門演習 I では、受講生の興味関心の最大公約数となるテーマについて、共同で論文orレポートを仕上げることを目指す。

《授業の到達目標》

- ・経済理論の枠組みを使って、関心のある経済事象を説明することができる。
- ・関心のある経済事象について、現実のデータに即して説明することができる。
- ・自身が理解した理論・データを使って、論理的にまとめ、分かりやすいプレゼンをすることができる。

《成績評価の方法》

授業への参加姿勢50%+共同論文への貢献度50%。
 詳細は受講生と協議して決めるものとする。

《テキスト》

マンキュー『入門経済学』
 その他、テーマに合わせて、適宜紹介する。

《参考図書》

浅子和美・飯塚信夫・篠原聡一（2015）『入門・日本経済 第5版』有斐閣
 その他、テーマに合わせて、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

講義の中で与えられた課題にしっかりと取り組むこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	自己紹介 ゼミの進め方 研究テーマについて レジューメの作り方
2	研究テーマの設定(1)	各自、自身の興味関心について、簡単な資料などを持ち寄りながら発表1
3	研究テーマの設定(2)	各自、自身の興味関心について、簡単な資料などを持ち寄りながら発表2
4	経済理論の復習(1)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集1
5	経済理論の復習(2)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集2
6	経済理論の復習(3)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集3
7	経済理論の復習(4)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集4
8	経済理論の復習(5)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集5
9	研究テーマの設定(3)	各自(もしくはグループで)、それぞれの興味関心について、経済理論とデータを用いて発表1
10	研究テーマの設定(4)	各自(もしくはグループで)、それぞれの興味関心について、経済理論とデータを用いて発表2。共通テーマを選定し、執筆・調査の担当を決める。
11	研究テーマの深化(1)	各自の担当箇所について、進捗状況の報告。討論1
12	研究テーマの深化(2)	各自の担当箇所について、進捗状況の報告。討論2
13	研究テーマの深化(3)	各自の担当箇所について、進捗状況の報告。討論3
14	まとめ(1)	これまでの進捗を整理し、1つのプレゼンとして整理する1
15	まとめ(2)	これまでの進捗を整理し、1つのレポートとして整理する2

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力		

《授業の概要》

簿記の力を身につけます。主に演習によりレベルアップを図ります。また、卒業論文作成に向け経済問題の新聞記事の解説・輪読も行っていきたいと思っております。簿記の学習は、最初は、レベルがほぼ同じなので、一緒に勉強することになりますが、学年が進むにつれ進度に差が出て、内容が異なってきますので、個別指導に近い形になります。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に指示、紹介します。

《授業の到達目標》

まず、日商簿記検定3級を目指します。3級に合格した人は2級を目指します。

《授業時間外学習》

日商3級合格には連続した学習時間約40時間が必要です。家庭学習の習慣を付けてください。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

税理士、公認会計士、国税専門官など職業会計人を目指すためのワンステップになればと考えています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	有価証券	有価証券の売買の処理
2	資本と引出金	個人資本と引出金の処理
3	試算表	試算表の作成に係る総合問題の演習
4	精算表の作成	試算表から精算表作成に至る手続き
5	決算整理1	有価証券の評価 現金過不足の処理
6	決算整理2	消耗品の処理売上原価の計算と処理
7	決算整理3	貸倒の処理と貸倒引当金の設定（差額補充法）
8	決算整理4	固定資産の減価償却
9	決算整理5	費用・収益の見越し・繰延の処理
10	決算整理6	費用・収益の再振替処理
11	決算整理7	決算手続きの総合演習
12	簿記における訂正	簿記における訂正処理の意義と方法
13	8桁精算表	8桁精算表作成に係る総合問題の演習
14	勘定の締切と財務諸表の作成	勘定の締切と費用・収益勘定への集合。損益勘定から資本金勘定への振替と資本金勘定の締切
15	伝票会計	伝票会計の処理方法 3伝票制、5伝票制

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

実用的なソフトウェア開発を学びます。具体的なシステムをターゲットに仕様検討から始まり、実装、試験までを実施します。専門演習Ⅱは専門演習Ⅰより高度な対象をテーマとします。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配付します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

ソフトウェア実装に関する更なる実力向上を目指します。

《授業時間外学習》

授業ごとに各自に課される指定する技術調査や情報処理の演習などの課題を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象となります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ゼミの進め方とスケジュール、履修指導
2	システムの仕様検討(1)	システムの実現機能の検討
3	システムの仕様検討(2)	システムのユーザインタフェースの検討
4	システムの仕様検討(3)	システムのデータ構造の検討
5	システムの仕様検討(4)	システム仕様のまとめ
6	システムの仕様検討(5)	システム仕様のまとめ
7	システム開発(1)	プログラミングによるシステムの実装
8	システム開発(2)	プログラミングによるシステムの実装
9	システム開発(3)	プログラミングによるシステムの実装
10	システム開発(4)	プログラミングによるシステムの実装
11	システム開発(5)	プログラミングによるシステムの実装
12	システムの評価(1)	テストデータによるシステムの試験
13	システムの評価(2)	システムの機能と性能の評価
14	システムの評価(3)	システムの総合的な評価
15	まとめ	Ⅱ期で学んだことのまとめ

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 		

《授業の概要》

日本の産業・企業は、経済のグローバル化や情報化などを背景にさまざまな課題に直面している。この授業では、専門演習Ⅰに引き続いて、テキストを輪読しながら、経済学の基礎理論をしっかりと身につけるとともに、日本経済、産業・企業の現状と課題について検討する。専門演習Ⅰと同様に、学生の報告に基づいて授業を進める。

《テキスト》

伊藤元重著『はじめての経済学(下)』日経文庫、2004年。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ・現実の経済問題について経済学の基礎理論を用いて考察できるようにする。
- ・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
- ・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
- ・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《授業時間外学習》

- ・事前にテキストの該当箇所を読んでくること。
- ・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
- ・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢30%、報告内容20%、レポート50%とする。
- ・出席率が70%に満たない場合、報告を行わなかった場合、レポート未提出の場合には、単位を与えないので注意すること。

《備考》

- ・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたい。
- ・レポートについては卒業論文作成に備えて添削指導を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 資料を読んで考える(1)	ゼミの進め方、受講上の注意について説明する。 経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
2	資料を読んで考える(2)	第4週目以降の報告者の割り当てを行う。 経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
3	資料を読んで考える(3)	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
4	公共部門の経済学	テキスト第6章に基づいて、財政政策について考察する。 ※この週からゼミ生の報告に基づいて授業を進める。
5	金融システムを理解する(1)	テキスト第7章に基づいて、金融システムの基礎について学ぶ。
6	金融システムを理解する(2)	テキスト第7章に基づいて、金融政策について考察する。
7	最近の経済政策について考える	最近の経済政策にかかわる資料を読み、議論を通して理解を深める。
8	企業システム(1)	テキスト第8章に基づいて、日本的企業システムについて考察する。
9	企業システム(2) レポートの準備(1)	テキスト第8章に基づいて、労働市場、産業構造の変化について考察する。 【レポート作成に向けて】レポートのテーマを決める
10	国際経済について(1) レポートの準備(2)	テキスト第9章に基づいて、為替レートの変化が経済に及ぼす影響について考察する。 【レポート作成に向けて】構成を考える
11	国際経済について(2) レポートの準備(3)	テキスト第9章に基づいて、自由貿易の意義について考察する。 【レポート作成に向けて】資料・文献の収集、情報の検索
12	資料を読んで考える(4) レポート作成	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。 【レポート作成】各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
13	レポート作成	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
14	レポートの報告会	各自のレポートの内容について報告する。レポートの提出
15	学習のまとめ	前回提出したレポートを添削して返却する。 指摘された個所について手直しし、レポートを完成させよう。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 		

《授業の概要》

私たちの生活や社会の構造に影響を与える新しい情報技術の仕組みや問題点を学び、オリジナルな活用方法を提案します。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考図書》

《授業の到達目標》

ユーザの視点から情報技術の活用方法を提案するための力をつけることができます。具体的には、テーマの見つけ方、プレゼンテーション技術、基礎的な情報技術を活用するためのスキルを身につけることができます。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

学期中に提出する課題が評価の100%です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ITを巡る時事問題(1)	今、ITを巡って社会で起きている現象、問題を学ぶ。
2	ITを巡る時事問題(2)	プレゼンテーション実習。
3	ITを巡る時事問題(3)	レポート作成実習。
4	新しいIT技術の調査	社会の仕組みや私たちの暮らしに与える影響の大きい新しいIT技術について調査する。
5	新しいIT技術の調査	社会の仕組みや私たちの暮らしに与える影響の大きい新しいIT技術についてその意義や問題点を議論する。
6	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
7	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
8	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
9	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
10	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
11	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
12	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
13	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
14	提案のまとめ	プレゼンテーション準備
15	提案の発表	プレゼンテーションと議論

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力		

《授業の概要》

プロジェクトによる簡単なスマートフォン・アプリを開発し、情報システムの企画から開発作業を通して、実践技術やプロジェクトの進め方などIT実務に必要な技術を習得します。

- ・設計書や報告書などさまざまな文書（ドキュメント）を作成
- ・プロジェクトを問題なく進める
- ・納期を守る・想定される問題（リスク）を考え予防策をとる

《授業の到達目標》

- ・プロジェクトによるシステム開発方法が説明できる。
- ・各種ドキュメントが正しく作成できる。
- ・問題発生時の対応ができる。
- ・Webページ&プログラミングコンテストのテーマに則したシステムを完成させ、コンテストに応募する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- 事後学習
- ・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。

《成績評価の方法》

平常の取り組み(50%)、開発成果(50%)で評価する。特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。

《備考》

文書はすべてパソコンを使った電子文書で作成、プロジェクト内コミュニケーションは電子メールで行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	専門演習の内容説明、スマートフォンアプリの説明
2	スマートフォンアプリ開発技術	スマートフォンアプリの開発技術、開発環境の修得
3	スマートフォンアプリ開発技術	スマートフォンアプリの開発技術、開発環境の修得
4	スマートフォンアプリ開発技術	スマートフォンアプリの開発技術、開発環境の修得
5	ソフトウェア要求定義	基本計画と要件定義
6	ソフトウェア要求定義	基本計画と要件定義
7	ソフトウェア設計	概要設計
8	ソフトウェア設計	概要設計
9	ソフトウェア設計	詳細設計
10	ソフトウェア設計	詳細設計
11	ソフトウェア実装、テスト	プログラミング・単体テスト
12	ソフトウェア実装、テスト	プログラミング・単体テスト
13	ソフトウェア実装、テスト	プログラミング・単体テスト
14	ソフトウェアテスト	結合・総合テスト
15	総括	アプリケーション公開・運用まとめと報告・振り返り

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006		
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="checkbox"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="checkbox"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 1-5 論理的思考力 <input type="checkbox"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

専門演習ⅡではⅠで学んだphpを使い、データベースと連携させたウェブページの作成について学びます。そしてそれらを通して卒業演習で作成するウェブアプリケーションの方向性や内容を決定していく予定です。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

この授業ではまずphpとデータベースの連携についてより深く説明する。その上でウェブ上の情報を一時的に記録する方法のひとつであるセッション変数について説明し、複数のページ間で同じ変数の値を共有する方法について説明する。このような内容を通してユーザーごとに個別の内容を表示するウェブページ作成方法の基礎を身に付ける。

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが、その作成したプログラムがどのような仕組みで動いているのか自分の言葉で説明できるようにしっかりと復習しておいてください。

《成績評価の方法》

作成したウェブページと数回のレポートを中心に（約70％）に評価しますが、授業態度や発表内容も重視（約30％）します。

《備考》

インターネット上の様々なサービスについて、単に利用するだけに終わらず、どんな仕組みで動いているのだろうと少しでも考えてみるよう常に心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンスとデータベースの設計について	授業の概要を説明した上で各自が作成するデータベースの設計を行う。
2	データテーブルの作成	各自が設計したデータベースを実際にデータベースサーバー上に作成する方法について説明する。
3	oracleとphpの連携について	データベースサーバー上のデータをphpを使って取り出し、ウェブページとして表示する方法について説明する。
4	phpとデータの絞込み	条件に合ったデータだけを取り出して表示するウェブページの作成について説明する。
5	phpとデータの並べ替え	データを並べ替えたうえで表示するウェブページの作成について説明する。
6	phpとデータのグループ化	データをグループ化し、集計を行った結果を表示するウェブページの作成について説明する。
7	phpとデータの追加	ウェブ上からデータを追加する方法について説明する。
8	phpとデータの削除	ウェブ上からデータを削除する方法について説明する。
9	phpとデータの変更	ウェブ上からデータを変更する方法について説明する。
10	セッション機能	複数ページ間で同じ変数の値を共有するセッション変数について説明する。
11	人気投票システムの作成	投票可能なポイント数をユーザーごとに制限した人気投票システムに必要なユーザー管理について説明する。
12	人気投票システムの作成	ユーザーごとにポイント数を制限した状態でポイントの投票を受け付けるウェブページを作成する。
13	人気投票システムの作成	投票データを集計し、その結果を表示するウェブページの作成について説明する。
14	人気投票システムの作成	投票データをユーザーごとや投票対象ごとに表示するウェブページを作成し、投票システムを完成させる。
15	まとめ	まとめと復習

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	竹川 宏子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力		

《授業の概要》

以下3つの内容を柱とする。

1. 経営学の基本書（テキスト）を輪読し、内容を理解する。
2. 新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解する。
3. 学んだ内容を定着させる。

《テキスト》

齊藤毅憲『経営学を楽しく学ぶ Ver. 3』中央経済社、2012年（第3版）

《参考図書》

演習の際に紹介する。

《授業の到達目標》

- 経営学の基本書を読んで、経営学の基礎知識を身につけることができる。
- 企業の事例研究の方法を理解することができる。
- 企業と社会の関係について理解し、将来の職業についての意識を高めることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：該当箇所のテキストを読んで、分からないところをはっきりさせてくること。ゼミメンバーの前で発表するための準備として教科書をまとめてくる。
- (2) 復習の方法：3回に1回程度の割合で、理解度確認の小テストを行うので、その準備が復習に該当する。

《成績評価の方法》

- (1) 教科書のまとめ作成、発表を70%
- (2) レポート等課題の提出、確認テストを30%として評価する。

《備考》

無断欠席、遅刻はいつさい認めない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の概要と進め方	演習の進め方について
2	テキストの輪読、ディスカッション	起業家と起業について学ぶ
3	テキストの輪読、ディスカッション	起業のプロセス、ポイントについて学ぶ
4	テキストの輪読、ディスカッション	企業間関係の意味と必要性について学ぶ
5	テキストの輪読、ディスカッション	企業間関係の種類について学ぶ
6	事例研究	企業間関係に関する時事的な問題について学び、レポートを作成する
7	テキストの輪読、ディスカッション	経営戦略の理論（チャンドラー、アンゾフ）について学ぶ
8	テキストの輪読、ディスカッション	経営戦略の変遷について学ぶ
9	テキストの輪読、ディスカッション	ドメインと競争戦略について学ぶ
10	テキストの輪読、ディスカッション	組織の管理原則について学ぶ
11	テキストの輪読、ディスカッション	組織の基本形について学ぶ
12	事例研究	企業戦略に関する時事的な問題について学ぶ
13	テキストの輪読、ディスカッション	NPOと社会起業家について学ぶ
14	テキストの輪読、ディスカッション	行政とNPOと社会起業家の関係について学ぶ
15	まとめ	学習内容の振り返りと理解度確認

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006		
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本科目は、財務会計に関する基礎知識を取り扱う。テキストを順次読み解いて行く。受講生に担当範囲を割り当てますので、レジュメを作成し、報告してもらう。

《テキスト》

後ほど案内する

《参考図書》

David Alexander, International Accounting/Financial Reporting Standards Guide-2016, (978-0808042198)/ Barry Elliott=Jamie Elliott, Financial Accounting and Reporting(17 ed.), (978-1292080505)/ David Alexander=Christopher Nobes, Financial Accounting: An International Introduction(6 ed.), (978-1292102993)

《授業の到達目標》

- 1 財務会計に関する基礎知識の取得
- 2 具体的な企業の「価値創造プロセス」(事業モデル:投入資源(input)→事業資源の活用(business activities)→生産内容(output)→活動結果の社会への影響(outcome))を把握できる力と自ら立案し説明できる力を養う
- 3 就職先の選択時に必要な思考力を養い、3年Ⅰ期から1年間かけて企業調査を行うこと(スーツを着ない就活を始めよう)

《成績評価の方法》

毎回の出席態度を前提として、報告状況、議論への参加と貢献度、課題の提出内容を総合的に評価する(100%)。

《授業時間外学習》

大学での演習科目(ゼミ科目)の位置付け(特徴)を確認し、進んで自学自習に努めることを希望する。発表時の資料準備だけでなく、他の学生が発表した内容について議論ができる(自分の意見が論拠付けて述べられる)ように、発表以外の平時(ゼミの時間以外)においても積極的に課題を探求してほしい。

《備考》

受講生の希望によるが、ゼミコンパやイベント事もあり得る。ゼミ生からのコンパやイベント事の「事業企画書」を随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。受講生各自に演習課題を割り当てる。
2	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
3	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
4	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
5	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
6	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
7	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
8	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
9	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
10	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
11	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
12	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
13	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 		

《授業の概要》

受講生の興味関心に合わせ、基本書を使ってミクロ・マクロの経済理論をブラッシュアップするとともに、経済データを使用・分析する技術と、問題意識を掘り下げていく技術を身につけていく。

専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで学んだ研究手法を、各自の興味関心に適用し、それぞれのテーマについて、知識と考察を深めていく。

《授業の到達目標》

- ・経済理論の枠組みを使って、関心のある経済事象を説明することができる。
- ・関心のある経済事象について、現実のデータに即して説明することができる。
- ・自身が理解した理論・データを使って、論理的にまとめ、分かりやすいプレゼンをすることができる。

《成績評価の方法》

授業への参加姿勢30%+講義での報告30%+期末のレポート40%
詳細は受講生と協議して決めるものとする。

《テキスト》

マンキュー『入門経済学』
その他、受講生各自のテーマに合わせて、適宜紹介する。

《参考図書》

浅子和美・飯塚信夫・篠原聡一（2015）『入門・日本経済 第5版』有斐閣
その他、受講生各自のテーマに合わせて、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

自身の関心に沿って、理論・データについて理解を深めていくこと。また、日々のニュースと自身の関心との関連を常に意識しよう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	専門演習Ⅰの総括	専門演習Ⅰの内容を振り返り、専門演習Ⅱの進め方について説明する。
2	研究テーマの設定(1)	各自、自身の興味関心について、理論・データを持ち寄りながら発表。討論1
3	研究テーマの設定(2)	各自、自身の興味関心について、理論・データを持ち寄りながら発表。討論2
4	研究テーマの設定(3)	各自、自身の興味関心について、理論・データを持ち寄りながら発表。討論3
5	経済理論の復習(1)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集1
6	経済理論の復習(2)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集2
7	経済理論の復習(3)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集3
8	経済理論の復習(4)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集4
9	研究テーマの深化(1)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論1
10	研究テーマの深化(2)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論2
11	研究テーマの深化(3)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論3
12	研究テーマの深化(4)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論4
13	まとめ(1)	各自、レポートの発表1
14	まとめ(2)	各自、レポートの発表2
15	まとめ(3)	各自、レポートの発表3

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	行政学Ⅱ	科目ナンバリング	ECRL23004
担当者氏名	木下 準一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-1 キャリア形成力		

《授業の概要》

国・地方の行政活動の分析を通じて行政の問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問だ。行政学Ⅱでは主に「組織」の側面から行政の問題について講義を行う。

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《成績評価の方法》

小テスト (40%) 定期試験 (60%) 授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《テキスト》

『行政学の基礎』 風間規男編、一藝社、2007

《参考図書》

『行政学』〔新版〕西尾勝、有斐閣、2001

『行政学教科書』〔第2版〕村松岐夫、有斐閣、2003

『講座 行政学』（全6巻）西尾勝・村松岐夫編、有斐閣、1995

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に講義を進めるので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《備考》

公務員試験を目指す学生は行政学Ⅰと行政学Ⅱを通年科目とみなして受講するとよい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明等
2	組織の理論 (1)	ギューリックの行政理論
3	組織の理論 (2)	バーナードの組織理論
4	国家行政組織	行政機関の構造
5	ラインとスタッフ	我が国独特のスタッフ組織
6	小テスト	1～5週までの学習範囲について小テストを行う予定
7	内閣制度の沿革	内閣制度の歴史
8	議院内閣制	首相権限の強化、内閣委員会制度、法案成立率
9	大統領制	米国の大統領、議会との関係
10	行政改革と行政管理	国家公務員制度改革基本法
11	小テスト	7～10週までの学習範囲について小テストを行う予定
12	日本の政府間関係	国・地方関係の姿
13	諸外国の政府間関係	米国の連邦制度
14	住民による行政統制	直接請求制度、住民投票
15	自治とNPO	コミュニティ・ビジネス

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	いなみ野ため池学	科目ナンバリング	ECRL23005		
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 				

《授業の概要》

日本一を誇るいなみ野ため池群。今ため池は、米づくりだけでなく、地域みんなのため池として重宝され始めた。兵庫大学は、いなみ野台地に立地し、借景に寺田池がある。授業は、身近にあるため池を教材としながら、いなみ野台地の歴史・文化・伝統、そしてため池の築造技術や水生動植物の生態にまで及ぶ。なぜ、いなみ野台地に日本一のため池灌漑ができたのかを問いかけながら「ため池発見」をテーマに授業する。

《授業の到達目標》

①地域の特色を理解すること。②ため池を必要とした歴史的・経済的背景を理解し、ため池の存在理由を理解すること。③いなみ野台地で生きてきた先人の苦労と叡智を学び、問題の発見能力・分析能力・解決能力を身につけること。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業時間外学習》

地元から立ち上げる学＝地元学の学習体験として、自分の住む地域の特色といなみ野台地の特色を比較検討し、たんけん・はっけん・ほっとけんの視座で時間外学習を重ねること。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 課題発表 70%

《備考》

★授業はオムニバス形式で展開する。（学内講師2名、学外講師4名）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス	授業の概要についてガイドする。
2	いなみ野ため池学入門	ため池の役割や価値とは何か？ため池ができた歴史的背景は何か？について考える。
3	はりまのため池	全国で最もため池が発達した播磨。その気候的・地形的・歴史的・経済的背景は何かについて考える。
4	寺田池のフィールドワーク	兵庫大学の借景としてある寺田池を散策する。自分の目と感性で問題を地場から発見し、いなみ野ため池学を学んだ学として意義づける。
5	ため池とダムの違い	ダムとため池の違いを考察し、ため池の存在理由とその価値の再発見をする。ため池の構造やため池に水をどのように溜め、どのように配水するのかについても学ぶ。
6	ため池の歴史	スリランカを源流として東南アジア・中国を経て渡来したため池伝播のルートと留学生空海が築造したといわれている香川県の満濃池について話題提供する。
7	共有地（コモンズ）としてのため池の存在価値	社会的共通資本としてのため池の存在価値を確認し、地域コミュニティの場として新たなため池の価値について話題提供する。
8	ため池と日本中世	現代社会の起点が日本中世史にあると指摘する中世史研究者からいなみ野ため池について話題提供する。
9	ため池と土木技術	ため池の技術について水工土木の研究者から話題提供する。
10	ため池と生き物（1）フィールドワーク	水生動植物の専門家と寺田池を散策し、ため池の生き物と環境について体験学習する。
11	ため池と生き物（2）座学	寺田池のアオコ発生のメカニズムとその対策、寺田池と地域の活性化について考える。
12	いなみ野ため池ミュージアムについて	東播磨県民局担当者から兵庫大学とかかわってきたいなみ野ため池ミュージアムについて話題提供する。地域行政の在り方や、地域自治の在り方について考える。
13	めだかのコタローといなみ野ため池ミュージアム	めだかのコタロー劇団の関係者から子供たちとため池について話題提供する。
14	いなみ野ため池灌漑と淡山疏水について	いなみ野台地のため池灌漑の意義について淡山疏水を中心に考え、いなみ野台地に住む先人の苦労と叡智に学ぶ。
15	まとめ	いなみ野ため池学講義からテーマを見つけ、それをまとめて各自発表と意見交換する。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	メディアと政治	科目ナンバリング	ECSL23014
担当者氏名	木下 準一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

メディアの進歩が民主政治の発展とどのような関わりを持ってきたかについて解説する。また、インターネットの普及が政治・行政のあり方にどのような変革を与えうるか考える。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

『大統領とメディア』石澤靖治、文春新書、2001
 『Eポリティックス』横江公美、文春新書、2001
 『コミュニケーションの政治学』鶴木眞、慶応義塾大学出版会、2003

《授業の到達目標》

政治過程においてメディアが演じている役割を理解し、国内外の政治を批判的に見る力を身に付ける。

《授業時間外学習》

適宜宿題を指示する。

《成績評価の方法》

小テスト(40%) 定期試験(60%) 授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室(1W-112)を訪ねてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明等
2	メディアと民主政の歴史	政治的コミュニケーションの種類と性格
3	メディアの機能(1)	情報の収集と分析
4	メディアの機能(2)	情報の発信と説得
5	記者クラブ制度	日米記者クラブ比較
6	演説と広告	政治演説と政治広告
7	情報公開	我が国の情報公開制度
8	小テスト	1～7週までの学習範囲について小テストを行う予定
9	大統領選挙とディベート	アメリカ大統領選挙の仕組みとディベートの重要性
10	選挙とインターネット	選挙運動とインターネット
11	日本の選挙とメディア	公職選挙法と政治広告
12	ネット時代の市民運動	中東におけるジャスミン革命
13	報道官の仕事	情報幕僚の日米比較
14	世論と現代民主主義	電子民主主義の可能性
15	学習のまとめ	これから学ぶべきこと

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	インターンシップ	科目ナンバリング	ECSL22012
担当者氏名	榎木 浩、李 良姫、土方 直子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力		

《授業の概要》

企業等の一員として、組織で働くことの苦勞や喜びを体験することを通じて、社会を知る。8月～9月に企業等で5日間（40時間）以上の実習を行う。実習の前後に事前事後指導を行う。受入先により、期間・日数・時間は異なる。受入先企業等は、実習生の希望は聞くが、原則として大学が調整して決定する。実習後は、実習成果をレポートとして提出する。

《授業の到達目標》

- ・企業等で実際に作業ができる。
- ・報告書が正しく書ける。
- ・社会人として行動できる。

《成績評価の方法》

受入先企業等からの報告(50%)と、実習後のレポート(50%)により評価する。実習での遅刻、欠勤があった場合は、単位認定は行わない。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

必要に応じて事前指導時に指示する。

《授業時間外学習》

実習中毎日の作業日誌を書き、その日の作業報告、翌日の作業計画を示すこと。

《備考》

受入先企業等の人達に兵庫大学生の良さをアピールしよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	インターンシップの目的、キャリア開発、スケジュールの説明
2	事前研修	インターンシップの目的・意義、大学での学びを社会でどのように役立たせるか等を考え、業界研究や企業研究を行う。
3	事前指導	インターンシップ参加にあたってのビジネスマナー等の事前指導
4	実習	受入先での実習（受入先により、期間・日数・時間は異なる）
5	実習	受入先での実習
6	実習	受入先での実習
7	実習	受入先での実習
8	実習	受入先での実習
9	実習	受入先での実習
10	実習	受入先での実習
11	実習	受入先での実習
12	実習	受入先での実習
13	実習	受入先での実習
14	実習	受入先での実習
15	事後研修・報告会	報告書、作業日誌の提出。振り返りと報告会。

科目名	経済情報特論G	科目ナンバリング	EC PL22005		
担当者氏名	橋本 尚史				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

資産（たとえば、土地、マンション、そして株式など）を購入するとき、提示された価格が適正であるか重要です。なぜなら購入した資産の価格が適正価格以上だった場合、資産の価格は下落して損失を被る可能性が高いためです。それでは、その適正な価格はどのように求めればよいのでしょうか？本講義ではファイナンス理論の視点からさまざまな資産の適正価格の求め方について学びます。

《授業の到達目標》

さまざまな資産、特に株式や債券の適正価格を自分で求めることができるようになることを目標としています。したがって、本講義を受講することで証券投資をおこなうときに役立つツールを身に付けられます。また、機会があれば日本経済新聞社が主催している「日経STOCKリーグ」に参加する予定です。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。

《テキスト》

1. 榊原茂樹 ほか (2010) 『入門証券論[新版]』有斐閣。

《参考図書》

1. 石野雄一 (2007) 『ざっくりわかる ファイナンス』光文社。
2. 石野雄一 (2006) 『道具としてのファイナンス』日本実業出版社。

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして教科書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	本講義を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	証券市場とは	実物経済における証券市場の役割について考えます。
3	証券とは	証券市場で取引されている証券の役割について考えます。
4	将来価値とは(1)	将来価値の考え方について学びます。
5	将来価値とは(2)	さまざまな問題に対して将来価値の考え方をを用いて考えます。
6	現在価値とは(1)	現在価値の考え方について学びます。
7	現在価値とは(2)	さまざまな問題に対して現在価値の考え方をを用いて考えます。
8	証券の適正価格(1)	株式の理論価格の求め方について学びます。
9	証券の適正価格(2)	債券の理論価格の求め方について学びます。
10	投資に役立つ理論(1)	ポートフォリオ理論の考え方について学びます。
11	投資に役立つ理論(2)	現実のデータを用いてポートフォリオ理論を実践します。
12	加重資本コスト(1)	加重資本コストの考え方について学びます。
13	加重資本コスト(2)	現実のデータを用いてさまざまな企業の加重資本コストを求めます。
14	企業価値	企業価値の求め方について学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

科目名	経済情報特論H	科目ナンバリング	EC PL22006
担当者氏名	澤山 明宏		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

テーマ：戦略研究 本講義では「戦略」に焦点を絞り、企業の存続と発展のために適切な経営戦略はどのようなものかを考えます。理論と具体的事例を往来しながら経営戦略を学び、さらには日常生活にも応用できる戦略的思考を学ぶ場を提供します。授業では、講義だけでなく、具体的事例についての演習と、受講者による分析事例のを発表も組み入れ、戦略的思考を自分のものにしていくことを狙います。

《授業の到達目標》

- (1) 身近な資料から基本的な企業分析ができる。
- (2) 多くの問題に戦略的思考を応用できる。
- (3) 論理的に意見を述べられる。

《成績評価の方法》

- (1) 個別事例の分析についての発表：40%
- (2) 毎回の演習問題への取組み：20%
- (3) 定期試験：40%

《テキスト》

指定するテキストはありません。必要な教材は授業中に配布します。

《参考図書》

- ・伊丹敬之「経営戦略の論理 第4版」(日本経済新聞社)
 - ・伊丹敬之「孫子に経営を読む」(日本経済新聞社)
- その他の参考図書は授業で紹介していきます。

《授業時間外学習》

- ・経営戦略の学習は例題演習を欠いては絵に描いた餅になりかねません。授業後の毎回の復習として、新聞、雑誌、インターネットなどに掲載されている企業広告を元に経営分析を試みてください。授業後半の発表に役立つでしょう。
- ・毎回提供する演習問題を予習として解いておいてください。

《備考》

毎回、演習問題を受講生に解いて頂きます。唯一絶対の正解はありません。とにかく自分で考え、そして発表してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営と戦略	戦略の正確な定義と、経営における重要性を理解する。
2	企業の目的	経営戦略の前提としての企業の目的について考える。
3	経営分析のツール(1)	経営戦略の策定に先行する経営分析のための具体的技法を学びながらその可能性と限界を考え、戦略の重要性を確かめる。
4	経営分析のツール(2)	
5	経営戦略の本質	さまざまな定義をされている戦略について改めて考え、経営戦略の本質を見出す。
6	ビジネスシステム	戦略実行のための器としてのビジネスシステムのあり方を学ぶ。
7	対顧客戦略	マーケティングの中心でもある顧客対応の戦略を学ぶ。
8	競争戦略	競争にどのように臨むか、競争をするべきかどうかなど、戦略の中心テーマを学ぶ。
9	戦略と経営資源	戦略が機能するために不可欠な経営資源の配分について学ぶ。
10	戦略と技術	企業の技術を戦略の中にどう位置づけるべきかを学ぶ。
11	組織戦略	戦略実行の中心となる組織のあり方について学ぶ。
12	孫子から学ぶ(1)	戦略論の古典「孫子」から経営戦略への示唆を読み取る。
13	孫子から学ぶ(2)	戦略論の古典「孫子」から経営戦略への示唆を読み取る。
14	受講者の分析発表	受講生による事例の分析結果の発表を中心に経営戦略への一層の理解を深める。
15	総括	これまでの授業を振り返り、経営戦略のエッセンスをまとめる。

科目名	簿記論	科目ナンバリング	EEAS23008		
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

簿記演習Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象に、中級簿記（日商簿記検定3級～2級の商業簿記）レベルの能力を養います。簿記は、厳密な理論に基づいて構築されています（かつては数学の一分野でした）。積み木を一つ一つ積み上げるように進んでいきますので、しっかりついて来てください。途中を飛ばすと後が分からなくなりますので、欠席しないようにして下さい。特に、最初が重要です。

《授業の到達目標》

企業会計の基礎となる簿記の知識と技術の習得を図り、税理士、公認会計士試験に合格するための基礎学力を身に付けます。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《テキスト》

使用しませんが、『合格テキスト日商簿記3級』、『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）に準拠して授業を行います。持っていれば役に立ちます。

《参考図書》

『合格トレーニング日商簿記3級』『合格トレーニング日商簿記2級』（TAC出版）

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。

《備考》

日商簿記検定3級の基本（精算表の仕組みまで）を理解していることが前提です。経済情報学部の授業としては高度な内容の授業となります。単位取得のみが目的の人はご遠慮ください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現金と当座預金の処理	小切手、現金過不足、当座借越
2	手形の処理	約束手形、為替手形
3	その他の処理 1	借入金と利息計算、前受・前払金、未収・未払金、有価証券
4	その他の処処理 2	引出金と資本金、訂正処理
5	試算表	試算表作成の総合演習
6	決算手続き 1	有価証券の評価、現金過不足、消耗品、売上原価の計算
7	決算手続き 2	貸倒引当金、減価償却、固定資産の売却、前受・前払金、未収・未払金と再振替処理
8	決算手続き 3	精算表作成の総合演習
9	商品売買	売上原価の計算と棚卸減耗損、商品評価損
10	固定資産	買換え、除却、消失
11	有価証券	購入、売却、評価替、社債の取得と利息の計上、社債の償還
12	引当金	引当金の設定と決算整理
13	株式	株式発行時の処理、無形固定資産・繰延資産の決算処理
14	社債	社債の発行と償却
15	剰余金の処分	株式会社の税金、剰余金の配当と処分

科目名	財政学 I	科目ナンバリング	EEL23008		
担当者氏名	中本 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

日本の財政制度(予算制度・税制・社会保障制度・地方財政制度など)について、基本的な概念・制度・論点を解説する。毎回、講義で学んだことを簡単なテストで確認する。

《テキスト》

なし(HPを通じて講義資料を配布する)

《参考図書》

井堀利宏(2011)『要説：日本の財政・税制 4訂版』税務経理協会

《授業の到達目標》

税制や社会保障制度についてのニュースや新聞記事を理解し、それを批判的に検討できる基本的知識を身につける。

《授業時間外学習》

税・社会保障関連のニュースに意識して接するようにし、「どのような制度が望ましいのか」という問題意識を常に持つようにしてください。

《成績評価の方法》

毎回の小テスト(30%)＋期末テスト(70%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この講義の狙い・方針について話し、日本の財政が直面している課題を簡単に解説する。
2	財政の定義	財政=政府による経済活動がなぜ必要なのかを解説し、25年度予算から日本の財政の特徴を解説する。
3	財政の国際比較	先進国との比較を通じて、再度日本の財政の特徴をつかむ。また、予算編成の背景にある予算原則について解説する。
4	予算の編成過程	予算がどのように決まるのか、その過程を解説する。
5	税制①租税原則・租税体系	租税のあるべき姿としての「租税原則」と、租税がどのように分類されるかを解説する。
6	税制②所得税	日本の所得税について、仕組み・特徴・論点を整理する。
7	税制③消費税	消費税について、仕組み・特徴・論点を整理する。
8	税制④法人税	法人税について、仕組み・特徴・論点を整理する。
9	社会保障①概要・公的年金	社会保障制度の意義や財源・給付のあり方について整理する。公的年金制度の概要と論点を解説する。
10	社会保障②医療保険・介護保険	公的医療保険と介護制度について、概要と論点を整理する。
11	その他の歳出	公共事業など社会保障以外の歳出項目について説明する。
12	地方財政①概要	国と地方の役割分担について整理し、地方財政の概要を解説する。
13	地方財政②歳入・歳出	地方交付税をはじめとする地方財政の主な歳入・歳出項目について説明する。
14	公債	国債の特徴・考え方、および制度の枠組みを説明する。
15	学習のまとめ	今までの学習内容を整理する。

科目名	財政学Ⅱ	科目ナンバリング	EEEL23013
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

財政問題を理論的に考えるために必要となる基本的な考え方を講義する。具体的には、ミクロ経済学の応用として市場の失敗・課税の効果・所得再分配のあり方を、マクロ経済学の応用としての財政・金融政策の効果について解説する。

《テキスト》

なし(HPを通じて講義資料を配布する)

《参考図書》

小塩隆士(2003)『コア・テキスト 財政学』新世社
 その他、適宜講義で指示する。

《授業の到達目標》

政府の行う様々な経済活動について、標準的な経済学の枠組みを使って考察・説明ができる。

《授業時間外学習》

講義で出す練習問題などを丁寧に復習すること。

《成績評価の方法》

毎回の小テスト(30%)＋期末テスト(70%)

《備考》

制度理解が中心の財政学Iと比べ、より理論的な側面を中心に講義を進める。現実的な課題に対する理論の応用については「財政政策」などを受講されたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この講義の狙いと方針について話し、前半の基本的ツールとなるミクロ経済学の余剰分析について簡単に解説・復習する。
2	市場の失敗① 概要	どのようなときに市場メカニズムがうまくいかないか=政府の経済活動が必要かを解説する。また、政府の失敗についても説明する。
3	市場の失敗② 公共財1	市場の失敗の要因の1つである公共財について、理論的な分析の方法を学ぶ。
4	市場の失敗③ 公共財2	公共財の最適供給について、計算問題を通じて確認する。
5	租税の効果① 基礎概念	租税の影響を分析する上で必要となる基礎的な概念について説明する。
6	租税の効果② 消費税1	消費税が市場に与える影響を分析し、望ましい課税のあり方としてラムゼイ・ルールについて理解する。
7	租税の効果③ 消費税2	消費税の効果を、計算問題を通じて確認する。
8	租税の効果④ 所得税	所得税が市場に与える影響を分析する。
9	所得再分配政策①「公平性」	所得再分配政策について考える上で基本となる概念を説明する。
10	所得再分配政策②政策	生活保護や「負の所得税」など、所得再分配をめぐる政策について理論的に説明する。
11	マクロ経済と財政①45度線分析	45度線モデルを用いて、財政政策の効果を分析する。
12	マクロ経済と財政②IS-LM分析	財市場と貨幣市場を同時に考えたときに、財政政策の効果がどのように変わるかを講義する(IS-LMモデル)
13	マクロ経済と財政③新古典派総合	新古典派とケインジアンの方針の違いを説明する。
14	国債の負担	公債の中立性について、それが成立するための条件も含めて説明する。また、公債発行の維持可能性についての条件を導出する。
15	学習のまとめ	今までの学習内容を整理する。

科目名	産業組織論 I	科目ナンバリング	EEEL23010
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input checked="" type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

産業組織論 (Industrial Organization) は、ミクロ経済学の応用領域であり、我々の身近にある現実の諸産業を研究対象とするものである。ここでは単に現状を分析するにとどまらず、さらに進んで、政策のあり方を論じることが多い。事実、この領域での研究成果は、現実の競争政策や規制改革に理論的基礎を提供している。この授業では、主として政策論的視点に立って、産業組織論の基礎理論を中心に解説する。

《授業の到達目標》

- ・我々が暮らしている自由主義経済の基本的特徴、市場の働きとその限界について理解する。
- ・産業組織分析の基本的概念や基礎理論について理解する。
- ・競争政策や規制改革など、現実産業に対する政策のあり方について考察するための基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題など）および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点30%、期末テスト70%とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	産業組織論とは	産業組織論とはどのようなものかをその歴史も紹介しながら解説するとともに、この講義の特徴について説明する。
2	自由主義経済の基本的特徴	自由主義社会とのかかわり、市場の働きについて考察し、理解を深める。
3	価格理論による分析(1)	完全競争市場の長期均衡について考察する。
4	価格理論による分析(2)	供給独占の理論について学ぶ。
5	価格理論による分析(3)	独占的価格設定の問題点について考察する。
6	自由主義経済と競争の役割(1)	経済的自由の保障、競争の情報伝達機能について考える。
7	自由主義経済と競争の役割(2)	企業間競争が資源配分効率、生産効率、技術革新に与える効果について考察する。
8	「市場の失敗」と政府の役割	市場メカニズムの働きでは解決できない問題について考察する。
9	産業組織分析(1)	市場構造に関する分析視点について解説する。
10	産業組織分析(2)	企業間協調のメカニズムや参入阻止行動についてゲーム理論を用いて考察する。
11	産業組織分析(3)	望ましい市場成果を実現するための分析視点について解説する。
12	産業組織分析(4)	国内航空市場、電力市場などでの規制改革をとりあげ、産業組織分析がどのように活用されているかを解説する。
13	競争政策の基礎理論(1)	ハーバード学派の競争政策論について解説する。
14	競争政策の基礎理論(2)	シカゴ学派の競争政策論について解説し、ハーバード学派との違いについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認する。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社、2003年。
 （2年次の「ミクロ経済学」で使用したテキスト。第3～5、8、10週に使用する）その他、毎時間プリントを配布する。

《参考図書》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008年。
 井手秀樹他著『入門・産業組織』有斐閣、2010年。
 土井教之編著『産業組織論入門』ミネルヴァ書房、2008年。
 石原敬子著『競争政策の原理と現実』晃洋書房、1997年。
 その他、適宜授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

- ・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
- ・学期末には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

・授業内容を理解するには基礎からの積み重ねが重要である。毎回必ず出席し、わからないことをそのままにせず、理解に努めていただきたい。質問は随時受け付ける。

科目名	産業組織論Ⅱ	科目ナンバリング	EEEL23012
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

競争政策は、自由主義経済において根本的に重要な経済政策と位置づけられており、世界各国で施行されている。産業組織論は、競争政策の基礎理論として発展してきた経緯があり、ここでの研究成果は、現実の政策施行に経済学的根拠を提供している。この講義では、経済学的視点に立って、競争政策の役割とそのあり方について勉強する。

《授業の到達目標》

- ・我々が暮らしている自由主義経済の基本的特徴と競争政策の役割について理解を深める。
- ・現実の産業に対する政策のあり方について考察するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題、レポート課題）および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点40%、期末テスト60%とする。

《テキスト》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008年。
 その他、毎時間プリントを配布する。

《参考図書》

小田切宏之著『競争政策論 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』日本評論社、2008年。
 川濱昇他著『ベーシック経済法 独占禁止法入門（第3版）』有斐閣、2010年。
 R. ビトフスキー編・石原敬子・宮田由紀夫訳『アメリカ反トラスト政策論』晃洋書房、2010年。

《授業時間外学習》

- ・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
- ・学期中に授業内容を復習し理解度を確保するためにレポート課題を2～3回課す予定である。
- ・学期末には復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

この授業を受講するには「産業組織論Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と受講上の注意	競争政策とはどのようなものかを簡単に解説し、この授業の概要を説明する。
2	アメリカの反トラスト政策 (1)	シャーマン法制定の背景と第2次世界大戦前までの反トラスト政策について解説する。
3	アメリカの反トラスト政策 (2)	1980年代までの政策路線の変遷について、独占に対する政策を中心に解説する。
4	アメリカの反トラスト政策 (3)	1990年代以降の反トラスト政策の動向について解説する。
5	日本の独占禁止政策と産業政策 (1)	独占禁止法制定から1970年代までの政策について、戦後日本の産業政策も取り上げながら解説する。日本での「競争に関する考え方」について考察しよう。
6	日本の独占禁止政策と産業政策 (2)	1980年代以降の規制改革の動向や競争政策強化の動きについて解説する。産業の領域において、競争原理が重視されるようになった背景について考察しよう。
7	自然独占と規制 (1)	自然独占とは何か、どのような問題があるかを解説し、自然独占分野に対する従来の規制の問題点について考察する。
8	自然独占と規制 (2)	自然独占分野での政策のあり方について考察する。
9	参入の経済効果 (1)	コンテストブル市場理論と参入の経済効果について考察する。
10	参入の経済効果 (2)	参入規制の問題点と規制緩和の経済効果について考察する。
11	カルテル・談合	カルテル・談合の問題点について考察し、理解を深める。カルテル・談合に対する具体的政策について解説する。
12	合併	合併の経済効果、合併に対する政策のあり方について考察する。
13	不公正な取引方法について (1)	略奪的価格設定、再販価格維持行為をとりあげ、その問題点について経済学的視点から考察する。
14	不公正な取引方法について (2)	抱き合わせ販売、優越的地位の濫用をとりあげ、その問題点について経済学的視点から考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容について振り返り、理解度を確認する。

科目名	国際経済事情	科目ナンバリング	EEEL23006
担当者氏名	澤山 明宏		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

グローバル経済を多面的かつ具体的に理解し、受講生がグローバル化に関わっていくかを考えるための指針となる授業を目指します。前半ではグローバル化の経済、政治の側面からの理解を目指し、後半では主要な産業と地域の現状を具体的に理解することを狙います。映画など幅広く資料を使用し、グローバル化を具体的なイメージをもって理解し考える機会を提供したいと思えます。

《授業の到達目標》

- (1) グローバル経済について多面的な理解を得る。
- (2) 社会科学的研究に必要な論理的思考ができる。
- (3) 地域研究の基本を身につける。
- (4) 時事問題について興味を持ち理解できる。

《成績評価の方法》

- (1) 毎回提出するコメントシート：20%
- (2) ショートテスト（1～2回）：40%
- (3) 定期試験：40%

《テキスト》

指定テキストはありません。教材は適宜授業で配布します。

《参考図書》

- ・伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」（日本経済新聞社）
 - ・浦田秀次郎「国際経済学入門」（日本経済新聞社）
- この他の参考図書は授業で紹介していきます。

《授業時間外学習》

- ・第2回から第6回の講義は国際経済学を前提にしています。授業でも丁寧に解説しますが、着実に理解するために参考図書などの国際経済関係書を熟読して復習してください。
- ・第7回から第13回は事例研究が中心になります。新聞、雑誌などの時事問題も読むようにすると一層興味を持てるでしょう。

《備考》

- ・毎回の授業後にコメントシートを提出願ひ、理解度をチェックします。関連するどんな質問でも書いてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	グローバル化の諸相	グローバル経済への入門として、その多面性について学ぶ。
2	国際貿易の基本	国際経済理解の基本である貿易理論とその有効性を学ぶ。
3	国際マクロ経済学（1）	国際経済をマクロ的に理解するための基本を学ぶ。
4	国際マクロ経済学（2）	国際経済をマクロ的に理解するための基本を学ぶ。
5	通貨問題	国際経済の理解に不可欠の為替レートの問題に焦点を合わせて学ぶ。
6	通商システム	現在の通商システム（WTO、FTA、EPA、TPPなど）に至るまでの変遷とその内容について学ぶ。
7	地域研究（1）	これまで学んだことを前提にしながら、主要な地域のグローバル化の現状を理解し、そこにあるチャンスとリスクを考える。
8	地域研究（2）	
9	地域研究（3）	
10	地域研究（4）	
11	産業研究（1）	いくつかの産業、企業を選び、どのようにグローバル化に対処しているかを考える。
12	産業研究（2）	
13	産業研究（3）	
14	グローバル・ビジネス	グローバルビジネスにどのような思考法、知識、スキルが必要かを考える。
15	グローバル化の未来	総括としてグローバル化の今後を考える。

科目名	環境経済論A	科目ナンバリング	EEEL23007
担当者氏名	池本 廣希		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力		

《授業の概要》

3. 11東日本大震災以降、環境問題は福島原発事故とあわせてこれまでにない新しい段階を迎えた。人工物は限界強度がある。造ったものは必ず壊れる。文明の利器は便利だが、壊れると凶器にもなる。エントロピーの観点から環境問題を論じ、グローバルな視点・ローカルな視点から地球環境問題・地域の環境問題の論点を整理し、環境問題入門編として授業する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業の到達目標》

①環境問題は他人事でないことを自覚する。②文明の進歩や科学技術の発達の意味を理解する。③成長経済学から持続可能な経済学への転換の意義を理解する。④エントロピー経済学を理解する。⑤現代社会が抱える環境問題に対して経済学はどのような役割を担うのか理解する。

《授業時間外学習》

3. 11東日本大震災と環境問題について考えレポートする。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 試験 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	今なぜ、「環境」と「経済」なのか。
2	地球環境を考える	VTRレスター・ブラウンの「地球白書」(NHK)をみる。世界の環境問題の実情を凝視し、環境問題の「問題」は何かを考える。
3	地球温暖化対策を考える	VTR「CO2を減らそう」(NHK)をみる。温暖化対策について調べ、環境問題と経済学の関係について考える。
4	人類の歴史と環境	人類史を概ね人類革命⇒農業革命⇒商業革命⇒産業革命⇒情報革命⇒環境革命として捉え、環境問題との相関を考える。
5	食料問題と環境問題	「人口増加率>食料増加率」を主張したR.マルサスの「人口の原理」を学習し、「収穫逡減の法則」と環境問題、「成長の経済学」の問題提起をする。
6	産業革命と環境問題	1760年代から始まる産業革命を機に生産力が飛躍的に高まり、資本主義の確立をみた。環境問題の歴史的幕開けともいえる環境問題の歴史的起点について考える。
7	近代的自然観と環境問題	産業革命以降の機械制大工業による自然環境破壊が近代的自然観と自由主義経済によって加速され、環境問題の所在が明らかになる。自然と人間のあり方を問いかけ
8	エネルギー問題と環境問題	CO2を大量に排出し発達してきた資本主義的市場経済。石油の代替エネルギーは何か? 3.11の原発事故を機に浮上してきた再生可能なエネルギーについて考える。
9	エントロピーと環境問題	熱力学の第二法則・エントロピー論を応用し、これからの環境問題の捉え方について問題提起する。特に、これまでの生産概念に注目し、つくることの意味を考える。
10	経済学のあゆみと環境問題	環境経済学が台頭してきた経済学説史の背景を概観し、これからの環境と経済のあり方を考える。
11	市場経済と資本主義的市場経済の区別と同一性	市場経済と資本主義的市場経済について理解を深め、環境経済の意義と役割について考える。
12	市場経済至上主義の問題点と「市場の失敗」	自然環境破壊は、生態学的赤字を累積し、経済的赤字以上の深刻な地球環境問題を引き起こしている。「市場の失敗」について理解を深め、環境経済のこれからを考え
13	生命系の世界からみた環境と経済	「食の地産地消」・「エネルギーの地産地消」について論じ、「地産地消の経済学」の現代的意義について環境問題の視点から考える。
14	水と土と循環型社会	水循環と栄養循環によって支えられる循環型社会について、経済学と生態学の本来的意味を「田んぼと水とため池」の連携をモデルとして考える。
15	まとめ	新たな課題提起

科目名	環境経済論B		科目ナンバリング	EEL23016	
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力			

《授業の概要》

環境経済論Aは、地球環境問題の入門と経済学のあゆみの関係について学習した。環境経済論Bは、環境経済の基礎理論と日本の経済と環境問題に力点をおいて学習する。特に、日本は1960年代の高度経済成長期にエコノミックアニマルと非難され公害列島化し、そのツケがその後の日本経済に多大な影響を及ぼした。「前向きの大敗走」ともいえる急成長の功罪を説きながらわが国の環境と経済の問題について学習する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業の到達目標》

①身近な地域の環境問題を意識し発見する。②発見した地域の環境問題を解決することによって、住みよい地域づくりに参画する能力が鍛えられる。③日本経済論として、また地域環境論として環境経済が生かせるようになる。

《授業時間外学習》

身近な環境問題とその対策について調査・学習し、その成果をレポートする。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 試験 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	環境経済論Aから環境経済論Bへ
2	環境経済の基礎Ⅰ	食と農と環境
3	環境経済の基礎Ⅱ	TPPと環境問題
4	環境経済の基礎Ⅲ	社会的共通資本と共有地（コモンズ）を持たない悲劇について
5	環境経済の基礎Ⅳ	脱市場経済から環境経済へ
6	環境経済の基礎Ⅴ	エントロピー論としての環境政策
7	日本経済と環境問題一	戦後復興経済と学校給食（1950年代～）
8	日本経済と環境問題二	高度経済成長と農村問題（1960年代～）
9	日本経済と環境問題三	高度経済成長と都市問題（1960年代～）
10	日本経済と環境問題四	低成長経済と公害問題（1970年代～）
11	日本経済と環境問題五	安定成長経済と農産物輸入拡大に伴うポストハーベスト問題（1980年代～）
12	日本経済と環境問題六	経済の国際化と地域の衰退（1990年代～）
13	日本経済と環境問題七	地産地消の経済と地域創生（2000年代～）
14	現代文明と環境問題	地下資源型文明社会から地上資源型文明社会へ（2010年代～）
15	まとめ	新たな課題提起

科目名	地域経済論 I	科目ナンバリング	EEEL23011
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

現在、人口減少、高齢化、経済格差、景気低迷など、地域社会は様々な問題を抱えている。この授業では、地域社会が直面している問題を地域経済活性化の視点から考える。また、地域産業の現状と課題を把握した上で、その解決策について考察し、国および地域が取るべき政策について考えることを講義の目的とする。

《テキスト》

特に、使用しない。授業の進行に合わせて、必要な資料を配布する

《参考図書》

授業中に適宜参考文献を紹介する

《授業の到達目標》

- 1) 地域経済理論について説明することができる。
- 2) 地域経済が抱えている問題を把握することができる。
- 3) 地域経済活性化について説明することができる。
- 4) 有効な地域経済活性化手法について理解できる。
- 5) 地域経済の発展のための国および地域が取るべき政策について理解できる。

《授業時間外学習》

- (1) 常に、現在居住地域または、出身地域が抱えている課題について関心を持ち、メモを取り、授業の討論材料とする。
- (2) 事前に配布した資料について目を通し、出された課題について調べ提出する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果20% (参加意欲および討論内容によって評価する)
- (2) レポート課題等の提出物20%
- (3) 定期試験60%

《備考》

居住地域または、出身地域に関連するニュースなどの新聞記事や雑誌を多く集めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	地域経済の基礎理論について説明することができる。
2	日本の地域構造と地域経済①	地域構造の歴史的変遷について理解できる。
3	日本の地域構造と地域経済②	現代日本の地域構造について理解できる。
4	韓国の地域構造と地域経済①	韓国の地域構造の歴史的変遷について理解できる。
5	韓国の地域構造と地域経済②	現代韓国の地域構造について理解できる。
6	地域企業実態分析①	地域の宿泊業の現状と課題を把握できる。
7	地域企業実態分析②	地域の交通業の現状と課題を把握できる。
8	地域企業実態分析③	地域の旅行業の現状と課題を把握できる。
9	地域企業実態分析④	地域の観光施設の現状と課題を把握できる。
10	地域企業実態分析⑤	地域のMICE産業の現状と課題を把握できる。
11	人口減少と地域経済	人口減少が地域経済に与える影響について分析できる。
12	高齢化と地域経済	高齢化が地域経済に与える影響について分析できる。
13	地域格差の問題	地域格差の緩和策について考える。
14	地域連携の可能性	地域振興のための地域連携の方法を探る。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、地域経済促進について意見を述べる。

科目名	地域経済論Ⅱ		科目ナンバリング	EEL23017	
担当者氏名	李 良姫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

現在、人口減少、高齢化、経済格差、景気低迷など、地域社会は様々な問題を抱えている。この授業では、地域社会が直面している問題を地域経済活性化の視点から考える。また、地域産業の現状と課題を把握した上で、その解決策について考察し、国および地域が取るべき政策について考えることを講義の目的とする。

《テキスト》

特に、使用しない。授業の進行に合わせて、必要な資料を配布する。

《参考図書》

授業中に適宜参考文献を紹介する。

《授業の到達目標》

- 1) 地域経済理論について説明することができる。
- 2) 地域経済が抱えている問題を把握することができる。
- 3) 地域経済活性化について説明することができる。
- 4) 有効な地域経済活性化手法について理解できる。
- 5) 地域経済の発展のための国および地域が取るべき政策について理解できる。

《授業時間外学習》

- (1) 常に、現在居住地域または、出身地域が抱えている課題について関心を持ち、メモを取り、授業の討論材料とする。
- (2) 事前に配布した資料について目を通し、出された課題について調べ提出する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果20% (参加意欲および討論内容によって評価する)
- (2) レポート課題等の提出物20%
- (3) 定期試験60%

《備考》

居住地域または、出身地域に関連するニュースなどの新聞記事や雑誌を多く集めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域経済活性化方法	観光開発を通じた地域経済活性化方法について提示する
2	地域人材確保政策①	有効的なIターンUターン政策について提示する
3	地域人材確保政策②	地域の若者が地元で働ける効果的な政策について提示する
4	交流人口の拡大	人口増加が困難な地域に交流人口を拡大させ地域活性化につなげる方法について考える
5	地域経済活性化政策①	インバウンド観光を通じた地域活性化政策について考察する
6	地域経済活性化政策②	国内観光促進による地域活性化政策について考える
7	地域経済活性化のための国が取るべき政策①	人口減少・高齢化対策について考える
8	地域経済活性化のための国が取るべき政策②	地域産業振興のための政策について考える
9	地域経済活性化のための自治体が取べき政策	自治体が取べき政策について考える
10	地域活性化と地域団地が取べき対策	地域団地が取べき対策について考える
11	韓国の取り組みから考察①	地域経済の活性化のために韓国政府が行っている政策について分析する
12	韓国の取り組みから考察②	地域経済の活性化のために韓国の自治体が行っている政策について分析する
13	韓国の取り組みから考察③	地域経済の活性化のための韓国地域団体から行っている取り組みについて分析する
14	地域経済の今後の在り方	地域経済が安定して発展できるための課題と解決策について考える
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、地域経済促進について意見を述べる

科目名	社会政策 I		科目ナンバリング	EEL23009	
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

社会保障制度(所得保障, 医療・保健, 社会福祉サービス)や雇用・住宅・教育政策などを内実とする社会政策は, 様々な社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し, 人々の社会的な繋がりを強めることを目指してきた。現在すべての主要先進国では, その役割と守備範囲を大きく広げ, 公共支出の面でも重要な地位を占めている。本講義では社会政策の理論, 制度面について社会保障制度を中心に解説する。

《授業の到達目標》

社会政策の意義や仕組みを理解する。社会政策の中核を構成する社会保障制度について, 制度の内容, 現状, 将来展望について説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験80%, 授業への参加とその成果20%

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については, 新聞や書籍, ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し, 疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり, 社会政策の改善はなごりにされてきたが, そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会の変化と社会政策	オリエンテーション(講義の課題と対象, 社会政策の基本的な構造や役割等を講義する)
2	社会政策と関連制度	福祉国家政策や社会保障制度との関連について講義する
3	社会保障の定義	社会保障の目的, 機能, 体系, 財政
4	医療保障(1)	医療費の動向
5	医療保障(2)	日本における医療供給システムの特徴, 医療保険制度
6	医療保障(3)	医療制度改革
7	所得保障(1)	年金制度の仕組み
8	所得保障(2)	日本の年金制度1
9	所得保障(3)	日本の年金制度2
10	所得保障(4)	児童手当, 労働保険
11	社会福祉(1)	社会福祉の法制度, 動向
12	社会福祉(2)	社会福祉の実施体制, 社会福祉制度形成史
13	社会福祉(3)	社会福祉施策: 母子福祉, 老人福祉, 介護保険
14	社会福祉(4)	社会福祉施策: 生活保護, 児童福祉, 障害者福祉
15	近年の社会保障制度改革	社会福祉基礎構造改革, 高齢者介護政策, 少子化対策, 障害者政策, 医療改革, 年金改革等

科目名	社会政策Ⅱ	科目ナンバリング	EEEL23018
担当者氏名	河野 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

社会保障制度(所得保障, 医療・保健, 社会福祉サービス)や雇用・住宅・教育政策などを内実とする社会政策は, 様々な社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し, 人々の社会的な繋がりを強めることを目指してきた。現在すべての主要先進国では, その役割と守備範囲を大きく広げ, 公共支出の面でも重要な地位を占めている。本講義では社会政策の現状や近年の動向, 歴史的展開過程を中心に解説する。

《授業の到達目標》

社会政策が対応する今日的課題(格差問題, 少子化問題, 高齢化問題)について, それらの本質や動向について理解する。社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで, 公共サービスの民営化や市場化, 再国営化を推し進める政策意図がより深く理解できるようになる。社会政策の発展プロセスの学習を通して, 社会政策の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《成績評価の方法》

定期試験80%, 授業への参加とその成果20%

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については, 新聞や書籍, ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し, 疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり, 社会政策の改善はなごりにされてきたが, そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会政策の新しい課題	オリエンテーション: 講義の課題と対象
2	格差問題 (1)	日本及び世界の所得格差の状況
3	格差問題 (2)	格差問題の諸相, 格差問題の背景と社会保障制度
4	少子化をめぐる諸問題 (1)	少子化の状況
5	少子化をめぐる諸問題 (2)	少子化が進む理由, 問題点
6	少子化をめぐる諸問題 (3)	少子化対策の動向(日本及び先進諸国)
7	高齢社会をめぐる諸問題 (1)	高齢化の状況
8	高齢社会をめぐる諸問題 (2)	高齢化の背景, 問題点
9	高齢社会をめぐる諸問題 (3)	日本における高齢化対策の動向
10	公私の役割分担(福祉多元主義)(1)	福祉多元主義の理論
11	公私の役割分担(福祉多元主義)(2)	公的部門, 民間(営利・非営利)部門, インフォーマル部門の長所・短所
12	公私の役割分担(福祉多元主義)(3)	福祉改革をめぐる近年の動向(新自由主義, 社会民主主義, 第三の道)
13	社会政策発達史 (1)	英国社会政策発達史 (1) 第2次世界大戦終了まで
14	社会政策発達史 (2)	英国社会政策発達史 (2) 戦後～現代
15	社会政策発達史 (3)	日本社会政策発達史

科目名	証券市場論		科目ナンバリング	EEL23005	
担当者氏名	橋本 尚史				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

野村証券、野村総合研究所から講師を招いて「証券市場の役割と証券投資」について実践的に学ぶ。各講師とも野村証券等で豊富な実務経験をつんだ資産運用のプロである。授業は単なる株式講座ではなく、ダイナミックな経済の動きの中で身近な資産（お金）をめぐる問題を具体的にわかりやすく説明する。

《テキスト》

『証券投資の基礎』野村証券投資情報部編 丸善、2002年

《参考図書》

『日本の資本市場』氏家純一編、東洋経済新報社

《授業の到達目標》

資本主義社会である日本においては、お金がすべてではないにしろお金と無関係に暮らすことは不可能である。それどころか、少子高齢化社会を迎えて、年金・保険などお金をめぐる知識はますます不可欠になっている。この授業では、これからの経済社会において当然必要とされるお金（資産）との付き合い方に関する知識を身近な問題として実践的に学ぶ方法を修得する。

《授業時間外学習》

金融資本市場、経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。

《成績評価の方法》

期末試験での成績（100点満点）で評価する。

《備考》

就活に役立つ情報が満載です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の概要と計画
2	経済関係の情報とは	経済情報の捉え方
3	金融資本市場とは	金融資本市場の役割とその変化
4	債券市場とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅰ
5	債券市場とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅱ
6	株式市場とは	株式市場の役割と投資の考え方Ⅰ
7	株式投資の話	株式市場の役割と投資の考え方Ⅱ
8	投資信託とは	投資信託の役割とその仕組み
9	リスクの負担	リスク・リターンとポートフォリオ分析
10	外国為替とは何か	外国為替市場とその変動要因について
11	日本の株式	日本の株式市場
12	今後の産業	産業の展望と投資の考え方
13	投資の理論と心理	資本市場における投資家の心理
14	人生設計と資産運用	資産運用とライフプランニング
15	まとめ	一連のオムニバス講座の総括

科目名	経営戦略論 I	科目ナンバリング	EEBL23003		
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

消費者の意識の変化、技術の高度化、国際化の進展は、企業環境を大きく変化させている。このような環境変化のもとで企業活動を行い、成長させていくためには経営戦略が不可欠である。この授業では、基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《テキスト》

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎(2009)『1からの戦略論』中央経済社

《参考図書》

浅羽茂・牛島辰男(2010)『経営戦略をつかむ』有斐閣

《授業の到達目標》

- 経営戦略の本質を理解することができるようになる。
- 基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
- 社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくる（該当箇所は第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を調べる。

《成績評価の方法》

- 毎回出席することを前提として(1) 定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
- (2) 課題レポート作成を10%として評価する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学入門」「経営学総論」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営戦略とは何か	講義の概要と進め方について、経営戦略とは何かについて学ぶ
2	戦略策定と分析単位	戦略策定に必要な概念（3C分析、SWOT分析、SBU）について学ぶ
3	業界の構造分析	業界の収益性を決める5つの要因について学ぶ
4	戦略グループ①	戦略グループの事例について学ぶ
5	戦略グループ②	戦略グループと移動障壁について学ぶ
6	基本戦略①	コストリーダーシップ戦略、経験曲線、規模の経済性について学ぶ
7	基本戦略②	差別化（差別化）戦略、集中戦略について学ぶ
8	事例研究	VTRを視聴し、企業戦略の具体的な事例を学び、関連するテーマでレポートを作成する
9	製品ライフサイクル別戦略①	製品ライフサイクル理論について学ぶ
10	製品ライフサイクル別戦略②	製品ライフサイクル別の戦略について学ぶ
11	市場地位別戦略	市場リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーについて学ぶ
12	能力基盤の競争①	資源アプローチについて学ぶ
13	能力基盤の競争②	コア・コンピタンスについて学ぶ
14	事業システムの構築	事業間の連携について学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

科目名	経営戦略論Ⅱ		科目ナンバリング	EEBL23004	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

消費者の意識の変化、技術の高度化、国際化の進展は、企業環境を大きく変化させている。このような環境変化のもとで企業活動を行い、成長させていくためには経営戦略が不可欠である。この授業では、基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《テキスト》

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎(2009)『1からの戦略論』中央経済社

《参考図書》

浅羽茂・牛島辰男(2010)『経営戦略をつかむ』有斐閣

《授業の到達目標》

- 経営戦略の本質を理解することができるようになる。
- 基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
- 社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくる（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を調べる。

《成績評価の方法》

- 毎回出席することを前提として(1) 定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
- (2) 課題レポート作成を10%として評価する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学入門」「経営学総論」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営戦略の必要性	講義の概要と進め方について 経営戦略の必要性について学ぶ
2	事業ドメイン	事業ドメインの定義について学ぶ
3	成長戦略①	アンゾフのマトリックスについて学ぶ
4	成長戦略②	多角化とシナジー効果について学ぶ
5	経営資源①	経営資源と能力（ケイパビリティ）について学ぶ
6	経営資源②	経営資源の分類基準について学ぶ
7	資源展開①	PPMの枠組みについて学ぶ
8	資源展開②	PPMの戦略的意義と限界について学ぶ
9	事例研究	VTRを視聴し、企業戦略の具体的な事例を学び、関連するテーマでレポートを作成する
10	組織構造①	官僚制組織、職能別（部門制）組織、事業部制組織について学ぶ
11	組織構造②	マトリックス組織、プロジェクト・チーム、環境と組織のコンティンジェンシー理論について学ぶ
12	組織文化①	組織文化の分類、組織文化の機能について学ぶ
13	組織文化②	組織文化と戦略の関係について学ぶ
14	企業変革	組織変革の必要性和プロセスについて学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

科目名	財務諸表論 I	科目ナンバリング	EEAL23009
担当者氏名	沖野 光二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用		

《授業の概要》

財務諸表は、株主（事業の元手[資本]を出資する者）や債権者（事業の運転資金[負債]を融資する者）等の各種利害関係者に対し、経営者が作成し提供する説明資料であり、企業の財政状態、経営成績、現金及び現金等価物の変動状態、資本構成の変動状態の会計情報に関する資料をいう。本科目は、企業の日々の経済的取引事象を、如何に認識し、測定し、記録し、集計し、財務諸表として作成するのか、その理論を対象とする。

《授業の到達目標》

財務諸表論の基礎を取扱い、(1)ストックとフローの概念、(2)収益・費用・資産・負債・資本・純資産の概念、(3)利益の概念、これら3つの大きな概念（定義と具体的適用例）をまず説明できる力をつける。さらに、複数の概念間のリンク（関係性）をきちんと説明できる複合的体系的な概念理解の力をつける。特に、(1)を用いて(2)に関する異同比較や(2)から(3)を導く2つの思考方法を記述説明できる力をつける。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、「論述式」試験の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものであるため、必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《テキスト》

後ほど案内する。

《参考図書》

中央経済社編『新版会計法規集(第8版)』中央経済社/IFRS財団編『国際財務報告基準「特別追補版」FRS第15号』中央経済社/武田隆二『会計学一般教程(第7版)』中央経済社/田中弘『財務諸表論の考え方』税務経理協会/古賀智敏『日本語と英語で学ぶ企業分析入門』千倉書房/國貞克則『図解「財務3表のつながり」でわかる会計の基本』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

財務諸表論の理論を体系的に学ぶためには、会計実務に適用されている様々なルールを同時に理解する必要がある。上記参考図書の『新版会計法規集』の最新版を手元に置きながら効果的に学習することを希望する。用語や概念の定義は、法規集の規定文に記載してあればそれを押さえることが基本である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	会計の認識対象と財務会計の位置付け	簿記と会計と監査の関係性、財務会計と管理会計、制度会計と情報会計、内部報告会計と外部報告会計、各国会計制度と国際財務報告基準（IFRS, 国際会計基準）
3	産業構造の変化と会計モデル	もの作りの製造業[有形財]重視のプロダクト型、資金調達市場の金融財重視のファインダンス型、知的所有権、ブランド、のれん等の無形財重視のナレッジ型の会計理論
4	法と会計	ビジネスの基本ルールである会社法、株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法、納税申告書を作成するべく全ての会社に適用される法人税法、これら制定法と会計理論の前提となる公準、会計基準の核となる一般原則
5	会計公準と一般原則	会計理論の前提となる公準、会計基準の核となる一般原則
6	ストックとフローの概念	2つの視点の観測方法：ある時点の状態(stock)とある一定期間の状況(flow)の関係性。時刻と時間、貸借対照表(財政状態変動表)と損益計算書(包括利益計算書)
7	利益概念と資本維持概念	利益を導出する2つの思考方法：資産負債アプローチ（ストック重視）と費用収益アプローチ（フロー重視）
8	収益会計	現金の流入（cash-in-flow）を意味する収入、収入と収益の関連性、収益の認識（現金主義、発生主義）
9	費用会計	現金の流出（cash-out-flow）を意味する支出、支出と費用の関係性、費用の測定（取得原価主義会計の意義と限界）
10	費用収益対応の原則	全体損益計算と期間損益計算、個別的対応と期間的対応
11	損益計算の構造	損益計算書の5つの利益、包括利益概念と包括利益計算書
12	資本金会計	会社設立、増資、減資、
13	計算書類の範囲と業績報告	株主資本等変動計算書
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

科目名	財務諸表論Ⅱ	科目ナンバリング	EEAL23010
担当者氏名	沖野 光二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用		

《授業の概要》

本科目は、財務諸表論Ⅰの後継上位科目としての性格を有している。したがって、本科目を受講する場合、財務諸表論Ⅰの単位を修得（合格）しておくことが望ましい。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《授業の到達目標》

資産・負債の概念（定義と具体的適用例）を説明できる力をつける。さらに、複数の概念間のリンケージ（関係性）をきちんと説明できる複合的体系的な概念理解の力をつける。そして、知識のアウトプット・トレーニングを意識した知識のインプット方法の力を養う。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、「論述式」試験の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものであるため、必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	純資産会計	資本概念と純資産概念、資本維持概念と利益計算構造（さまざまな利益概念）、純資産と負債との関係性
3	資産会計（その1）	資産概念（調達資金の具体的使途としての資産、将来費用の固まりとしての資産、将来の収益源泉の割引現在価値としての資産）、資産の分類基準
4	資産会計（その2）	棚卸資産、商品有高帳、棚卸計算法と継続的記録法、先入先出し法・平均法・後入れ先出し法による払出単価算定の比較
5	資産会計（その3）	固定資産と減価償却（[1]計算方法：定額法、定率法、生産高比例法、級数法ほか、[2]仕訳法方法：直説法、間接法、[3]表示方法）、取り替え法
6	資産会計（その4）	固定資産の減損会計と時価評価
7	資産会計（その5）	株式や社債などの有価証券
8	資産会計（その6）	無形固定資産、期間損益計算と繰延資産
9	負債会計（その1）	負債概念
10	負債会計（その2）	社債、引当金（負債か収益か）
11	貸借対照表論	貸借対照表と財政状態変動計算書
12	キャッシュフロー計算書	現金及び現金等価物の変動状態の意義、直説法と間接法
13	連結会計	連結企業集団と個別企業、連結の範囲（親会社・子会社・少数株主持分・関連会社）、連結財務諸表と個別財務諸表、本支店合併財務諸表と連結財務諸表、
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《テキスト》

財務諸表論Ⅰと同一。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《参考図書》

Andrew Thomas=Anne M. Ward, Introduction to Financial Accounting, (978-0077163884)/Frank Wood=Sheila Robinson, Book-keeping and Accounts, (978-0273773061)/Christopher Nobes=Robert Parker, Comparative International Accounting (13 ed.), (978-1292081908)

《授業時間外学習》

専門用語（ビジネス用語）の英単語（特に名詞）を少しでも増やすために、日本語の文献資料以外に英語の文献にも目を通す習慣をつけてもらいたい。例えば、日本企業のAnnual Reportやディスクロージャー誌や各種報告書の英語版と日本語版をまず入手し、同時に見比べながら、自学自習することから始めてもらいたい。企業に問い合わせると無料で入手できる。

《備考》

科目名	情報会計論 I		科目ナンバリング	EEAL23007	
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

情報会計論は、制度会計論に対峙する研究分野で非制度会計論とも呼ばれ、企業情報利用者側の立場から会計理論を考え、企業等の情報作成提供者は、如何なる基準で会計情報を作成し、如何なる媒体で発信すべきかを理論付ける学問である。本講義では、企業情報のディスクロージャー制度を検討し、実際の企業情報（登記簿、決算公告、有価証券報告書、年次報告書、統合報告書）を入手し、分析し、読解することを内容とする。

《授業の到達目標》

企業情報のディスクロージャー制度を理解し、獲得できた企業情報には信頼性がどれほど担保されているのかを判断できる能力を養う。具体的には、会計情報の質的特性（意思決定有用性・目的適合性・信頼性・適時性・比較可能性など）と作成根拠（法定開示・任意開示）さらに開示手段（従来の紙媒体開示・電子開示）の意義を理解する力をつける。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものである。必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	情報会計論の位置付け	会計情報と情報会計、制度会計と情報会計、内部報告情報会計と外部報告情報会計
3	産業構造の変化と会計モデル	もの作りの製造業[有形財]重視のプロダクト型、資金調達市場の金融財重視のファイナンス型、知的所有権、ブランド、のれん等の無形財重視のナレッジ型の会計理論モデル
4	ディスクロージャー制度（その1）	会社法に基づく法定開示（登記簿と決算報告）、株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法に基づく法定開示（有価証券報告書）、外国の法定開示（Annual
5	ディスクロージャー制度（その2）	任意開示（年次報告書、統合報告書、CSR報告書、環境報告書） インサイダー取引と利害関係者、利害関係者と利害内容（情報ニーズ）
6	財務情報の入手方法	法定開示情報と任意開示情報の開示手段
7	入手可能情報の信頼性の検証	入手経路（開示提供手段）の確認
8	会計コミュニケーションの基礎概念	コミュニケーション理論
9	会社定款の分析	登記簿の定款の入手と解読
10	有価証券報告書の分析（その1）	有価証券報告書の意義と構成内容
11	有価証券報告書の分析（その2）	有価証券報告書の解読
12	アニュアルレポートと統合報告書の分析	財務的資本（資本と負債）、人的資本（取締役と従業員）、製造資本（建物や設備）、知的資本、社会的関係資本、自然資本（空気や水や生物多様性）の価値創造
13	企業データの分析	財務情報を中心とした企業データに関する客観的分析と主観的解釈 非財務情報から財務情報（利益）が生み出される関係性の分析
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《テキスト》

古賀智敏ほか『統合報告革命：ベストプラクティス企業の事例分析』税務経理協会。

《参考図書》

日本経済新聞社編『日経業界地図(2016年版)』日本経済新聞出版社／武内和彦ほか『国連大学 包括的「富」報告書：自然資本・人工資本・人的資本の国際比較』明石書店／小宮山宏ほか『サステイナビリティ学(1)-(5)』東京大学出版会／ジャック・フィッツエンツ『人的資本のROI：人材の将来価値を評価する』生産性出版。

《授業時間外学習》

就職希望先の企業の現状と将来の成長性をしっかりと調べるためにも、産業界全体の種類とその特徴、希望企業がどの業界に属しどの企業と取引を行っているのか、事業戦略や売上高の構成要素（セグメント別）はどのようになっているのか、資本の規模と出資者（株主）の構成はどうなっているのか、これらのことは学習時間外に最低でも分析しておくこと。

《備考》

従来の財務諸表を中心とした財務情報の報告では、企業の実態を写像するには限界がある。企業の中期的長期的な持続成長可能性の視点からの新たな報告形態が求められている。

科目名	情報会計論Ⅱ	科目ナンバリング	EEAL23011
担当者氏名	沖野 光二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用		

《授業の概要》

本科目は、情報会計論Ⅰの後継上位科目としての性格を有している。したがって、本科目を受講する場合、情報会計論Ⅰの単位を修得（合格）しておくことが望ましい。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《授業の到達目標》

従来の紙面ベースの開示書類とインターネット関連技術を利用した電子ベースの開示情報を異同比較し、その特質を判断できる能力と財務情報そのものを分析し、読解できる能力を養う。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものであるため、必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	財務情報の入手方法（その1）	法人格取得のための設立登記のために作成された登記簿（法務省）
3	財務情報の入手方法（その2）	会社法決算による決算公告
4	財務情報の入手方法（その3）	株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法に基づいて作成された有価証券届出書と有価証券報告書
5	財務情報の入手方法（その4）	任意開示情報とシンクタンク調査会社が提供する有料調査資料
6	業界地図の確認	業界の全体の種類とその特徴
7	事業モデルの確認	売上高の構成要素を地域別や製品サービス別にセグメント分類し、当該企業の「儲けのからくり」（事象戦略や事業モデル）を確認し、競争優位性を見出す。
8	電子情報開示システム	金融庁の XBRL
9	電子情報開示の長所	インターネット関連技術に基づく電子開示の長所（発信者である企業側と受け手である利用者側）
10	電子情報開示の短所	インターネット関連技術に基づく電子開示の短所（発信者である企業側と受け手である利用者側）
11	財務情報の分析（その1）	時系列分析（フロー分析）と企業間比較分析（ストック分析）、複合分析
12	財務情報の分析（その2）	経営分析（フロー情報のみの比率分析、ストック情報のみの比率分析、ストック情報を元にしたフロー情報の比率分析）
13	財務情報の分析（その3）	その他の分析手法
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《テキスト》

情報会計論Ⅰと同一。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《参考図書》

東京財団CSR研究プロジェクト『CSR白書2015』東京財団／Mark N. K. Saunders, Research Methods for Business Students(7 ed.), (978-1292016627)／Samuel=Rene=Mattias, Corporate Social Responsibility in Europe(2015 ed.), (978-3319135656)／Jane Gleeson-white, Six Capitals, or Can Accountants Save the Planet, (978-0393246674)

《授業時間外学習》

就職希望先の企業の現状と将来の成長性をしっかりと調べるためにも、産業界全体の種類とその特徴、希望企業がどの業界に属しどの企業と取引を行っているのか、売上高の構成要素（セグメント別）はどのようになっているのか、資本の規模と出資者（株主）の構成はどうなっているのか、これらのことは学習時間外に最低でも分析しておくこと。

《備考》

科目名	労働経済論	科目ナンバリング	EEEL23015
担当者氏名	石原 敬子、中本 淳		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

現実の経済・社会は、多くの人々の様々な働きにより支えられており、人々の生活もまた「働くこと」によって成り立っている。つまり、「働くこと」は私たちの暮らしは社会を豊かにするうえで重要な意味をもつ。「労働経済学」は、労働市場の働きを経済学の視点から分析し、人々の暮らしをより豊かにするにはどうすればよいかを研究するものである。この授業では、雇用・労働に関する諸問題について考察する。

《テキスト》

太田聡一・橋木俊昭著『労働経済学入門〔新版〕』有斐閣、2012年。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ・「働くこと」の意味について考え、理解する。
- ・経済学の基礎理論を用いて、賃金や雇用の決まり方について分析できるようになる。
- ・正規雇用・非正規雇用、失業、女性・高齢者雇用など、現実の雇用・労働に関する問題について考察できる力を身につける。

《授業時間外学習》

【事前学習】

テキストの該当箇所について読み、理解できた点、疑問点を把握する。

【事後学習】

授業内容について振り返り、理解を深める。学期末には復習用教材を配布するので理解度を確認すること。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題、事前・事後学習、ワークショップへの取り組みなど）と学期末のテストをもって評価する。評価の割合は、平常点50%、学期末のテスト50%とする。

《備考》

授業では、労働に関する問題をより身近にとらえられるように、ワークショップを行う。事前準備をしっかりと行い、積極的に参加しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 労働経済学とは	授業の概要、進め方について解説する。 「働くこと」の意味について考えよう。
2	日本の労働市場の現状	就業率、分野別の就業者数、非正規雇用の割合など、さまざまなデータを基に、日本の労働市場の現状について考察する。
3	賃金と雇用の決まり方	ミクロ経済学の基礎理論を用いて、労働市場の競争均衡について分析する。 なぜ失業問題が発生するのかを考察する。
4	賃金に関する問題(1)	なぜ人によって賃金が異なるのか、賃金格差の存在には合理性があるのかを考察する。
5	賃金に関する問題(2)	学歴による賃金格差とその妥当性、企業内訓練と賃金格差に関する問題について考察する。
6	離職・転職	離職・転職の現状とその原因について考察する。 離職・転職は悪いことか、離職率ゼロが理想的かについても考察しよう。
7	ワークショップ(1)	これまでの授業を踏まえて、労働市場に関する問題の中から、課題を選び、現状分析と課題解決のための方策について考察する。
8	ワークショップ(2)	前回の考察をもとに、グループごとに報告資料を作成し、発表する。
9	失業問題	古典派経済学、ケインズ経済学、ニューケインジアン経済学に基づいて、失業のメカニズムについて考察する。
10	失業問題とその解消策	ワークショップで、失業率を下げるための方策について考察する。
11	少子高齢化社会と雇用問題(1)	少子高齢化、人口減少社会が経済に及ぼす影響について考察する。 女性の就業状況と女性の就業を促進するための課題について考察する。
12	少子高齢化社会と雇用問題(2)	若者の就業状況について確認し、若者の雇用機会を確保するための諸課題について考察する。
13	少子高齢化社会と雇用問題(3)	高齢者雇用をめぐる問題について考察する。
14	ワークショップ	これまでの授業内容を踏まえて、経済成長を支えるための雇用促進策について考察しよう。
15	学習のまとめ	授業内容の理解度について確認しよう。

科目名	経済政策	科目ナンバリング	EEEL23014
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

本講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学で学んだ標準的な経済分析の視点から、日本経済における種々の問題について理解し、あるべき経済政策を考えていくことを目的とする。テキストに沿って主要な理論・概念をコンパクトに整理しつつ、それらを使って具体的な経済政策について何が言えるのかを講義する。

《授業の到達目標》

日本経済の現状と課題について理解し、今後必要とされる経済政策について標準的な経済理論を使って説明できるようにする。

《成績評価の方法》

毎回の小テスト(30%)＋期末テスト(70%)

《テキスト》

井堀利宏(2003)『経済政策』新世社

《参考図書》

岩田規久男・飯田泰之(2006)『ゼミナール 経済政策入門』日本経済新聞社
 浅子和美・飯塚信夫・篠原聡一(2015)『入門・日本経済 第5版』

《授業時間外学習》

経済政策をめぐる議論に関心をもって、新聞、ニュース、雑誌等に目を通すようにして下さい。

《備考》

経済理論の説明については、「財政学II」と重なる部分がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の概要と方針について説明し、経済政策の考え方について講義する。
2	経済活動と経済政策	分析の基本となる諸概念について説明し、経済政策の目的を整理する。
3	日本経済の軌跡①	高度成長期から安定成長期に至る軌跡とその過程における政策課題について理解する。
4	日本経済の軌跡②	バブル期の経済状況と政策課題について理解する。
5	日本経済の軌跡③	バブル崩壊後から90年代後半における経済状況と政策課題について理解する。
6	日本経済の軌跡④	2000年前後の構造改革から現在に至る軌跡と、その過程における政策課題について理解する。
7	日本経済の軌跡⑤	アベノミクスの中身と、現状における評価について、経済指標を確認しながら講義する。
8	日本経済の課題①	日本の財政の概要と課題について理解する。
9	日本経済の課題②	日本の社会保障制度の概要と課題について講義する。
10	日本経済の課題③	日本の農業の現状について説明し、農業政策の課題・展開について講義する。
11	日本経済の課題④	日本型の企業システムの特徴と、それを取り巻く環境の変化について講義する。
12	日本経済の課題⑤	日本的雇用システムの特徴と、それを取り巻く環境の変化について講義する。
13	日本経済の課題⑥	日本の所得格差の現状と、それに伴う経済的な課題について講義する。
14	日本経済の課題⑦	地域間格差の現状と要因について説明し、地域経済活性化に関する今後の動向について講義する。
15	まとめ	いままでの学習内容を整理する。

科目名	職業指導	科目ナンバリング	EEAL23012
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業では、高等学校商業科教員になった場合に、生徒が職業についての基礎となる知識・技術及び勤労を重んずる態度と個性に応じた適切な進路を選択できる能力を養えるよう、社会のさまざまな仕組み、職業の実際などの知識・技術を修得する。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業の到達目標》

高等学校の生徒が将来の進路を適切に選択し、自己実現が図れるための適切な指導・援助の在り方やその指導法を修得する。

《授業時間外学習》

職業に関する新聞記事等を配布するので、読んでおくこと。到達度確認試験の範囲に含まれる。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

教職（「商業」）免許の必修科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教科「職業指導」とは	免許法上の位置づけ。カリキュラム上の位置づけ。学校社会と仕事社会
2	学校社会と仕事社会	学校の意義と社会における位置づけ学校と社会の連関
3	学校教育における職業指導の位置づけ	学校社会と仕事社会
4	職業とは	職業の意義と歴史
5	日本における雇用の現状1	若年雇用の現状。失業率の推移。自発的失業の増加
6	日本における雇用の現状2	学卒無業者とフリーター(フリーターと正規雇用者の比較)
7	非正規雇用の増加1	非正規雇用増加の背景(新自由主義の台頭と社会的・思想的背景)
8	非正規雇用の増加2	世界経済のボーダレス化と企業を取り巻く環境変化
9	企業と教育	企業が求める学校教育と新自由主義的学校教育(自由と自己責任)
10	雇用の流動化	新自由主義的労働観の浸透と多様な働き方の選択
11	職業指導の意義と必要性1	職業(進路)指導の歴史。職業(進路)指導の不在
12	職業指導の意義と必要性2	1人1社制の意義と崩壊
13	職業社会の実際	企業・団体の類型と職業の種類(公務員を含む)
14	企業と従業員	法的関係と雇用関係法規
15	復習と到達度確認	総合演習に基づく復習と到達度の確認

科目名	経済ビジネス特論A		科目ナンバリング	EETL23001
担当者氏名	澤山 明宏			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 プレゼンテーション力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

テーマ：業界研究・企業研究 企業、業界の情報は限られており、分析の方法はさまざまです。この授業では、マーケティングなど経営学の基礎概念を応用しながら手もとの資料を使いながら、企業、業界の実態にアプローチする方法を学ぶ場にしたいと思います。最終的にグループまたは個人で授業内容に基づく研究発表をして頂きながら、進路選択のための業界・企業研究にも役立つ授業を目指します。

《テキスト》

テキストはありません。教材は授業で適宜配布します。

《参考図書》

必要な参考書は授業で紹介します。

《授業の到達目標》

- (1) 身近な資料から基本的かつ深い業界、企業の分析ができる。
- (2) 多くの問題に戦略的思考を応用できる。
- (3) 論理的に意見を構成し発表できる。

《授業時間外学習》

関心のある業界、企業について、どの客層をターゲットとし、どのようなアピールをしているか、新聞（特に日本経済新聞）、インターネット、パンフレットなど入手可能な資料を材料にして考えるようにしてください。

《成績評価の方法》

- (1) 研究発表：50%
- (2) 授業中での問題への取組み：30%
- (3) 定期試験：20%

《備考》

・講義と事例研究が中心になります。受講生が興味を持つ業界、企業も取り上げます。・受講生の関心をを見ながら経営分析に関わるゲスト招聘も行ないたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	業界と企業	業界と企業の区分、業界のトレンドと企業のそれとの違いを学ぶ。
2	業界天気図	さまざまな業界の現状を概観するための手法を学ぶ。
3	業界分析の基本（1）	業界の特性を理解するための手法を学ぶ。
4	業界分析の基本（2）	各業界の動向を捉えるための手法を学ぶ。
5	企業分析の基本（1）	企業の理念、文化など企業の根幹を学ぶ。
6	企業分析の基本（2）	収益構造の捉え方を学ぶ。
7	企業分析の基本（3）	マーケティングの視点から戦略の成否を見る。
8	投資家の視点（1）	市場がどのように業界、企業を見ているかを考える。
9	投資家の視点（2）	市場がどのように業界、企業を見ているかを考える。
10	応用演習（1）	受講生の選んだ業界、企業を例題にこれまで学んだことを応用する。
11	応用演習（2）	受講生の選んだ業界、企業を例題にこれまで学んだことを応用する。
12	就業先としての業界・企業	業界、企業の分析を就業者の視点から考える。
13	研究発表準備	研究発表のための指導。
14	受講者の発表	受講生による研究発表および質疑応答。
15	総括	これまでの内容を総括し、今後の経済動向を考える。

科目名	経済ビジネス特論B	科目ナンバリング	EETL23002
担当者氏名	橋本 尚史		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ◎ 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

経済学は人生をより良くする学問ですが、どのように経済学の考え方をいけば良いか難しいです。本講義では、身近にあるさまざまな現象から国際金融まで経済学のツールを用いて分析をおこないます。たとえば、経済学で重要なキーワードのひとつである「機会費用」について学び、なぜ人々は協力するのか考えます。本講義を学ぶことで新たなビジネスモデルが思いつくかもしれません。

《授業の到達目標》

私たちの身のまわりで起きているさまざまな現象から国際金融の問題まで「経済学」のツールを用いて論理的に述べられるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。

《テキスト》

1. 藤井英次（2013）『コア・テキスト 国際金融論 第2版』新世社。

《参考図書》

1. 岩田槻久男（2009）『国際金融入門 新版』岩波新書。

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして教科書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「経済学」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	新たなコスト	経済学で用いられる「機会費用」について学びます。
3	自由貿易をおこなうワケ	自由貿易をおこなう基本的な考えとなっている「比較優位」について学びます。
4	為替レートの見方	為替レートの見方とそのレートの変動が国内・外国産業や株式価格に与える影響について学びます。
5	為替レートの予測（1）	長期の為替レート決定メカニズムについて学びます。
6	為替レートの予測（2）	短期の為替レート決定メカニズムについて学びます。
7	総需要と総供給（1）	生産物市場の短期的な分析方法について学びます。
8	総需要と総供給（2）	為替レートの変化が生産物市場の短期的な分析に与える影響について学びます。
9	総貨幣需要と総貨幣供給（1）	資産としての貨幣とその特徴について学びます。
10	総貨幣需要と総貨幣供給（2）	貨幣市場の均衡について学びます。
11	IS-LMモデル（1）	生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済のケース）について学びます。
12	IS-LMモデル（2）	閉鎖経済における金融・財政政策の効果について分析をおこないます。
13	マンデル・フレミング・モデル（1）	生産物市場と資産市場の同時均衡（開放経済のケース）について学びます。
14	マンデル・フレミング・モデル（2）	変動相場制度における金融・財政政策の効果について分析をおこないます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

科目名	プログラミングⅡ	科目ナンバリング	EIPL23009
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力		

《授業の概要》

プログラミングをおこなうことの意義を明確にし、解決手段の一つとしてプログラミング言語を自由に扱うことができるように学習していきます。プログラミングⅠを踏まえて、C言語の出力、演算、入力、条件分岐、繰り返しといった文法を確認し、そして配列、関数、ポインタ、構造体、ファイルの入出力といったあらたな文法を習得していきます。その理論を理解するとともに、コンピュータを活用した演習を進めます。

《授業の到達目標》

- プログラミング言語の文法を理解し、役割を説明することができる。
- 問題解決するための手順を考え、整理して説明することができる。
- プログラミング言語を活用して、実行したい内容を記述することができる。

《成績評価の方法》

提出課題40%
筆記試験60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングで大切なのは実行したい内容を手順にそって組み立て、決められた文法にしたがって正確に記すことです。土台を固めながら着実に習得されることを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	01：授業の概要の説明 02：入出力処理の確認	01：科目の位置付けや目標を示すとともに、授業展開方法や概要について説明する。 02：実行までの流れを再確認し、入力出力文を用いたプログラムの作成をおこなう。
2	03：条件判断処理の確認 04：繰り返し処理の確認	03：入力出力文の使い方を再確認し、条件文を加えたプログラムの作成をおこなう。 04：条件文の使い方を再確認し、繰り返し文を加えたプログラムの作成をおこなう。
3	05：入出力と制御の処理 06：一次元配列とは	05：順次構造、選択構造、繰返構造を組み込んだ構造化プログラミングをおこなう。 06：一次元配列の概念を説明し、データの中の最大値を求める考え方について学ぶ。
4	07：データの集計と配列 08：データの合計と配列	07：条件を満たすデータ数を数える考え方と一次元配列の活用の仕方について学ぶ。 08：データの合計値を求めるための考え方と一次元配列の活用の仕方について学ぶ。
5	09：データの並替と配列 10：一次元配列の視覚化	09：データの並び替えの一方法として、比較を繰り返すバブルソートについて学ぶ。 10：一次元配列データの視覚化を説明し、数値データの取扱いの方法について学ぶ。
6	11：文字の配列への格納 12：二次元配列の視覚化	11：一文字と文字列の格納の区別を明確にし、文字配列への格納方法について学ぶ。 12：二次元配列データの視覚化を説明し、数値データの取扱いの方法について学ぶ。
7	13：関数とは 14：関数の引数と戻り値	13：関数の概念を説明し、プログラムにおける関数の定義と記述方法について学ぶ。 14：関数の引数と戻り値の型を説明し、関数間の情報の受け渡し方法について学ぶ。
8	15：関数の呼び出し 16：関数と一次元配列	15：定義した関数の引数の値を変えて何度でも呼び出しができる利点について学ぶ。 16：関数間における一次元配列のデータの受け渡しの概念とその方法について学ぶ。
9	17：関数と二次元配列 18：再帰関数の呼び出し	17：関数間における二次元配列のデータの受け渡しの概念とその方法について学ぶ。 18：定義した関数の中で再度自身を呼び出す再帰関数の仕組みと働きについて学ぶ。
10	19：ポインタとは 20：さまざまな変数宣言	19：変数のアドレスとそれが指している値を取り出すポインタの概念について学ぶ。 20：ローカル変数とグローバル変数の宣言およびアドレスの取り扱いについて学ぶ。
11	21：関数とポインタ 22：配列とポインタ	21：関数へのアドレスの引き渡しと指している値の取り出しの仕組みについて学ぶ。 22：配列データを関数へ引き渡す際のアドレスの役割とポインタ変数について学ぶ。
12	23：ファイルの入出力 24：構造体とは	23：データのファイルへの書き込みとファイルからの読み込みの方法について学ぶ。 24：いくつかの異なる型のデータをまとめて扱うための構造体の概念について学ぶ。
13	25：構造体の演算子 26：配列とファイル処理	25：構造体に関してドット演算子とアロー演算子の2つの記述の仕方について学ぶ。 26：配列データをファイルに書き込んだり読み込んだりする集計方法について学ぶ。
14	27：辞書単語検索(1) 28：辞書単語検索(2)	27：これまで学習してきた文法をもとにして、辞書単語検索プログラムを制作する。 28：1回の実行で何度でも辞書単語検索ができるようにプログラムの修正を加える。
15	29：辞書単語検索(3) 30：データ処理と総括	29：辞書に登録された単語の一覧の表示や単語検索および終了のメニューを加える。 30：目標の達成度をみきわめるため、プログラミングⅡ授業全体について総括する。

科目名	情報システム学	科目ナンバリング	EIGL33005
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	講義	単位・必選	4・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-3 システム的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-4 経営学の知識の応用 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

高度化する情報社会に欠かせない情報システムを、情報技術の側面からだけでなく、情報技術を利用するという側面からも理解する。期前半は、情報システムとは何かという一般論や、様々な社会活動における情報システム利用についての基礎を学習する。期後半は、複雑で大規模な情報システムの開発で重要となるソフトウェア開発について学ぶ。

《テキスト》

毎回プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

(1)情報システムの役割、(2)社会・生活基盤としての情報システム、(3)行政・ビジネスと情報システムの関係、(4)顧客、商取引、組織と情報システムの関係、(5)情報の共有、(6)情報システムの倫理、(7)情報システムの活用方法、(8)システム開発とは、(9)開発の技法、(10)要求工学、(11)ソフトウェア設計、(12)ソフトウェア実装、(13)ソフトウェア品質、(14)プロジェクト管理について説明できる。

《授業時間外学習》

事前学習
 ・授業のプリントを事前に公開するので、授業までに読んでおくこと。
 事後学習
 ・授業中の演習を復習すること。

《成績評価の方法》

演習評価(20%)、前半理解度評価(40%)、後半理解度評価(40%)

《備考》

授業方法は、週2コマのうち、1つを講義中心、もう1つを演習中心とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報システム学とは	授業内容の説明、情報システムとは、情報システムとコンピュータ
2	情報システムの利活用	社会基盤・生活基盤としての情報システム
3	情報システムの利活用	行政・ビジネスと情報システム
4	情報システムの利活用	ネットビジネス・電子商取引と情報システム
5	情報システムの利活用	顧客情報・組織と情報システム
6	情報システムの利活用	情報の共有と検索、情報システムと倫理
7	総括、評価	前半のまとめ、理解度確認
8	情報システムの開発	情報システムの開発
9	情報システムの開発	システム開発モデル、開発手順
10	情報システムの開発	基本計画と外部設計
11	情報システムの開発	内部設計・プログラム設計・プログラミング
12	情報システムの開発	ソフトウェアテスト・運用保守
13	情報システムの開発	ソフトウェア品質
14	情報システムの開発	プロジェクト管理
15	総括、評価	後半のまとめ、理解度確認

科目名	オートマトン	科目ナンバリング	EIPL23010
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

コンピュータや機械の自動実行を司る数学的モデル理論のオートマトンの基礎知識と正則(正規)表現を学び、情報の根幹となる理論の獲得を目指します。授業は理論や動作などの説明を行う講義を主としますが、理解度の向上のためのレポートも実施します。

《授業の到達目標》

1. 状態遷移図での表現が理解でき、活用できること。
 2. 数式モデルで表現が理解でき、活用できること。
 3. 自然言語での表現が理解でき、活用できること。
 4. それら表現方法による「機械」を正確に理解できること。
 5. 論理的な思考とその正確な表現ができること。
- を目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(30%)、筆記による定期試験の点数(60%)、平常点(10%)とし、総合的に判定・評価します。課題は提示したすべてを対象とします。また、欠席回数が1/3以上であるときには単位認定できないことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 基礎的知識(1)	文字集合、文字列、言語など、理解のための準備としての基礎知識
2	基礎的知識(2)	集合、関係、グラフなど、理解のための準備としての基礎知識
3	決定性有限オートマトン(1)	決定性有限オートマトンの基礎である数的モデル、遷移関数表、状態図の解説
4	決定性有限オートマトン(2)	決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張
5	非決定性有限オートマトン(1)	決定性有限オートマトンとの相違点と有用性 非決定性有限オートマトンの数的モデル、遷移関数表、状態図の解説
6	非決定性有限オートマトン(2)	非決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張 非決定性有限オートマトンから決定性有限オートマトンへの変換
7	ϵ 動作の非決定性有限オートマトン(1)	ϵ 動作の直観的説明、 ϵ 閉包 ϵ 動作の非決定性有限オートマトンの数的モデル、遷移関数表、状態図の解説
8	ϵ 動作の非決定性有限オートマトン(2)	ϵ 動作の非決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張 非決定性有限オートマトンへの変換
9	有限オートマトンのまとめ	有限オートマトンのそれぞれの特徴と適応を総括
10	正則表現(1)	正則表現の基礎と有用性などの解説
11	正則表現(2)	正則表現での演算
12	正則表現(3)	定義を使った正則表現から ϵ 動作の非決定性有限オートマトンへの変換
13	正則表現(4)	状態消去法を使った正則表現から ϵ 動作の非決定性有限オートマトンへの変換
14	正則表現のまとめ	正則表現のまとめ、および計算機での応用例の理解
15	総括と補足	授業全体のまとめ、およびその他補足

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は必要に応じて適宜配布します。

《参考図書》

J. Hopcroft : et 著, 野崎, 高橋, 町田, 山崎共訳, 『オートマトン言語理論 計算機論I 第2版』, サイエンス社
 A. V. Aho : et 著, 原田賢一訳, 『コンパイラ[第2版]』, サイエンス社
 など。その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し、予習・復習を行って理解を深めて下さい。
 レポート課題は時間外で行って下さい。

《備考》

「組合せ理論」, 「情報数理」, 「コンピュータ基礎論」の既修得が望ましいです。履修者のより深い理解を促すために状況に応じて授業計画の順序等を変更・修正する場合があります。

科目名	情報セキュリティ	科目ナンバリング	EIGL23004
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

インターネットにより様々なサービスがネットワークを通じて手軽に利用できるようになっています。一方、個人情報流出の問題やネット犯罪の危険に遭遇する可能性も高くなっています。この講義では、情報セキュリティに関するしっかりとした基本知識を身につけることを目標としています。情報セキュリティの考え方から始まり、ウィルス、暗号などの基本技術、さらにはシステムの監査や診断といった課題も学びます。

《授業の到達目標》

情報セキュリティ技術の基本について理解します。例えば、Webで入力したパスワードはどの程度安全か、自宅のパソコンに対してどのような脅威が存在し、その脅威から守るにはどうすれば良いかがわかります。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《テキスト》

『情報セキュリティ 標準テキスト』 情報セキュリティ標準テキスト編集委員会編（オーム社）

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《備考》

「情報ネットワーク」を必ず受講しておいて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の進め方と概要	情報のセキュリティの概要
2	情報セキュリティの考え方	情報セキュリティの定義、情報セキュリティの必要性
3	不正攻撃（1）	情報システムの脆弱性
4	不正攻撃（2）	不正攻撃の定義、種類
5	ウィルス	不正プログラムの種類、ウィルスの種類とその対策
6	ファイアーウォール	ファイアーウォールの役割、機能、構成
7	暗号（1）	暗号技術とその応用
8	暗号（2）	公開鍵暗号方式の詳細
9	認証	利用者認証、第三者認証、認証応用技術
10	監査	セキュリティ監査と診断、各種ツール
11	情報セキュリティポリシー	考え方と対策
12	標準化	国際標準、国内標準、関連法規
13	セキュリティ管理者	不正アクセス基準から見たセキュリティ管理者の業務
14	習得事項の整理	情報セキュリティに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	データベース I	科目ナンバリング	EIGL23007
担当者氏名	穂積 隆広		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

この授業では表形式でデータを蓄積するリレーショナルデータベースについて学びます。その中で実際にデータを蓄積するリレーションについて説明し、そのリレーションに効率よくデータを蓄積するためのデータの分解や整理方法（正規化）について説明します。なお、可能な範囲でコンピュータを利用した演習も行います。

《テキスト》

「データベース入門」増永良文著（サイエンス社）
 （このテキストはⅡ期のデータベースⅡでも使用します）

《参考図書》

授業中に適宜指示します。

《授業の到達目標》

リレーションに効率よくデータを登録し、そのデータを的確に取り扱うために必要な次の知識を身に付ける。

- ・データを個々に識別して取り扱うために必要な候補キーの概念
- ・リレーション内の重複データを排除し、データの保守性を高める関数従属性の概念とそれを基にしたリレーションの分割法
- ・これらの知識を基にしたデータベースソフトの利用法

《成績評価の方法》

毎回の課題やレポート（20%）、期末試験（80%）をもとに評価します。

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと。また、授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り復習しておくこと。また、自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し、活用できるかを常に考えるよう心がけること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	データベースとは何か	データベースとはどのようなもので、どのようにデータを蓄積し、どのように活用できるかといったデータベースの概要について説明する。
2	データモデルについて	データベースに登録しようとする情報を、実際にデータベースに登録可能な形式の「データ」に変換する方法や考え方について説明する。
3	リレーショナルデータモデル	データベースの形式のひとつであるリレーショナルデータベースについてそのデータモデルを説明する。
4	リレーションと第1正規形	リレーショナルデータベースのデータ保存形式であるリレーション（表）とその個々のデータについての制限について説明する。
5	候補キーと主キー	データを個々に識別して取り扱うための主キーとその選定のもとになる候補キーについて説明する。
6	リレーショナル代数	リレーションに蓄積されたデータの中から特定のデータを取り出すためのデータベース演算について説明する。
7	リレーショナル代数	リレーションに蓄積されたデータを組み合わせ新しいデータを構成するためのデータベース演算について説明する。
8	更新時異状	リレーションに蓄積されたデータに対して様々な操作を行った時に発生する問題と、そのような問題を発生させないために必要な注意点について説明する。
9	第2正規形	更新時異状を発生させないデータ形式のひとつである第2正規形について説明する。
10	第3正規形	更新時異状を発生させないデータ形式のひとつである第3正規形について説明する。
11	関数従属性	更新時異状発生の原因となる関数従属性について説明する。
12	情報無損失分解	更新時異状が発生するリレーションを第2正規形や第3正規形になおすための情報無損失分解について説明する。
13	SQLについて	データベースを操作するために使用するデータベース操作言語について説明する。
14	SQLについて	データベースを操作するために使用するデータベース操作言語について説明する。
15	応用課題	今までのまとめと応用課題に取り組む。

科目名	データベースⅡ	科目ナンバリング	EIGL23009
担当者氏名	穂積 隆広		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

この授業ではⅠ期に学んだリレーショナルデータベースについて、そのデータベース操作・記述言語であるSQLについて説明します。そしてその上でデータベースに対して起こるさまざまな障害やその対処のための仕組みについて学び、データベースを高度に活用する技術を身に付けます。なお、コンピュータを利用した演習も行います。

《テキスト》

『データベース入門』 増永良文 著 (サイエンス社)
 (このテキストはⅠ期のデータベースⅠで使用したものと同一ものです)

《参考図書》

授業中に適宜指示します。

《授業の到達目標》

データベースをサービスとして提供するデータベースサーバーを取り扱うために必要なデータベース操作言語SQLのうち、データの取得に使用するSELECT文の使い方を身につけます。その上でそのようなデータベースサーバーを大勢が同時に利用した場合に想定される問題点について説明し、それを回避するトランザクションの概念とそれを使った障害時回復の考え方を身につけます。

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと。また、授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り復習しておくこと。また、自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し、活用できるかを常に考えるよう心がけること。

《成績評価の方法》

毎回の課題やレポート(20%)、期末試験(80%)をもとに評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習	授業の概要とデータベースⅠの範囲の復習を行う。
2	SQL(単純質問)	データベース操作言語SQLのSELECT文の基本形を説明する。
3	SQL(条件指定)	データベース操作言語SQLのSELECT文において条件を指定してデータを絞り込む方法を説明する。
4	SQL(グループ化と集約関数)	データベース操作言語SQLのSELECT文において同じ値を持つデータをグループにまとめ、集計を行う方法を説明する。
5	SQL(その他)	データベース操作言語SQLのSELECT文において複数のテーブルを結合してデータを取り出す方法を説明する。
6	データベース管理システムについて	データベースをサービスとして提供するデータベースサーバーの仕組みや構造について説明する。
7	データベースの設計について	データベースサーバーにデータを登録するためのテーブル設計などについて説明する。
8	トランザクション	データベースサーバー上のひとつのデータベースを大勢が同時に利用した時に発生する問題などについて説明する。
9	トランザクション	前回説明した問題点を回避するための仕組みであるトランザクションについて説明する。
10	同時実行制御について	トランザクションの同時実行について説明する。
11	同時実行制御について	複数のトランザクションの同時実行を可能にする同時実行制御について説明する。
12	同時実行制御について	同時実行制御のひとつである2相ロック法について説明する。
13	障害時回復について	トランザクションを基本としたデータベースの障害時回復について説明する。
14	応用課題	今までの復習と応用課題に取り組む
15	応用課題	今までのまとめと応用課題に取り組む

科目名	オペレーションズ・リサーチ	科目ナンバリング	EIGL23006
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力		

《授業の概要》

表計算ソフト（Excel）を使って、企業経営を中心とする様々な問題を効率的に解くOR手法を実践的に学びます。特に従来表計算ソフトとして使ってきたExcelの問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を学びます。ORは問題を科学的に解決するための「問題解決学」です。誰もがORを学ぶことによって問題解決能力を高めることができます。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考図書》

《授業の到達目標》

(1) 問題解決能力を高めることができます。さらに、(2) 従来表計算ソフトとして使ってきたExcelの問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を使いこなすことができますようになります。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

到達目標(1)については、試験によって見ます。(2)については、毎回提出してもらう課題を見ます。平常点（毎回の課題）を30%、期末試験を70%の割合で評価します。ただし、課題をすべて提出することが期末試験を受けるための条件となります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ORの歴史と手法の例	ORの歴史と代表的な活用例を学び、概要を理解する。
2	日程管理	手法の理解と Excelを使った実習。
3	P E R T 計算	手法の理解と Excelを使った実習。
4	P E R T を使った日程管理	手法の理解と Excelを使った実習。
5	線形計画法とは	手法の理解と Excelを使った実習。
6	線形計画法の代表例	手法の理解と Excelを使った実習。
7	輸送問題	手法の理解と Excelを使った実習。
8	在庫管理	手法の理解と Excelを使った実習。
9	在庫管理手法のシミュレーションによる検討	手法の理解と Excelを使った実習。
10	待ち行列とモンテカルロシミュレーション	手法の理解と Excelを使った実習。
11	待ち行列のシミュレーションによる検討	手法の理解と Excelを使った実習。
12	現在価値と期待値	手法の理解と Excelを使った実習。
13	動的計画法	手法の理解と Excelを使った実習。
14	意思決定	手法の理解と Excelを使った実習。
15	学習のまとめ	各手法の理解確認。

科目名	情報数学A	科目ナンバリング	EITL23001
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力		

《授業の概要》

授業では問題の数理モデル化と関数の視覚化に着目して展開します。数理モデルは現象を数式で表したものです。数式にすることで、その性質や本質を深く知ることができるようになります。そのための手段として、指数関数や対数関数や三角関数などのグラフ描画および微分について扱います。経済や社会の問題を具体的に示し、将来予測に役立てることを目指します。

《授業の到達目標》

- 経済や社会の問題と数理モデルとの関連性について説明することができる。
- さまざまな関数の特徴を捉え、正確にそのグラフを描画することができる。
- 関数を微分することの意味を捉え、正確に微分の計算をすることができる。

《成績評価の方法》

- 提出課題40%
- 筆記試験60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《備考》

情報数学を学ぶ上で大切なことは、公式を暗記しているのではなく、考え方を理解していることです。問題に対する解答の速さではなく、理解の深さを大切にしたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業展開と概要説明	授業の計画と概要を説明するとともに、情報数学の具体的な事例の紹介をおこなう。
2	n次関数とその特徴(1)	直線や曲線であらわされる数理モデルを取り上げ、現象の振る舞いについて考える。
3	n次関数とその特徴(2)	一次関数や二次関数の特徴を知り、正しくグラフを描画して現象の予測につなげる。
4	n次関数とその特徴(3)	n次関数の傾きに着目して微分をおこない、最大値問題と最小値問題について学ぶ。
5	指数関数のモデル化(1)	指数関数であらわされる数理モデルを取り上げ、増加と減少の現象について考える。
6	指数関数のモデル化(2)	指数関数の性質や法則を知り、正しくグラフを描画して現象の将来予測につなげる。
7	指数関数のモデル化(3)	指数関数の傾きに着目して微分をおこない、増加や減少の変化の感覚を身に付ける。
8	対数目盛による表現(1)	対数目盛を用いて指数関数のグラフを描画し、挙動を明確に表示する方法をつかむ。
9	対数目盛による表現(2)	対数と指数の関連を捉え、対数の性質をもとにして指数方程式を解けるようにする。
10	対数目盛による表現(3)	対数グラフを利用して指数関数的増加の振る舞いを捉え、現象の本質について探る。
11	周期的な変化の現象(1)	三角関数であらわされる数理モデルを取り上げ、周期的な振る舞いについて考える。
12	周期的な変化の現象(2)	三角関数の特徴や性質を知り、正しくグラフを描画して変動の様子について考える。
13	周期的な変化の現象(3)	三角関数の傾きに着目して微分をおこない、グラフを描画して変化の様子を捉える。
14	多変数関数の視覚化	多変数で構成される数式モデルを取り上げ、その本質を視覚的に捉える方法を学ぶ。
15	授業総括と振り返り	授業内容を総括し、数式モデルの組み立てとその解決アプローチについて振り返る。

科目名	情報数学B	科目ナンバリング	EITL23002
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力		

《授業の概要》

授業では線形代数の基礎を取り上げ、行列の表現を中心に数式モデルと解決アプローチについて学習します。例えば、連立方程式の行列表現から、方程式が多くなっても解があるのかなのか、または無数にあるのかを判定する考え方を学びます。そして、解がある場合に確実に解を求める手順について取り上げます。経済や社会の問題を具体的に示し、将来予測に役立てることを目指します。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業の到達目標》

- 経済や社会の問題をもとに行列表現を用いた数理モデルを組み立てることができる。
- 行列や行列式の演算をもとにして、複数のアプローチにより連立方程式を解くことができる。
- 行列の固有値と固有ベクトルを用いて、行列の対角化とベキ計算をすることができる。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《成績評価の方法》

- 提出課題40%
- 筆記試験60%

《備考》

情報数学を学ぶ上で大切なことは、公式を暗記していることではなく、考え方を理解していることです。問題に対する解答の速さではなく、理解の深さを大切にしたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業展開と概要説明	授業の計画を概要を説明するとともに、情報数学の具体的な事例の紹介をおこなう。
2	行列演算とその性質(1)	行列の行と列の概念を理解し、和や差やスカラー倍や積の演算をできるようにする。
3	行列演算とその性質(2)	行列の交換法則、結合法則、分配法則が成立するかどうかの演算の確認をおこなう。
4	行列演算とその性質(3)	接続行列と行列演算を用いた数理モデルについてその解決アプローチを取り上げる。
5	n元連立方程式の解(1)	掃き出し法を用いた行列の変形をおこない、連立方程式を解くための準備を進める。
6	n元連立方程式の解(2)	行列を変形した結果から行列の階数を求め、連立方程式の解の存在有無を判別する。
7	n元連立方程式の解(3)	与えられた行列の逆行列を求めて、それを利用した連立方程式の解の求め方を知る。
8	行列式の余因子展開(1)	行列式の定義およびその性質を踏まえながら余因子展開による行列式の値を求める。
9	行列式と余因子展開(2)	余因子展開と行列式の性質を利用して効率的に行列式の値を求められるようにする。
10	行列式と余因子展開(3)	行列式の計算とクラメル公式により連立方程式の解を求めるアプローチを学ぶ。
11	モデルと現象の推移(1)	現象の時系列変化をみることのできる推移行列を取り上げ未来予測の事例を挙げる。
12	モデルと現象の推移(2)	行列の固有値と固有ベクトルを理解し、その計算をもとに行列の対角化をおこなう。
13	モデルと現象の推移(3)	行列の対角化を利用して行列のベキ計算を求め、さらに漸化式から一般項を求める。
14	最適化問題への応用	与えられた制約条件のもとで目的のものを最大または最小にする最適化問題を扱う。
15	授業総括と振り返り	授業内容を総括し、数式モデルの組み立てとその解決アプローチについて振り返る。

科目名	応用プログラミングA	科目ナンバリング	EIPL23012
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

JavaScript言語を使ったプログラミングの演習を行います。オブジェクト指向、イベントドリブン、DOMについて学んだ後、ウェブブラウザ上で動作するクライアントサイドプログラミングに取り組みます。

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配布します。

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

1. JavaScriptによるプログラミングが行えること。
 2. オブジェクト指向の考え方 自ら考え、思考と表現の幅を広げることができること。
 3. Webページへの連携ができること。
- を目標にします。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。
プログラムの入力やデバッグの作業。
など自発的な学習をして下さい。

《成績評価の方法》

毎回課題提出を設けます。提出点および内容点(初級60%, 上級30%), 平常点(10%)を成績評価とします。
欠席回数が全授業実施回数の1/3以上となるときには、単位認定ができないことがあります。

《備考》

「ウェブデザイン」、「情報デザイン」、「プログラミングI」、「プログラミングII」、「ソフトウェア設計論」の既修得が望ましいです。C言語、HTML、CSSの基礎の理解は必須です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	言語概要	JavaScriptとECMAScript
2	処理系の使い方	対話的に用いる処理系の使い方、C言語との比較
3	変数、制御文	変数、スコープ、Cと異なる制御文
4	関数	関数の定義と呼び出し、関数の引数
5	配列	配列の定義、配列のメソッド
6	オブジェクト(1)	オブジェクト、プロパティ
7	オブジェクト(2)	処理系で用意されているオブジェクト
8	DOM	HTMLとブラウザ上のオブジェクト
9	イベント	HTMLとイベント
10	CSS	CSSを扱うスクリプト
11	グラフィックス	スクリプトによる描画
12	正規表現	正規表現によるパターンマッチング
13	応用(1)	動的なウェブページを設計する
14	応用(2)	動的なウェブページを作成する
15	応用(3)	予期せぬ使い方に対応する

科目名	ソフトウェア設計論		科目ナンバリング	EIPL23011	
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力				

《授業の概要》

ソフトウェア開発で用いられる「オブジェクト指向」の基礎知識や思考方法など、その表現方法としてのモデル化を学び、計算機上の空間だけでなく現実世界に存在するシステム設計や評価のための方法論の確立を目指します。

モデリングの記述にはUML(Unified Modeling Language:統一モデリング言語)を使用し、UMLの記述規則の修得も目指します。

《授業の到達目標》

1. オブジェクトのもつ特性や特徴や関連を表現する静的モデリングの理解ができること.
2. 処理の手続きや制御(時系列, 事象・状態)を表現する動的モデリングの理解ができること.
3. システムの入出力アクセスを表現する機能モデリングが理解できること.
4. 具象化と抽象化の概念, 記述規則に対して正確な記述方法と思考力の獲得. を目標とします.

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(35%), 試験に代わる課題(55%)平常点(10%)を基本として総合的に判定し評価します. 課題については提示する課題すべてを対象とします.

欠席回数が全授業実施回数の1/3以上あるときには単位認定できないことがあります.

《テキスト》

教科書は使用しません. 授業に必要な資料は適宜配付します.

《参考図書》

Sinan Si Albir著, 原 隆文 訳, 『入門UML』, オライリージャパン

Russ Miles, Kim Hamilton著, 原 隆文 訳, 『入門UML2.0』, オライリージャパン

など. その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します.

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい. 試験に代わる課題作成は授業時間外で行って下さい.

《備考》

『情報デザイン』, 『オートマトン』の既履修が望ましいです. より深い理解を促すために授業計画の順序等を変更・修正する場合があります.

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要と導入 モデリングの基礎	モデリングの概要と基礎, UMLの利便性
2	静的モデル(1): オブジェクト図(1)	静的モデルの記述内容と優位性 インスタンスとクラス
3	静的モデル(2): オブジェクト図(2)	関連, リンクの概念の理解
4	静的モデル(3): オブジェクト図(3)	集約, 汎化, 継承の概念の理解
5	動的モデル(1)	動的モデルの記述内容と優位性 並行動作, 同期, アクティビティ図
6	動的モデル(2)	シナリオと事象トレース図
7	動的モデル(3)	事象, 状態, 活動の違い 状態図の概要
8	動的モデル(4)	状態図の実践
9	機能モデル(1)	入出力, データ変換, データフロー図
10	機能モデル(2)	データストア, 更新
11	総合的な演習・課題(1)	静的モデルの演習
12	総合的な演習・課題(2)	動的モデルの演習
13	総合的な演習・課題(3)	機能モデルの演習
14	総合的な演習・課題(4)	具体的なシステムの設計
15	まとめ	モデリングのまとめおよびその他補足

科目名	情報検索論	科目ナンバリング	EIGL23010
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 2-5 情報処理能力		

《授業の概要》

高度情報化社会においては、単なる検索技術の習得だけでなく、情報の構造、世の中の情報の流れ、インターネットをはじめとする情報システムの仕組みを理解し、さらに情報を見る目を養う必要があります。そのような情報スキルを身につけるための基礎となる知識や技術を学びます。授業の中では、パソコンを使った実習も多く取り入れていきます。

《テキスト》

特に使用しません。その都度、資料を提示します。

《参考図書》

《授業の到達目標》

情報検索は何かの問題解決のためのひとつのプロセスです。ですから、みなさんがこの授業で得た知識や技術を実際の問題解決の場で活用できるようになることが目標です。そのために、検索エンジンの仕組みの理解を図ります。そのうえで、日常生活の中での問題解決に必要な情報、他の授業におけるレポート作成や研究に必要な情報、ビジネスにおける問題解決に必要な情報検索のスキルを身につけることが目標です。

《授業時間外学習》

毎回授業の復習をし、確認テストに備えてください。

《成績評価の方法》

平常点（毎回の課題）を20%、復習テスト（毎回授業の最初に行います）を80%の割合で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	検索エンジンが目指すこと	検索エンジンの概要を図書館システムと対比させながら理解する。
2	Googleを使いこなす	Googleの様々な機能を使ってみる。
3	検索エンジンの仕組み (情報の集め方)	図書館システムについて理解する。
4	検索エンジンの仕組み (情報の集め方)	クローラの Web ページ収集方法について理解する。
5	検索エンジンの仕組み (情報の整理)	分類について学ぶ。
6	検索エンジンの仕組み (情報の整理)	全文検索のアルゴリズムを学ぶ。
7	検索エンジンの仕組み (情報の整理)	索引付けについて理解する。
8	検索エンジンの仕組み (情報の整理)	索引付けについて理解する。
9	検索エンジンの仕組み (情報の整理)	検索エンジンを評価する。
10	検索エンジンの仕組み (情報の検索)	情報要求について理解する。
11	検索エンジンの仕組み (情報の検索)	図書館員の仕事について理解する。
12	検索エンジンの仕組み (情報の検索)	検索モデルについて理解する。
13	検索エンジンの仕組み (情報の検索)	検索システムの将来について学ぶ。
14	キーワードの見つけ方	体系的に検索キーワードを見つける方法を取得する。
15	検索エンジンの問題点	検索エンジンに係わるインターネット上の問題点について考察する。

科目名	情報倫理	科目ナンバリング	EIGL23011
担当者氏名	榎木 浩、堀池 聡		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

インターネットの普及とともに大量の情報に接するようになってきた。これらの情報を活用することにより日々の生活において様々な利便性が得られる一方、コンピュータウィルスの被害や、著作権侵害などの危険性と隣り合わせであることも事実であり、自己の責任において対処しなければならない。この授業では情報に関連した法律、モラル、技術を学び、適切なルールやマナーのもとで情報を取り扱う方法や考え方を学ぶ。

《授業の到達目標》

- 情報技術と関連する法律について理解する。
- 現代社会と情報のかかわりについて理解する。
- 情報社会における緒問題を分析し、適切な対応策が展開できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組みや毎回の到達度確認を40%、総合到達度確認60%の割合で評価する。

《テキスト》

『学生時代に学びたい情報倫理』 榎 大輔 著、共立出版、2011

《参考図書》

適宜提示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を復習してください。特に後半の事例分析等では、その結果をノートにまとめましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報倫理の概要	授業内容、進め方、成績評価の説明、情報倫理とは
2	情報倫理に対する基本的な考え方	情報倫理に対する基本的な考え方を理解する。
3	情報と法 1	情報と表現の自由について理解する。
4	情報と法 2	個人情報保護法について理解する。
5	情報と法 3	知的財産法の概要、著作権法、産業財産権について理解する。
6	情報技術 1	情報倫理に関連した情報ネットワーク技術の概要を理解する。
7	情報技術 2	コンピュータに対する不正攻撃の概要を理解する。
8	情報技術 3	セキュリティ技術の概要を理解する。
9	現代社会と情報 1	現代社会における情報技術の浸透と個人の関係について理解する。
10	現代社会と情報 2	情報技術がもたらすリスクについて理解する。
11	現代社会と情報 3	情報社会におけるリスクの回避やモラルのあり方について理解する。
12	事例分析 1	知的財産に関連した事例に関し、対応策について討論する。
13	事例分析 2	コンピュータウィルスなどの被害事例に関し、対応策について討論する。
14	事例分析 3	情報モラルに関連した事例に関し、対応策について討論する。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達度レベルを確認する。

科目名	情報管理論	科目ナンバリング	EIGL23008
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

この講義では、(1)近年の「情報化」が、ビジネスのあり方をいかに変えてきているかを考え、さらに(2)近年の「情報化」が、社会で働く個々人の働き方や考え方にどのような変化をもたらしているかを議論し、最後に(3)近年の「情報化」がもたらした新しいタイプの社会的リスク(犯罪、格差等)について考察したいと思います。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介する

《授業の到達目標》

○IT社会を考察するのに必須の知識やボキャブラリーを習得できる。○IT社会のメリット、デメリットを具体的に理解できる。○情報科教員として生徒に授業を行う際に必要な内容と視点を習得できる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント(場合によってはそれ以上の量)にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

講義中にテストを実施し、レポートを課す。これらの結果を総合して評価(レポート50%、テスト50%)をおこなう。テストやレポートの詳細については講義の中で説明する。

《備考》

・「情報」の高等学校教諭一種免許状の取得を目指す諸君は必ず履修して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	IT社会とは
2	情報化によるビジネス環境の変化(1)	コンピュータの歴史、ENIACからメインフレームへ
3	情報化によるビジネス環境の変化(2)	コンピュータの歴史、電卓からパソコンへ
4	新しいビジネスモデル(1)	MIS、DSS
5	新しいビジネスモデル(2)	SIS、BPR
6	新しいビジネスモデル(3)	SCM
7	現代のIT社会の諸相(1)	国家のIT戦略
8	現代のIT社会の諸相(2)	インターネットの発達
9	現代のIT社会の諸相(3)	インターネットビジネスの勃興
10	労働環境と労働意識の変化(1)	雇用形態、コア・コンピタンス
11	労働環境と労働意識の変化(2)	アウトソーシング、組織のフラット化
12	労働環境と労働意識の変化(3)	成果主義、IT技術者の現状
13	リスクマネジメント(1)	リスクとは
14	リスクマネジメント(2)	IT社会の様々なリスク
15	まとめ	具体的なリスクの対処法

科目名	情報システム特論A		科目ナンバリング	EITL23003
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-5 情報処理能力			

《授業の概要》

基本情報処理技術者試験午前問題の出題範囲のうち、コンピュータ構成要素、システム構成要素、アルゴリズムとプログラミングを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《テキスト》

『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 (オーム社) (情報システム特論Bと同じ教科書)

《参考図書》

適宜提示します。

《授業の到達目標》

受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対しては情報処理技術者試験午前問題の合格レベルに達することを目標とします。

《授業時間外学習》

授業内容を十分復習し、練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えてください。

《成績評価の方法》

第3週から第15週までの授業の最初に前週の授業内容に関する10点満点のテストを行います。13回のテストのうち、良い成績10回分の合計点(100%)により成績を評価します。

《備考》

10人程度の小人数のクラス編成とする。受講希望者は必ず初回の授業に参加して受講許可を得てください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	基本情報技術者試験の概要、授業の進め方、単位の認定基準 受講者多数の場合は選抜を実施
2	基礎理論(1)	離散数学
3	基礎理論(2) 試験	応用数学 第2週の講義内容に対する試験
4	基礎理論(3) 試験	情報・通信、制御 第3週の講義内容に対する試験
5	アルゴリズム(1) 試験	配列、リスト構造 第4週の講義内容に対する試験
6	アルゴリズム(2) 試験	完全2分木、スタック、キュー 第5週の講義内容に対する試験
7	アルゴリズム(3) 試験	2分探索木、ハッシュ法、ハッシュ関数 第6週の講義内容に対する試験
8	コンピュータ(1) 試験	CPU性能評価、高速化技術 第7週の講義内容に対する試験
9	コンピュータ(2) 試験	メモリーの種類、キャッシュ 第8週の講義内容に対する試験
10	コンピュータ(3) 試験	磁気ディスクの容量、磁気ディスクのアクセス時間 第9週の講義内容に対する試験
11	システム構成要素(1) 試験	完全2分木、スタック、キュー 第10週の講義内容に対する試験
12	システム構成要素(2) 試験	集中処理と分散処理、サーバクライアントシステム、高信頼化手法 第11週の講義内容に対する試験
13	システム構成要素(3) 試験	直列構成の稼働率、並列構成の稼働率、 第12週の講義内容に対する試験
14	システム構成要素(4) 試験	2 out of 3 システム 第13週の講義内容に対する試験
15	まとめ 試験	全試験内容に対する復習 第14週の講義内容に対する試験

科目名	情報システム特論B			科目ナンバリング	EITL23004
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力			

《授業の概要》

基本情報処理技術者試験午前問題の出題範囲のうち、コンピュータ構成要素、システム構成要素、アルゴリズムとプログラミングを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《テキスト》

『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 (オーム社)
(情報システム特論Aと同じ教科書)

《参考図書》

適宜提示します。

《授業の到達目標》

受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対しては情報処理技術者試験午前問題の合格レベルに達することを目標とします。

《授業時間外学習》

授業内容を十分復習し、練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えてください。

《成績評価の方法》

第3週から第15週までの授業の最初に前週の授業内容に関する10点満点のテストを行います。13回のテストのうち、良い成績10回分の合計点(100%)により成績を評価します。

《備考》

10人程度の小人数のクラス編成とする。受講希望者は必ず初回の授業に参加して受講許可を得てください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	基本情報技術者試験の概要、授業の進め方、単位の認定基準 受講者多数の場合は選抜を実施
2	データベース(1)	データベースのモデル
3	データベース(2) 試験	データベースの論理設計 第2週の講義内容に対する試験
4	データベース(3) 試験	集合演算、データベース言語 第3週の講義内容に対する試験
5	データベース(4) 試験	データベースの制御と応用 第4週の講義内容に対する試験
6	ネットワーク(1) 試験	TCP/IP 第5週の講義内容に対する試験
7	ネットワーク(2) 試験	LANとWAN 第6週の講義内容に対する試験
8	ネットワーク(3) 試験	インターネット 第7週の講義内容に対する試験
9	セキュリティ(1) 試験	情報セキュリティ技術 第8週の講義内容に対する試験
10	セキュリティ(2) 試験	情報セキュリティ対策 第9週の講義内容に対する試験
11	セキュリティ(3) 試験	情報セキュリティ実装技術 第10週の講義内容に対する試験
12	システム開発(1) 試験	開発プロセス、ソフトウェア設計 第11週の講義内容に対する試験
13	システム開発(2) 試験	テストレビュー、ソフトウェア保守 第12週の講義内容に対する試験
14	プロジェクト 試験	マネジメント 第13週の講義内容に対する試験
15	まとめ 試験	全試験内容に対する復習 第14週の講義内容に対する試験

《教職に関する科目》

科目名	教育史	科目ナンバリング	ETAL53003		
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び（例は「参考図書」欄を参照）、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は、文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと、無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ、それについて発表することにより、教育史を身近に感じてもらうことが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、童門冬二『上杉鷹山』、乙武洋匡『五体不満足』、ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』

《教職に関する科目》

科目名	公民科教育法	科目ナンバリング	ETPU43001		
担当者氏名	大和 道生				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講座は、高等学校公民科教諭の普通免許取得のために開講されるものであり、「中学校学習指導要領解説社会編」「高等学校学習指導要領公民編」の解説・分析を中心に進めていく。公民については、中学校においても実施しており、連続性を考慮し、その解説・分析も含めて行う。また、教科書にそった基本的・基礎的な内容も理解する。

《授業の到達目標》

1 高等学校公民科、中学校社会科の指導内容・指導方法についての基本的な理解を深める。2 科目「現代社会」、中学校社会公民分野の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。3 授業研究・評価・教材の選択と工夫の実践をとおして、公民科教員としての資質・技能を培う。

《成績評価の方法》

授業の課題（30%）、授業態度（20%）、レポート提出（30%）、模擬授業（20%）等により総合的に評価する。

《テキスト》

『中学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版
『高等学校学習指導要領解説公民編』文部科学省、教育出版
『中学社会 公民的分野』日本文教出版

《参考図書》

『新しい公民科教育の実践と理論 公民科教育法』魚山秀介・小泉博明 著、清水書院
『高等学校新学習指導要領の展開公民科編』大杉昭英編著、明治図書

《授業時間外学習》

- 1 講義にともなうテキストの該当箇所は必ず目を通しておくこと。
- 2 年間指導計画、学習指導案の作成に当たっては、個別の作業時間を十分に確保すること。
- 3 模擬授業等の実施については、綿密な教材研究を行うこと。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが、教職の専門性を正しく理解し、意欲的に受講すること。まじめな態度を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公民科教育法を学ぶに当たって	I期・II期を通したオリエンテーション、自己紹介等
2	教育とは（含教育史）	教育の目的・意義等について、過去から現代まで
3	教育法規	新教育基本法を中心に、憲法その他の教育法規について
4	学習指導要領について	学習指導要領の意義・法的効力・歴史的変遷等について
5	公民教育について	公民的資質の形成に向けて、政治・経済・倫理、社会領域の各分野から公民科教育の基本的な性格（本質）について学ぶ。
6	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
7	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
8	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
9	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
10	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
11	学習指導案の作成	学習指導案の構成・形式・作成要領の説明
12	学習指導案の作成	学習指導案の構成・形式・作成要領の説明
13	授業・教材研究	高等学校公民科「現代社会」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
14	授業・教材研究	高等学校公民科「現代社会」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
15	I期のまとめ	レポート、その他

《教職に関する科目》

科目名	公民科教育法	科目ナンバリング	ETPU43001		
担当者氏名	大和 道生				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講座は、高等学校公民科教諭の普通免許取得のために開講されるものであり、「高等学校学習指導要領公民編」の解説・分析を中心に進めていく。公民については、中学校においても実施しており、連続性を考慮し、その解説・分析も含めて行う。また教科書にそった基本的・基礎的な内容も理解する。

《授業の到達目標》

1 高等学校公民科、中学校公民分野の各教科の指導内容・指導方法についての基本的な理解を深める。 2 科目「現代社会」、中学校社会公民分野の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。 3 授業研究・評価・教材の選択と工夫の実践をとおして、公民科教員としての資質・技能を培う。授業に関連した見学等もあり。

《成績評価の方法》

授業の課題(20%)、授業態度(20%)、レポート提出(30%)、模擬授業(30%)等により総合的に評価する。

《テキスト》

『中学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版
『高等学校学習指導要領解説公民編』文部科学省、教育出版

《参考図書》

『新しい公民科教育の実践と理論 公民科教育法』 魚山秀介・小泉博明 著、清水書院
『高等学校新学習指導要領の展開公民科編』大杉昭英編著、明治図書

《授業時間外学習》

1 講義にともなうテキストの該当箇所は必ず目を通しておくこと。
2 年間指導計画、学習指導案の作成にあたっては、個別の作業時間を十分に確保すること。
3 模擬所業等の実施については、綿密な教材研究を行うこと。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが、教職の専門性を正しく理解し、意欲的に受講すること。まじめな態度を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業・教材研究	高等学校「現代社会」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
2	授業・教材研究	高等学校「現代社会」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
3	授業・教材研究	高等学校「倫理」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
4	授業・教材研究	高等学校「倫理」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
5	見学等	現代社会に関連する資料館・工場等、社学融合について学ぶ。
6	授業・教材研究	高等学校「政治・経済」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
7	授業・教材研究	高等学校「政治・経済」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
8	学習指導案の作成	学習指導案の構成・形式・作成要領の説明
9	授業研究	模擬授業の実施、研究授業
10	授業研究	模擬授業の実施、研究授業
11	授業研究	模擬授業の実施、研究授業
12	評価について	教育評価の意義、評価の場面・観点・基準・規準等について
13	公民科の教育実習	教育実習の意義と役割、実習の内容・展開・評価等について
14	公民科教員として期待されるもの	教員としての資質、指導力及び自己啓発について
15	Ⅱ期のまとめ	年間のまとめ、レポート、その他

《教職に関する科目》

科目名	情報科教育法	科目ナンバリング	ETIN43001
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

情報活用の実戦力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、それぞれの指導方法を実践的に学びます。

《テキスト》

特に使用しません。

《参考図書》

(教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』小柳和喜雄・小野賢太郎・平井尊士編著、学芸図書、2012

《授業の到達目標》

情報教育の意味を理解し、そのために必要な知識と技術を取得することを目的とします。さらに、情報科ならではの新しい学習形態を考案できるような応用力の獲得を目指します。

《授業時間外学習》

実習、課題作成のために必要な調査は授業時間以外で行ってください。

《成績評価の方法》

学期中に課す課題が100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報科とは	情報科設置経緯の概観、情報科の目標、情報科の学習内容について理解する。
2	情報活用の実践力の指導法(1)	指導すべき情報活用の実践力の具体的な内容を理解する。
3	情報活用の実践力の指導法(2)	情報活用の実践力の指導方法について考察する。
4	情報の科学的な理解の指導法(1)	指導内容を理解する。
5	情報の科学的な理解の指導法(2)	指導方法について考察する。
6	問題解決とモデル化の指導法(1)	指導内容を理解する。
7	問題解決とモデル化の指導法(2)	指導方法について考察する。
8	アルゴリズムとプログラミングの指導法(1)	指導内容を理解する。
9	アルゴリズムとプログラミングの指導法(2)	指導方法について考察する。
10	情報検索とデータベースの指導法(1)	指導内容を理解する。
11	情報検索とデータベースの指導法(2)	指導方法について考察する。
12	情報モラル・情報倫理の指導法(1)	指導内容を理解する。
13	情報モラル・情報倫理の指導法(2)	指導方法について考察する。
14	メディアリテラシーの指導法(1)	指導内容を理解する。
15	メディアリテラシーの指導法(2)	指導方法について考察する。

《教職に関する科目》

科目名	情報科教育法	科目ナンバリング	ETIN43001		
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

情報活用の実戦力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、それぞれの指導方法を実践的に学びます。

《テキスト》

特に使用しません。

《参考図書》

(教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』小柳和喜雄・小野賢太郎・平井尊士編著、学芸図書、2012

《授業の到達目標》

情報教育の意味を理解し、そのために必要な知識と技術を取得することを目的とします。さらに、情報科ならではの新しい学習形態を考案できるような応用力の獲得を目指します。

《授業時間外学習》

実習、課題作成のために必要な調査は授業時間以外で行ってください。

《成績評価の方法》

学期中に課す課題が100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報通信ネットワークの指導法(1)	指導内容を理解する。
2	情報通信ネットワークの指導法(2)	指導方法について考察する。
3	情報システムと社会の指導法(1)	指導内容を理解する。
4	情報システムと社会の指導法(2)	指導方法について考察する。
5	評価方法	様々な評価方法とその問題点について理解し、評価方法の工夫について考察する。
6	学習指導案(1)	学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案(2)	実習
8	情報科とプレゼンテーション(1)	用途に応じたプレゼンテーションの行い方や技術を理解・修得する。
9	情報科とプレゼンテーション(2)	実習
10	授業形式の実習(1)	模擬授業の実施と相互評価
11	授業形式の実習(2)	模擬授業の実施と改善についての議論
12	授業形式の実習(3)	模擬授業の実施と相互評価
13	これからの情報教育(1)	現在の情報教育の課題と問題点を議論する。
14	これからの情報教育(2)	情報科教育の意義について考える。
15	情報教育に必要な知識	情報を指導するための前提となる知識の確認を行う。

《教職に関する科目》

科目名	商業科教育法	科目ナンバリング	ETAC43001		
担当者氏名	鎌田 志恵雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

商業科教員を目指す人には必修の科目です。変化の激しい社会の中で、確かな学力、豊かな心、健やかな体が調和された「生きる力」を育むことは教育の重要な課題となっています。商業科教育法Ⅰでは「高等学校学習指導要領解説商業編」を中心に商業教育の意義、各科目の目標や内容とその取扱いを分析し、商業科の教員として第一に必要な確かな学力を育むための授業力養成の基礎を学びます。

《授業の到達目標》

- 1 教育を取り巻く現状や教育法規、自己の体験を基に、教員としての教育観をもつことができる。
- 2 商業教育の意義や目標、商業科の科目編成について理解できる。
- 3 商業科の各科目の目標や、その取扱いについて理解し教材の工夫や指導方法について考えることができる。

《成績評価の方法》

到達目標について試験を実施します。また、事前の課題の準備や資料の提出の状況、意見発表や指導案の作成等の達成状況を評価します。評価の割合は試験60%、事前の課題や資料20%、意見発表や達成状況20%とし、100点満点で60点以上を合格とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 学校教育について	最初に、今後の授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行います。法規等を基に学校教育と教員の役割について考えます。
2	学校と教育を取り巻く状況	生徒や教員に関する調査データ、報道等を資料に、教育を取巻く状況について理解し、教員として必要な資質について考察します。
3	高等学校における商業教育の現状と課題	さまざまな商業高校の活動や教員採用試験から商業科教員としての心構えや、身に付けておきたいことがらを考察します。
4	商業教育の歩みと科目の変遷	我が国の商業教育の歩みと学習指導要領による科目の変遷について学習し、商業教育について考えます。
5	学習指導要領と商業科の目標・科目編成	学習指導要領をもとに、商業教育の意義を考えるとともに各科目の内容を概観します。
6	ビジネス基礎と学習指導案作成(1)	商業の基礎科目である「ビジネス基礎」を取り上げ、学習指導案の書き方を覚えると共に、科目の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
7	ビジネス基礎と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
8	マーケティング分野と学習指導案作成(1)	マーケティング分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
9	マーケティング分野と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
10	ビジネス経済分野と学習指導案作成	ビジネス経済分野の目標・内容の理解を深め、各自の考えを加味し、学習指導を効果的に行うための学習指導案を作成します。
11	会計分野と学習指導案作成(1)	会計分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
12	会計分野と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
13	ビジネス情報分野と学習指導案作成(1)	ビジネス情報分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
14	ビジネス情報分野と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
15	総合的な科目と学習指導案作成・まとめ	総合的な科目の目標・内容の理解を深め、各自の考えを加味し、学習指導を効果的に行うための学習指導案を作成します。最後にまとめと試験について説明します。

《テキスト》

- ・高等学校学習指導要領解説商業編 著作権文部科学省 発行実教出版株式会社 平成22年5月初版発行
- ・その他プリントを適宜配布します。

《参考図書》

- ・高等学校学習指導要領および同解説総則編
- ・商業科教育法 日本商業教育学会 実教出版2011.4/25発行
- ・商業科教育法 吉野弘一著 実教出版
- ・実教出版 商業教科書 ビジネス基礎 マーケティング 商品開発 ビジネス経済 経済活動と法 簿記 財務会計Ⅰ 原価計算 情報処理 プログラミング 総合実践 ビジネス実務

《授業時間外学習》

事前に指示する資料収集や課題をまとめ、授業時間に提示や発表できるようにしてください。また、提出を指示された課題は指定期日までに提出してください。

《備考》

高等学校商業教科書を持っている人は授業で使用しますので指示したときに持ってきてください。

《教職に関する科目》

科目名	商業科教育法	科目ナンバリング	ETAC43001
担当者氏名	鎌田 志恵雄		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

商業科教育法Ⅰと併せ商業科教員を目指す人には必修の科目です。

本講義では商業科教育法Ⅰの内容に引き続き、年間学習計画の立案、学習指導案の作成、模擬授業の実施と一連の流れを通して教師としての実践力を高めていきます。また、生徒の立場での授業評価を実施し、意見交換をする中で授業に必要な要素や方法・課題を考察します。

《授業の到達目標》

- 1 教材研究の方法について理解し、指導案に反映する事ができる。
- 2 指導案を基に模擬授業を実施する事ができる。
- 3 教育課程や履修・修得を理解し、指導する事が出来る。
- 4 教育公務員としての服務や教員としての資質を理解し、教員として努力する姿勢がある。

《成績評価の方法》

到達目標について試験を実施します。また、指導案に基づく模擬授業の実施状況、指導案や授業についての意見交換の内容を評価します。評価の割合は試験50%、模擬授業の実施状況30%、指導案や意見交換20%とし、100点満点で60点以上を合格とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	年間学習指導案の立案 授業指導と教員の役割	最初に、年間学習指導案について学習します。 また、授業指導における教員の留意事項について考察します。
2	「ビジネス基礎」学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
3	「ビジネス基礎」模擬授業と評価票作成	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
4	「ビジネス基礎」授業評価と意見交換・考察	教員役を交替し、模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指すとともに、各自の指導案の改善について考察します。
5	マーケティング分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
6	マーケティング分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
7	ビジネス経済分野模擬授業準備と実施	各自、任意の科目・単元について時前に作成した学習指導案と教材で、教員役と生徒役に分かれて模擬授業実施、評価・反省会で授業力向上を目指します。
8	会計分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
9	会計分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
10	ビジネス情報分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
11	ビジネス情報分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
12	総合的な科目模擬授業準備と実施	各自、任意の科目・単元について時前に作成した学習指導案と教材で、教員役と生徒役に分かれて模擬授業実施、評価・反省会で授業力向上を目指します。
13	教育課程の作成	学習指導要領を確認しながら学科と教育目標を各自で設定し、教育課程を作成します。
14	教職員の服務と危機管理対応	教育公務員としての服務を整理し、模擬事例から学校におけるさまざまな危機管理対応について、意見交換をして考察します。
15	教員採用試験とまとめ	教員採用試験への対応について検討し、最後に講義のまとめを行います。

《テキスト》

- ・高等学校学習指導要領解説商業編 著作権文部科学省 発行実教出版株式会社 平成22年5月初版発行
- ・その他プリントを適宜配布します。

《参考図書》

- ・高等学校学習指導要領および同解説総則編
- ・商業科教育法 日本商業教育学会 実教出版2011.4/25発行
- ・商業科教育法 吉野弘一著 実教出版
- ・実教出版 商業教科書 ビジネス基礎 マーケティング 商品開発 ビジネス経済 経済活動と法 簿記 財務会計Ⅰ 原価計算 情報処理 プログラミング 総合実践 ビジネス実務

《授業時間外学習》

事前に指示する資料収集や課題をまとめ、授業時間に提示や発表できるようにしてください。また、提出を指示された課題は指定期日までに提出してください。

《備考》

高等学校商業教科書を持っている人は授業で使用しますので指示したときに持ってきてください。

《教職に関する科目》

科目名	教育情報化演習 I	科目ナンバリング	ETAL53010
担当者氏名	池本 廣希		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

『問題発見学習』を基底とした『地元学』として教育情報化演習 I を展開する。

「ため池」「用水路」「水利」「水をめぐる郷土史」などを題材にゼミ形式で学習する。

《テキスト》

なし 資料提供

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』『生命系の経済学を求めて』新泉社

《授業の到達目標》

- ①地域の問題発見能力を修得する。
- ②その問題発生の原因と解決能力を修得する。
- ③以上の能力を生徒に伝授する能力を修得する。

《授業時間外学習》

地域社会の問題発見（課題）とその解決策についてレポートを課す。

《成績評価の方法》

演習中のコミュニケーション能力（50%）と課題発表（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス I	学校の現状と学校の役割。
2	ガイダンス II	地域学習から学ぶこと
3	地元学 I	『地元学』とは何か？その存在意義と課題。
4	地元学 II	兵庫大学の『地元学』－寺田池フィールドワーク－
5	地元学 III	「ため池学」から問題発見学習 自然科学編
6	地元学 IV	「ため池学」から問題発見学習 社会科学編
7	地元学 V	水をめぐる郷土の歴史－淡山疎水といなみ野台地－
8	地元学 VI	水を求めて－小学生の作文をとうして－
9	地元学 VII	いなみ野台地ため池協議会と地域おこし
10	地元学 VIII	学校と地域の今後
11	課題発表	受講生の地元学レポート発表（パワーポイントで編集・発表）
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	まとめ	地元学と学校の役割

《教職に関する科目》

科目名	教育情報化演習Ⅱ	科目ナンバリング	ETAL53011		
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業はI期の「教育情報化演習Ⅰ」の続きであり、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考図書》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちに情報機器を用いたメッセージ伝達ができるようになる。

《授業時間外学習》

休日に、教育の情報化に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業【アクティブラーニングゾーン使用予定】
3	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
4	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
5	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
6	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
7	情報機器を用いた模擬授業(1)	例:受講生A【アクティブラーニングゾーン使用予定】
8	情報機器を用いた模擬授業(2)	例:受講生B【アクティブラーニングゾーン使用予定】
9	情報機器を用いた模擬授業(3)	例:受講生C【アクティブラーニングゾーン使用予定】
10	情報機器を用いた模擬授業(4)	例:受講生D【アクティブラーニングゾーン使用予定】
11	情報機器を用いた教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から(深める)
12	情報機器を用いた教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」(深める)
13	情報機器を用いた教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観(深める)
14	情報機器を用いた教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育(深める)
15	本授業の総括	情報機器を用いた教師の仕事の深い楽しみ

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）	科目ナンバリング	ETAL43013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐり問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験する
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	精神的な問題の分類と概説	精神的な問題の全体像を把握し、病態水準や自我の強さについて学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

()は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		教員免許関係			学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成28年度の 担当者	ページ	
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
演 習 科 目	基礎演習A	演習	2					2										
	基礎演習B	演習	2						2									
	発展演習I	演習	2							2								
	発展演習II	演習	2								2							
	専門演習I	演習	2									2						
	専門演習II	演習	2										2					
	卒業演習I	演習	2											2				※1 193
	卒業演習II	演習	2												2			※1 194
	卒業研究	演習		4												4		※1 195
専 門 教 育 科 目	経済ビジネス入門	講義	2					2										
	情報科学入門	講義	2					2										
	基礎数学A	講義	2					2										
	アプリケーションソフト	演習	4		□				4									
	プレゼンテーションA	演習	2						2	2								
	プレゼンテーションB	演習	2						2	2								
	日本社会論	講義	2					2										
	現代経済社会論A	講義	2						2									
	現代経済社会論B	講義	2							2								
	簿記演習I	演習	2			△			2									
	経済学入門	講義	2				◆			2								
	経営学入門	講義	2			▲				2								
	民法	講義	2			▲				2								
	グラフィックス	講義	2		■				2									
	ウェブデザイン	講義	2						2									
	基礎数学B	講義	2						2									
	経済数学A	講義	2							2								
	経済数学B	講義	2								2							
	統計学	講義	2			▲				2								
	社会経済史	講義	2			▲			2									
	現代思想論	講義	2								2							
	現代社会文化論	講義	2									2						
	国際政治学	講義	2				◇			2								
	国際社会論	講義	2								2							
	行政学I	講義	2									2						
	行政学II	講義	2										2					
	マスメディア論	講義	2		■					2								
	比較文化論	講義	2								2							
	情報社会論	講義	2		■								2					
	いなみ野ため池学	講義	2										2					
	いなみ野まちおこし学	講義	2											2				
	インターンシップ	講義	2											2				
フィールドワーク	演習	2									2							
経済情報特論A	講義	2						2										
経済情報特論B	講義	2							2									
経済情報特論C	講義	2						2										
経済情報特論D	講義	2							2									
経済情報特論E	講義	2								2								
経済情報特論F	講義	2									2							
経済情報特論G	講義	2										2						
経済情報特論H	講義	2											2					

※1 三宅 伸二、石原 敬子、沖野 光二、竹川 宏子、中本 淳、金子 哲、高野 敦子、堀池 聡、榎木 浩、西田 悦雄、穂積 隆広

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

()は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数	教員免許関係	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ				
					1年		2年		3年		4年							
					必修	選択	情報	商業	公民	I	II	I			II	I	II	
経済コース専修科目	ミクロ経済学	講義	④	◇					4									
	マクロ経済学	講義	④	◇					4									
	経営学総論	講義	②	▲					2									
	簿記演習Ⅱ	演習	2	▲					2									
	工業簿記	講義	2	▲					2									
	簿記論	演習	4	△								4						
	会計学入門	講義	2	△					2									
	会計学	講義	2	▲							2							
	会社法	講義	2								2							
	金融論	講義	2	▲							2							
	財政学Ⅰ	講義	2		◆							2						
	財政学Ⅱ	講義	2		◆								2					
	産業組織論Ⅰ	講義	2		◆							2						
	産業組織論Ⅱ	講義	2		◆								2					
	国際経済事情	講義	2		◆							2						
	環境経済論A	講義	2		◆							2						
	環境経済論B	講義	2		◆								2					
	地域経済論Ⅰ	講義	2		◆							2						
	地域経済論Ⅱ	講義	2		◆								2					
	社会政策Ⅰ	講義	2		◇							2						
	社会政策Ⅱ	講義	2		◆								2					
	証券市場論	講義	2	▲								2						
	経営戦略論Ⅰ	講義	2									2						
	経営戦略論Ⅱ	講義	2										2					
	財務諸表論Ⅰ	講義	2	▲								2						
	財務諸表論Ⅱ	講義	2	▲									2					
	情報会計論Ⅰ	講義	2	▲								2						
	情報会計論Ⅱ	講義	2	▲									2					
	労働経済論	講義	2										2					
	経済政策	講義	2										2					
	職業指導	講義	2	△									2					
	経済ビジネス特論A	講義	2									2						
	経済ビジネス特論B	講義	2										2					
	情報コース専修科目	情報数理	講義	②								2						
		プログラミングⅠ	講義	④	■							4						
		プログラミングⅡ	講義	4	■								4					
		情報システム学	講義	④	■								4					
		組合せ理論	講義	2							2							
		コンピュータ基礎論	講義	2	■							2						
		プログラミング入門	講義	2							2							
		オペレーティングシステム	講義	2	■							2						
		情報ネットワーク	講義	2	■							2						
		アルゴリズム	講義	2	■							2						
		情報デザイン	講義	2	■							2						
		オートマトン	講義	2	■								2					
情報セキュリティ		講義	2	■								2						
データベースⅠ		講義	2	■								2						
データベースⅡ		講義	2	■									2					
オペレーションズ・リサーチ		講義	2	■								2						
情報数学A		講義	2									2						
情報数学B		講義	2										2					
応用プログラミングA		講義	2										2					
応用プログラミングB		講義	2										2			穂積 隆広	196	
ソフトウェア設計論		講義	2									2						
情報検索論		講義	2	■									2					
情報倫理		講義	2	■									2					
情報管理論	講義	2	□									2						
情報システム特論A	講義	2									2							
情報システム特論B	講義	2										2						

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数				学年配当（数字は週当り授業時間）								平成28年度の担当者	ページ		
			教員免許関係		公民		1年		2年		3年		4年					
			必修	選択	情報	商業	I	II	I	II	I	II	I	II				
教職に関する科目	教職概論	講義		2	□	△	◇	2										
	教育原理	講義		2	□	△	◇	2										
	教育史	講義		2	■	▲	◆							2				
	発達心理学	講義		2	■	▲	◆				2							
	教育心理学	講義		2	□	△	◇		2									
	教育制度論	講義		2	□	△	◇		2									
	教育課程論	講義		2	□	△	◇			2								
	公民科教育法	講義		4	□		◇						4					
	情報科教育法	講義		4	□								4					
	商業科教育法	講義		4		△							4					
	特別活動論	講義		2	□	△	◎				2							
	教育方法・技術論	講義		2	□	△	◎				2							
	教育情報化演習Ⅰ	演習		2	■	▲	◆						2					
	教育情報化演習Ⅱ	演習		2	■	▲	◆							2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2	□	△	◇			2								
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2	□	△	◇							2				
	教育実習予備演習Ⅰ	演習		2	□	△	◇			2								
	教育実習予備演習Ⅱ	演習		2	□	△	◇				2							
	教職実践演習（高）	演習		2	□	△	◇									2	岡本 洋之	197
	教育実習事前事後指導	講義		1	□	△	◇									1	岡本 洋之	198～199
高等学校教育実習	実習		2	□	△	◇									2	岡本 洋之	200	

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
 △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
 ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業演習 I				
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、沖野 光二、竹川 宏子、中本 淳、金子 哲、高野 敦子、堀池 聡、榎木 浩、西田 悦雄、穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="checkbox"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="checkbox"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 1-5 論理的思考力 <input type="checkbox"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

各コース専修科目、3年次の「専門演習 I・II」で学んだことに基づいて、各自研究テーマを設定し、卒業研究に取り組む。授業では、教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を発展させていく。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考図書》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・3年次までに学んだことを、卒業研究のテーマに合わせてさらに発展させる。
- ・論理的に考える力を身につける。

《授業時間外学習》

各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》

各ゼミの担当者から説明する。

《備考》

2016年度II期の卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		※ 授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業演習Ⅱ				
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、沖野 光二、竹川 宏子、中本 淳、金子 哲、高野 敦子、堀池 聡、榎木 浩、西田 悦雄、穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

「卒業演習Ⅰ」で取り組んだ研究内容をさらに発展させ、卒業研究に取り組む。授業では、教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を発展させていく。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考図書》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・卒業研究を仕上げる。
- ・論理的に考える力を身につける。

《授業時間外学習》

各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》

各ゼミの担当者から説明する。

《備考》

卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		※ 授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、沖野 光二、竹川 宏子、中本 淳、金子 哲、高野 敦子、堀池 聡、榎木 浩、西田 悦雄、穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

「卒業演習Ⅰ」「卒業演習Ⅱ」で取り組んだ研究内容を卒業論文（もしくは作品）にまとめ、発表する。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考図書》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・卒業研究を仕上げる。
- ・論理的に考える力を身につける。
- ・自分が取り組んだ研究内容について、口頭発表や文章にまとめて伝える力を身につける。

《授業時間外学習》

卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《成績評価の方法》

指定された期間内に提出された卒業研究の内容をもって評価する。（提出物、提出期間など詳細については、決まり次第、掲示により通知する。）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	応用プログラミングB				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力				

《授業の概要》

現在のコンピュータは画面での表示をマウスで操作するGUIが主流となっています。この授業ではこのようなGUIベースのアプリケーションソフト開発の基礎としてMicrosoft社のVisual Basicを使用したプログラミングについて学びます。

《テキスト》

必要に応じてプリント等を配布します。

《参考図書》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

この授業ではまずVisual Basicを使ったウィンドウプログラミングの基礎として、アプリケーションウィンドウの作成法と、そのウィンドウ上のボタンなどを操作したときに記述した命令が実行されるイベント駆動型プログラミングについて学びます。また、それぞれのボタンやメニューなどのフォーム要素（コントロール）に対応したクラス変数について説明し、オブジェクト指向型プログラミングについても学びます。

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが、どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません。毎回予習として自分が作ろうとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください。また、授業内で作ったプログラムを振り返り、様々な課題に応用して復習するようにしてください。

《成績評価の方法》

毎回の課題（40%）と、期末試験（60%）によって評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Visual Basicの基礎	Visual Basicのプログラム開発環境について説明し、ウィンドウプログラミングの基礎を身に付ける。
2	電卓の制作	ウィンドウ上に配置したそれぞれのボタン類ごとにプログラムを記述し、動作させるイベント駆動型プログラミングについて説明する。
3	カレンダー	Visual Basicにおける変数の取り扱いや、条件分岐や繰り返しといった制御文について説明する。
4	並べ替え	Visual Basicにおける配列変数の取り扱いについて説明する。
5	タイピングゲーム	Visual Basicにおけるキー入力の取り扱いについて説明する。
6	時計	ウィンドウへの描画命令とタイマーイベントについて説明する。
7	ライフゲーム	ウィンドウへの描画命令とタイマーイベントを使った応用プログラムを作成する。
8	マインスイーパー	ウィンドウへの描画命令と再帰プログラミングの基礎を説明する。
9	画像ビューア	画像ファイルの取り扱いとウィンドウへのドラッグアンドドロップについて説明する。
10	テキストエディタ	ファイルの読み込みや書き込み時に使用するファイルダイアログの取り扱いについて説明する。
11	方眼紙	印刷ダイアログの取り扱いなど、ウィンドウに描画した内容の印刷方法について説明する。
12	リバーシ	ゲームの盤面をクラスとして定義したオブジェクト指向型プログラミングの考え方について説明する。
13	リバーシ	ゲームの盤面をクラスとして定義したオブジェクト指向型プログラミングの考え方に基づいてゲームを完成させる。
14	応用課題	まとめと復習
15	応用課題	まとめと復習

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（高）				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」,特に「人権問題」「モラルの構築」「環境問題」の3点を意識した高等学校教員となるため、以下の4事項を学ぶ。
 (1)「人権問題」をふまえた使命感や責任感、教育的愛情等、
 (2)「モラルの構築」をふまえた社会性や対人関係能力、(3)
 「環境問題」をふまえた教科内容等の指導力、(4)生徒理解や学級経営等。

《授業の到達目標》

授業のねらいは、皆さんが身に付けてきた資質能力を、「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」,特に「人権問題」「モラルの構築」「環境問題」の3点をふまえて教育現場で指導できる能力として有機的に統合し、形成することにある。教員として担当教科内容の枠にとどまらず、上記課題を意識して職責を果たすのに必要な視点を獲得することを目標とする。

《成績評価の方法》

課題（見学レポート等）（60％）と授業参加度（教職をめざす者としての態度・意欲、発表参加の度合い等）（40％）により評価する。

《テキスト》

特には指定せず、必要に応じて印刷物を配布する。

《参考図書》

- ・西之園晴夫・宮寺晃夫『教育の方法と技術』（佛教大学教育学叢書）
- ・兵庫県在日外国人教育研究協議会他編『多文化・多民族共生教育の原点』（明石書店）
- ・伊井義人監修『藤女子大学人間生活学部公開講座シリーズ3 フューチャースクール×地域の絆@学びの場』（六耀社）

《授業時間外学習》

科目の性質上、意欲的な自学自習が求められる。

《備考》

本授業は学外の方々のご協力をいただいで行う関係上、時間割上の時間をしばしば変更して実施せざるをえない。そのため掲示等には十分注意されたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教員紹介、本授業の目的、学習目標、学習方法、評価方法等
2	モラルの構築(1)	学童保育所等見学の事前学習（説明と質疑）
3	モラルの構築(2)	学童保育所等見学第1回
4	モラルの構築(3)	学童保育所等見学第2回
5	モラルの構築(4)	学童保育所等見学の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
6	環境問題(1)	高等学校授業見学第1回の事前学習（説明と質疑）
7	環境問題(2)	高等学校授業見学第1回（高等学校教員との意見交換を含む）
8	環境問題(3)	高等学校授業見学第1回の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
9	生徒理解と学級経営等(1)	高等学校授業見学第2回の事前学習（説明と質疑）
10	生徒理解と学級経営等(2)	高等学校授業見学第2回（高等学校教員との意見交換を含む）
11	生徒理解と学級経営等(3)	高等学校授業見学第2回の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
12	人権問題(1)	小・中・高校生補習教室等見学の事前学習（説明と質疑）
13	人権問題(2)	小・中・高校生補習教室等見学（NPOスタッフ等との意見交換を含む）
14	人権問題(3)	小・中・高校生補習教室等見学の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
15	全体総括	「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」を意識して職責を果たすこと。総括と質疑

《教職に関する科目》

科目名	教育実習事前事後指導				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。Ⅰ期のおおよその予定は次の通りである。

- (1)教育実習事前学習会(模擬授業)--4月および5月
- (2)教育実習に関する講話--同上, (3)教育実習報告会--6月

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』

《参考図書》

「高等学校教育実習」のページを参照

《授業の到達目標》

事前指導としては、教育実習の目的、実習校の立場・状況、高校生の関心度を理解し、実習期間中の態度と教員としての認識を深める。事後指導としては、実習報告書の作成と実習報告会を通して、実習生各自の体験を深めるとともに、教員としての資質の充実をはかる。

《授業時間外学習》

科目の性質上、意欲的な自学自習が求められる。このほか、インターンシップを行うことがある。

《成績評価の方法》

Ⅱ期分と合わせ、平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。基本的に全回出席を単位の条件とする。なお教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき、上記「授業の概要」の内容を変更することがある。

《備考》

時間割上は土曜午後に一時間だけ設定されているが、4・5月は長引くのがふつうであると考え、同月の土曜午後には他の予定をいっさい入れないこと。それ以後は不定期開講とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		不定期開講につき本表では表示できない。学修時間の合計をもって「通年1単位」としているのであり、本授業においては授業回数と単位数につながりはない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	教育実習事前事後指導				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。Ⅱ期のおおよその予定は次の通りである。

- (1) 高等学校授業見学--秋
- (2) 兵庫県播州地域に特有の教育問題に関する特別見学--冬

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』

《参考図書》

「高等学校教育実習」のページを参照

《授業の到達目標》

事前指導としては、教育実習の目的、実習校の立場・状況、高校生の関心度を理解し、実習期間中の態度と教員としての認識を深める。事後指導としては、実習報告書の作成と実習報告会を通して、実習生各自の体験を深めるとともに、教員としての資質の充実をはかる。

《授業時間外学習》

科目の性質上、意欲的な自学自習が求められる。このほか、インターンシップを行うことがある。

《成績評価の方法》

I期分と合わせ、平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。基本的に全回出席を単位の条件とする。なお教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき、上記「授業の概要」の内容を変更することがある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		不定期開講につき本表では表示できない。学修時間の合計をもって「通年1単位」としているのであり、本授業においては授業回数と単位数につながりはない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

受講生は全員が、定められた期間、あらかじめお願いをしていた高等学校で、受入れ校の指導教員のアドバイスを承りながら、学校教育の見学と実践を行う。

《授業の到達目標》

教科に関する科目と教職に関する科目の総決算ともいえる教育実習を行う。具体的内容として、(1)実習に臨む態度、実習校の組織と実習生受入れの立場、事前訪問時の書類作成、(2)教科指導(教材研究と資料の準備、指導案作成、授業運営)、(3)生徒指導(注意のあり方、体罰禁止等)、(4)実習日誌の書き方などについて、実習校の指導教員が具体的・現実的に教育指導し、本学の担当者が責任をもつ。

《成績評価の方法》

実習受入れ校の指導教員の所見(100%)に基づいて合否を決定する。ただし教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき、柔軟に運用することがある。

《テキスト》

とくに定めないが、全員が『教育実習日誌』と『教育実習の手引き』を実習校に毎日持参し、日誌の所定欄に記入するとともに、指導教員に所見等の記入をお願い申し上げること。

《参考図書》

- ・教育実習を考える会編『実践「教育実習」』教育実習を考える会編(蒼丘書林)
- ・教師養成研究会編著『教育実習の研究』(学芸図書)
- ・白井慎他編著『教育実習57の質問』(学文社)

《授業時間外学習》

授業の性質上、各自で積極的に行うことは言うまでもない。

《備考》

本科目を履修登録するためには、別に定められた単位取得に関する要件をクリアしたうえで、前年度のうちに実習校から教育実習受入れ内諾を得ていなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		授業の性質上、本表では表示できない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業科目一覧索引 (50音順)

授 業 科 目 の 名 称	ペー ー ジ
<ア> アルゴリズム	101
<イ> いなみ野ため池学	134
インタレンシブ	136
<オ> 応用プログラミングA	172
応用プログラミングB	196
オートマトン	165
オペレーションズ・リサーチ	169
オペレーティングシステム	99
<カ> 会計学	91
会計学入門	90
会社法	92
化学	36
環境経済論A	145
環境経済論B	146
韓国語 (初級)	43~44
韓国語 (中級)	45~46
<キ> 教育課程表	104
教育史	179
教育実習事前事後指導	198~199
教育実習予備演習 I	108
教育実習予備演習 II	109
教育情報化演習 I	186
教育情報化演習 II	187
教育相談 (カウンセリングを含む)	188
教育方法・技術論	106
教職実践演習 (高)	197
行政学 I	78
行政学 II	133
金融論	93
<ク> 組合せ理論	96
<ケ> 経営学入門	70
経営学総論	87
経営戦略論 I	152
経営戦略論 II	153
経済学	35
経済情報特論G	137
経済情報特論H	138
経済数学A	72
経済数学B	73
経済政策	159
経済ビジネス特論A	161
経済ビジネス特論B	162
経済学入門	69
経済情報特論E	81~82
経済情報特論F	83~84
芸術	24
健康・スポーツ科学 I (講義)	47~48
健康・スポーツ科学 II (演習)	49
健康・スポーツ科学 III (演習)	50
現代思想論	75
現代社会文化論	76
現代経済社会論B	67
<コ> 工業簿記	89
高等学校教育法	200
公民科教育法	180~181
国際社会論	77
国際理解と宗教 I (キリスト教)	27
国際理解と宗教 II (イスラム教)	28
国際経済事情	144
コンピュータ基礎論	97
<サ> 財政学 I	140
財政学 II	141
財務諸表論 I	154
財務諸表論 II	155
産業組織論 I	142
産業組織論 II	143

授 業 科 目 の 名 称	ペー ー ジ
<シ> 色彩とデザイン	29
実用英語 (初級)	39
実用英語 (中級)	40
社会学	34
社会政策 I	149
社会政策 II	150
商業科教育法	184~185
証券市場論	151
情報科教育法	182~183
情報管理論	176
情報検索論	174
情報システム学	164
情報システム特論A	177
情報システム特論B	178
情報指導	160
情報数学A	170
情報数学B	171
情報数理	94
情報セキュリティ	166
情報デザイン	102
情報ネットワーク	100
情報倫理	175
情報会計論 I	156
情報会計論 II	157
食と健康	38
人権の歴史	32
心理学	25
<セ> 政治学	33
生徒指導論	107
生物学	37
生命倫理学	21
専門演習 I	115~123
専門演習 II	124~132
<ソ> 卒業研究	195
卒業演習 I	193
卒業演習 II	194
ソフトウェア設計論	173
<チ> 地域経済論 I	147
地域経済論 II	148
中国語 (初級)	41
中国語 (中級)	42
<テ> データベース I	167
データベース II	168
哲学	22
<ト> 統計学	74
特別活動論	105
<ニ> 日本国憲法	31
<ハ> 発達心理学	103
発展演習 I	57~60
発展演習 II	61~64
<ヒ> 比較文化論	79
<フ> フィールドワーク	80
仏教と現代社会	26
プレゼンテーションA	65
プレゼンテーションB	66
プログラミング I	95
プログラミング II	163
プログラミング入門	98
文学	23
<ホ> 法と社会	30
簿記演習 I	68
簿記論	139
簿記演習 II	88
<マ> マクロ経済学	86
<ミ> ミクロ経済学	85
民法	71

授 業 科 目 の 名 称	ペー ー ジ
<メ> メディアと政治	135
<ロ> 労働経済論	158
<ワ> 私のためのキャリア設計	51

